

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・ 殺傷事件についての公文書と民間記録— 東京の記録から

田 中 正 敬

1. はじめに

関東大震災時に起こった朝鮮人虐殺の経緯、経過と実態の解明については、姜徳相氏の一連の研究に負うところが大きい。その集大成として編まれた『関東大震災』（中公新書、1975年、その後増補改訂等がなされている⁽¹⁾）は、概説書の形式を取りながらも今なお関東大震災時の朝鮮人虐殺を知るための必読研究書である。また、姜徳相・琴秉洞編『現代史資料 6 関東大震災と朝鮮人』（みすず書房、1963年）、朝鮮大学校編『関東大震災における朝鮮人虐殺の真相と実態—朝鮮に関する研究資料 第9集』の2つの史料集は、研究を行なう上で最も基本となる史料集である。以後、琴秉洞編『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅰ～Ⅳ』（1～4）のシリーズ⁽²⁾、平形千恵子、大竹米子編集『関東大震災政府陸海軍関係史料 Ⅰ巻 政府・戒厳令関係史料』、田崎公司、坂本昇編集『同 Ⅱ巻 陸軍関係史料』、田中正敬、逢坂英明編集『同 Ⅲ巻 海軍関係史料』（全て松尾章一監修、日本経済評論社、1997年）、山田昭次偏『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅴ—朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』（1～4、別巻、緑蔭書房、2004年）等の史料集が刊行されてきた。

(1) 『[新版] 関東大震災・虐殺の記憶』（青丘文化社、2003年）、『新装版 関東大震災』（新幹社、2020年）。

(2) 緑蔭書房より『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅰ—朝鮮人虐殺関連児童証言史料』（1989年）、『同Ⅱ—朝鮮人虐殺関連官庁史料』（1991年）、『同Ⅲ—朝鮮人虐殺に関する知識人の反応』（2巻組、1996年）、『同Ⅳ—朝鮮人虐殺に関する植民地朝鮮の反応』（1996年）を出版。

一方、同じく関東大震災を契機として引き起こされた中国人虐殺関連については、今井清一「大島町事件・王希天事件と日本政府の対応」（藤原彰・松尾尊允編『論集 現代史』（筑摩書房、1976年、後に『関東大震災と中国人虐殺事件』朔北社、2020年、所収）や田原洋『関東大震災と王希天事件—もうひとつの虐殺秘史』（三一書房、1982年）、仁木ふみ子『震災下の中国人虐殺—中国人労働者と王希天はなぜ殺されたか』（青木書店、1993年）等を嚆矢として研究が進められてきた。史料集としては、今井清一監修、仁木ふみ子編『史料集—関東大震災下の中国人虐殺事件』（明石書店、2008年）が刊行され、中華民国政府における調査史料の分析も進んでいる（小笠原強・宮川英一「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む」⁽³⁾のシリーズ）。

虐殺が起こった各地域でも、これまで関係史料の発掘と、地域の市民による目撃者、体験者への聞き書き等の調査により、真相究明が進んできた⁽⁴⁾。本稿が対象とする東京市および東京府では、旧四ツ木橋（現在の八広駅近く）周辺における官民による虐殺事件の聞き書きを中心に、東京の東部地域（旧南葛飾郡とその周辺）や韓国での調査を行なった、関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会編『風よ鳳仙花の歌をはこべ—関東大震災・朝鮮人虐殺から70年』（教育史料出版会、1992年、後に増補新版を刊行）がその代表例である⁽⁵⁾。地域での真相究明と同時に、関東大震災時の虐殺の犠牲者の追悼も活動の一環として行なわれている⁽⁶⁾。

(3) 小笠原強・宮川英一「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む（1）～（5）—中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』（『専修史学』（58、61、63、65、67、2015～2019年）。併せて、小笠原強「関東大震災下の中国人虐殺と『日本震災惨殺華僑案』（『同』64、2018年）を参照。

(4) 以上の先行研究の整理については、拙稿「関東大震災時の朝鮮人虐殺と地域における追悼・調査の活動と現状」（『大原社会問題研究所雑誌』669、2014年）を参照。

(5) この他東京で調査研究を行なった成果として、日朝協会豊島支部編『民族の棘—関東大震災と朝鮮人虐殺の記録』（日朝協会豊島支部、1973年）、九・一関東大震災朝鮮人虐殺事件を考える会編『抗はぬ朝鮮人に打ち落とす鳶口の血に夕陽照りにき—九・一関東大震災朝鮮人虐殺事件六〇周年に際して』（同会、1983年）がある。丸浜昭氏は世田谷区烏山の朝鮮人殺傷事件の真相究明を行ってきた。成果として、同「生徒と調べた関東大震災時の烏山における朝鮮人虐殺事件」（『東京の歴史教育』14、1984年）、同「自治体史のなかの朝鮮人殺害事件—東京を事例として」（『歴史評論』521、1993年）がある。

(6) 東京に限定しても、毎年9月に朝鮮人虐殺犠牲者については横網町公園の東京都

その一方で、東京に限っても関東大震災時の虐殺の実態が明らかになっていない地域がある。また、中国人や日本人の虐殺については別個に研究されてきたために、こうした事件も含めてトータルに虐殺の様相を知ることが困難である。虐殺事件の周辺で身体的、精神的に深い傷を負ったものの、まさしく「運よく」死を免れた人びとについても明らかにする必要がある。

以上のことを踏まえて、本稿では東京の各地域における様々な「人災」についての情報を集積することを課題としたい。以下、本稿では虐殺、傷害事件を一括して「殺傷事件」と呼ぶこととする。

山田昭次氏が指摘するように虐殺の実態は国家権力により隠蔽され、被害の調査、加害者の検挙や責任者の処罰は徹底されなかった。そのことが事件の記録の欠如や事実がゆがめられることにもつながった⁽⁷⁾。虐殺の実態を直接目撃し体験した人々も亡くなり、新たに直接の体験者の証言を聞き書きしたり映像化する⁽⁸⁾ことは、もはや不可能な時代になってしまった。

しかしながら他方で筆者は、各地域の虐殺についてより詳しく知り得る余地はあると考えている。それは、民間人による回想や日記などの記録を利用することである（以下、「民間記録」と略す）。

調査が進んだ地域を除いて、これまでの研究では公文書に依拠する傾向が強かった。だが、近年画期的な史料集が刊行された。それは『風よ鳳仙花の歌をはこべ』の調査に加わった西崎雅夫氏が、東京における虐殺の回想や証言を収集し纏めた『関東大震災朝鮮人虐殺の記録—東京地区別 1100 の証言』（現代書館、2016 年）である。西崎氏は前述の『風よ鳳仙花の歌をはこべ』

慰霊堂脇と虐殺現場であった旧四ツ木橋近くの荒川河川敷で、中国人虐殺犠牲者については東大島で、亀戸事件犠牲者については亀戸の赤門浄心寺で、それぞれ追悼式が行われている。

(7) 山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺—その国家責任と民衆責任』（創史社、2003 年）第 3 章と第 6 章、同『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後—虐殺の国家責任と民衆責任』（創史社、2011 年）第 2 章。

(8) 各地域で進められてきた被害者の追悼と虐殺の調査については、田中正敬・専修大学関東大震災史研究会編『地域に学ぶ関東大震災—千葉県における朝鮮人虐殺—その解明・追悼はいかになされたか』（日本経済評論社、2012 年）を参照。また、貴重な映像記録として、呉充功監督作品『隠された爪跡—関東大震災と朝鮮人虐殺』（1983 年）、『払い下げられた朝鮮人—関東大震災と習志野収容所』（1986 年）の二つが挙げられる。

のメンバーの一人であり、その後も東京中の公共図書館を巡って、現在の東京都の範囲内における震災時の流言や虐殺について書かれた記録を収集・整理してきた。本書はかかる一連の取り組みを収録した労作である。もう一つ、筆者が考える本書の価値は、収録対象が朝鮮人とどまらず中国人や日本人の殺傷事件に亘っていることである。

そこで本稿では、朝鮮人、中国人、日本人に対する流言や殺傷事件について、これまで発掘され史料集等に収録されてきた公文書の記録と、西崎氏の仕事により収集された民間記録を一覧表にして比較対照できる材料を提示することとしたい。対象とする地域は、東京市、東京府の範囲とし、一覧表に収録するデータは基本的に前述の史料集所収のものおよび若干の補充に限定する。

本稿末に、主として公文書を〔表1〕に、民間記録を〔表2〕に纏めた。これは史料について概要を記したもので、地名や内容について省略がある。また、筆者の取捨選択、区分や要約が妥当なものか、データに見落としや誤りがないかどうかについては、当然問題となり得るところである。そのため今回表に収録したデータは、なるべく公共図書館等において閲覧可能で検証しやすいものにとどめた。なお、中国人や日本人の殺傷事件については筆者の準備不足によりいまだ不十分なものとどまっている。また、この一覧表はあくまで概要を記したもので、省略部分があることも申し述べておきたい。

したがって、読者におかれてはこの一覧表をそのまま利用するのではなく、ぜひデータ元の史料集等を併せて参照されたい。筆者はこの一覧表を作成する過程で流言発生の様相とその原因、これまで詳しく論じられてこなかった地域での虐殺事件について、別稿において若干の考察をしたので、あわせてご一読いただきたい⁽⁹⁾。

この作業を通じて、具体的には次の三点を明らかにしたい。第一に、公文書と民間記録それぞれの史料の性格について確認する。第二に、表から東京府における各地域のどこで被害が起こったのかを纏める。第三に、一連の表

(9) 伊藤俊介・小川原宏幸・慎蒼宇編『「下から」歴史像を再考する—全体性構築のための東アジア近現代史』(有志舎、2021年)に「東京における関東大震災時の流言と朝鮮人虐殺—公文書と民間記録の対照から」という表題で掲載する予定である。

から読み取り得る事件の概要、被害者、加害者のデータについての比較検討を通じて若干の考察を試みたい。

次章では、公文書と民間記録それぞれをもとに作成した表について解説するとともに、その特徴について述べることにしたい。史料上の用語として「鮮人」「支那人」などの差別用語を使わざるを得ない記述があることをお断りしておく。

2. 表に見る公文書と民間記録の特徴

(1) [表 1] について

まず、文末に掲げる [表 1]、[表 2] について説明する。[表 1]、[表 2] の表には、それぞれ 201 番、537 番までの史料番号が振られている。このうち [表 1] は公文書およびこれに準ずると評価した史料をもとに作成したものである。左から便宜上それぞれの史料データに番号を振った「史料 No.」欄、「原典・頁」欄（頁は原則として該当する記述が含まれた文書の先頭部分で、該当部分の頁とは限らない）がある。なお、「史料 No.」欄の左側には史料集等の記号（み、新別、等）、右側には公文書の場合には「公」の字を付している。

ついで「月日」、「時間」、「地域」と続く。その隣の「区分」欄では、原史料の記述を、流言、迫害、検束、傷害、殺害、殺害などに分けている。「迫害」という用語は、基本的に原史料の表記に従ったものである。傷害や殺害に限らず検束や迫害の中にも殺傷の事例が含まれているのではないかと推測されるが、具体的な内容をこの記述からは明らかにできない。「被害者・対象者」欄には流言の対象となった人びと（ほぼ朝鮮人）や証言者の名前を記した。続いて「加害者・関係者」欄（記述の内容から推測したものを含む）、「内容」欄となっている。

データの並び順は [表 1] と [表 2] の表記を揃えるために、[表 2] と同様に現在の東京都の行政区分に従い配列しており、本文でも現在の区、市の名称を使うこととする。原史料に書かれている当時の地名は、「地域」欄に記載しておいた。

[表1]のデータについては、前掲『現代史資料』（表中の「原典・頁」欄に「み」と表記）、前掲『関東大震災政府陸海軍関係史料』Ⅱ巻、Ⅲ巻（同欄に「経②」「経③」と表記）の各史料集所収の公文書をもとにしている。また、東京市『東京震災録』（前輯、1926年）中の「陸軍省及陸軍の活動」（同欄に「市」と表記）、前掲「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む（3）」（同欄に「専」と表記）、吉河光貞『関東大震災の治安回顧』（昭和二十四年九月特別審査局資料第一輯（禁転載）、法務府特別審査局、1949年、同欄に「吉」と表記）からもデータを補充している。

前掲『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』別巻（同欄に「新別」と表記）は当時の民衆による殺傷事件（以下、「自警団事件」と総称）のうち、容疑者の逮捕、予審、裁判の判決について新聞で報道されたものを一覧にしたものである。情報源は公文書そのものではなく新聞記事であるが、東京の自警団事件における裁判記録そのものはほとんど見ることができないために⁽¹⁰⁾、次善の策としてこれ公的な記録に準ずるものとしてここに組み込んだ。なお、後述する表2の民間記録のデータの中にも新聞記事が含まれており、一部が表1のデータと重複している（表2の新聞記事は「原典・頁」欄の右に「新」と記している）。

上を纏めると、「原典・頁」欄の記号は、左側に出典、中の数字が頁数、右にある「公」は筆者が公文書、もしくは公文書に準ずるものと判断したことを示している。たとえば[表1]冒頭の「み135公」というのは、みすず書房の『現代史資料』の135頁で公文書と判断したという意味である。その他の記号については表の備考欄を参照されたい。

次に、データの原史料について紹介する（以下、史料集の表題をそのまま記す）。

『現代史資料』より収録したデータのうち、「み39公～み62公」は警視庁

(10) その少数の例外として、山田昭次編『関東大震災朝鮮人虐殺裁判資料』（1埼玉県関係・2群馬県関係、緑蔭書房、2014年）がある。また、藤野裕子「関東大震災時の朝鮮人虐殺と向き合う—災害時の公権力と共同性をめぐって」（歴史学研究会編『震災・核災害の時代と歴史学』青木書店、2012年、のちに同『都市と暴動の民衆史—東京・1905—1923年』有志舎、2015年、所収の第八章「朝鮮人虐殺の論理」）は、表1史料No.11、12の事件の裁判記録に基いた分析を行なっている。

編『大正大震災火災誌』(1925年)、「み115公～118公」は「海軍省法務局文書」、「み119公」は『東京震災録』前輯(1926年)、「み128公～み137公」は『東京震災録』別輯(1927年)、「み256公」は「日本政府震災朝鮮人関係文書」、「み428公～み449公」は『震災後に於ける刑事事犯及之に關連する事項調査書 秘』(後藤新平文書)、「み465」は『法律新聞』である。

『関東大震災政府陸海軍関係史料』Ⅱ巻より収録したデータのうち、「経②6公」は『秘 関東戒嚴司令部詳報 第1巻』、「経②160公～165公」は「震災警備ノ為兵器ヲ使用セル事件調査表」(『同 第3巻』所収)、「経②704公」は九月五日午後九時於近衛師団司令部 北警備区司令官 近衛師団長、戒嚴司令官宛「報告」が原史料である。

『関東大震災政府陸海軍関係史料』Ⅲ巻からは、「経③103公」の「極秘 海軍省法務局「不逞鮮人ヨリ獲タル暴行用約束符号」」、「経③104公」の史料No.33は「不逞鮮人ニ関スル件」大正十二年九月二日午後八時 膠州特務艦長 藤吉駿、史料No.86は「極秘 海軍省法務局」という史料を収録した。「経③105公～114公」は編者により「赤羽火薬廠爆薬部関連史料」(滝野川の海軍火薬廠爆薬部の報告)として纏められた史料群である。「新別264～322」は『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』(別巻)における裁判等についての整理を参照したものである。

中国人虐殺、日本人虐殺については、基本的には上述の史料集等に記載されたものを参照するにとどまっている。上記に含まれていない中国人傷害事件「専128中」(「中」は中国で作成されたことを表わす)は、「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む(3)」所収の中華民国北京政府外交部文書、『日本震災惨殺華僑案』第四冊を参照したものである。

最後に、前掲、吉河光貞『関東大震災の治安回顧』(昭和二十四年九月特別審査局資料第一輯(禁転載)、法務府特別審査局、1949年)について説明する。本書は関東大震災時の流言・虐殺に関する原史料に基づいて書かれたものである。いま、筆者の手元にあるものには「部外秘」のシールが貼られており、タイトルからも一般向けに刊行されたものでないことは明白である。筆者はリヒャルト・ゾルゲの取調べを行なった検察官として知られる人物であるが、彼は本書の目的を、「司法研究所研究員として、この関東大震災の治

安状況とこれに対する対策、措置等について、若干の研究を纏めた」ものとしている。要するに、震災下での治安対策を検証し、これを敗戦後における取締りの参考に供するために作成されたものである。この点において上記の史料集とは異なり、「調査研究」の類と位置づけられる。本書で参照された裁判記録、司法大臣官房秘書課が保管していた『大正十二年震災に伴ふ犯罪事件』、企画院官房調査課、東京市政特別図書館所蔵史料が「戦災で烏有に帰し」⁽¹¹⁾たとされるなかで、原史料ではないけれども人災について知るための重要な手がかりであることは間違いない。一方人名等は一部しか記載されず、亀戸事件等の例外はあるものの官憲の犯罪には例外を除き触れられていない。

次に〔表1〕に見られる特徴について概観する。ここに纏めたデータから、既知に属することがらを含めて次の点を概要として指摘しておく。

第一に、公文書に挙げられたデータは日時や場所が比較的明瞭に記されている。ただし、誤植や隠蔽、虚偽が含まれていることには注意せねばならない。

〔表1〕に記載したのは流言、殺傷事件についての記録であるが、これを日付順に並べると9月1日が9件、2日が87件、3日が68件、4日が21件、5日が11件、その後は全て1件ずつである。このことから、2日、3日における流言や殺傷事件についての記録の際だった多さを指摘できる（殺傷事件の規模の問題は省いている）。

第二に、軍隊や警察による殺害については、ほとんど全てが内部史料、とりわけ秘密扱いの文書にしか書かれていないことがわかる。これが書かれているのは、ほぼ前述の「経②160～165公」の「震災警備ノ為兵器ヲ使用セル事件調査表」と、「み428公～み449公」の司法省『震災後に於ける刑事事犯及之に関連する事項調査書』中の「第十章 軍隊の行為に就て」に留まっている（例外あり）。しかも後述するように民間記録との対照からも、これが軍隊や警察が起こした事件の全てでないことは明らかである。

一方、民間人による朝鮮人、中国人、日本人殺害事件については、『震災後に於ける刑事事犯及之に関連する事項調査書』に表出されている。しかし、

(11) 同書、「はしがき」より。

これも事件を全て記したものとは言い難い。

公文書は、記述が杜撰で誤植が見られることも問題である。[表 1] の冒頭からもわかるように朝鮮人被害者の名前が史料により異なる例は、枚挙に暇がない⁽¹²⁾。

(2) [表 2] について

次に、前掲『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』から作成した [表 2] について説明する。ここに収録したデータには、同書所収の「自伝・日記・郷土資料」⁽¹³⁾、市民団体による聞き取り調査等で得られた証言、新聞記事が含まれている。これらの多様な史料を「民間記録」と一括するのには躊躇するが、さしあたりここでは公的な機関やこれに所属していた人間による記述ではないもの（一部例外あり）、という意味で使うこととする。

[表 2] は、左から史料番号を振った「史料 No.」、本書での記載頁を表す「頁」、「地域」、「被害者・対象者」、「加害者・関係者」、「内容」欄で構成されている。「頁」には頭に「西」の字を入れて [表 1] 収録の諸史料と区別している。たとえば、冒頭の「西 12」は前掲『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』の 12 頁にその項目の史料が収録されていることを表している。その下の「西 17 新」は、その原史料が容疑者の逮捕や裁判等の新聞記事であることを表す。「地域」については、『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』の区分に従っている。

『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』には、知識人から市井の人々に至るまでの多様な記録が収められているが、[表 2] にはその全てを記載しているわけではない。

第一に、新聞については若干の例外を除き加害者が検挙されて判決に至る過程の記事以外は収録していない。周知の通り、新聞には流言をそのまま記した記事もあり、とりわけ震災直後の記事については史実であるかどうかの検証が必要となる。新聞記事の取り扱いについては今後の課題としたい。

(12) こうした曖昧さについて姜徳相氏は、あいまいな記述は殺害をごまかす意図があったこと、その前提として「不逞朝鮮人」なら殺してもよい、という意識が読み取れると指摘している（前掲『虐殺の記憶』107 頁）。

(13) 『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』4 頁。

第二に、流言についてのみ述べた記録は、いくつかの例外を除いて本表には含めなかった。本書に収録されている史料には流言のみに言及した記録も多く収録されており、これを全て〔表 2〕に組み込んでしまうと分量が歴大になってしまうことと、それから流言に関する記述は時間や場所の情報が曖昧なものが多いためである。ただし、流言と官憲との関わりを示す記述、朝鮮人や中国人被害者や目撃者の証言や回想については、上記の原則にかかわらず収録した。

次に、〔表 2〕に見られる特徴を検討する。

震災下の状況で正確に出来事を記録、あるいは記憶するのは困難である。「内容」欄には日時について確定できる記述は多くない。〔表 1〕の「月日」「時間」欄が〔表 2〕にないのはこのためであり、特定できるものは「内容」欄に記載している。記録は多岐に亘っており、流言、拘束、殺傷、あるいは保護といったものが同時に記される場合、あるいは実見ではなく伝聞にとどまるものも少なくないので、〔表 1〕のような「区分」欄も設けていない。また、地域が特定できないものについては表 2 には収録していない。

以上のように、『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』から〔表 2〕に収録できなかった記録があるので、本稿を利用される場合にはぜひ本書を併せて参照されたい。

『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』は、「1100 の証言」という表題にあるように、膨大な記録を所収している。しかし、実際はこの記録以外にも殺傷事件は起こっていたはずである。「迫害」として纏められてしまったものを含めて殺傷事件を全て知ることは、残念ながら現状では不可能になってしまった。

目撃談を語ることへのためらい、タブーを記すことにより地域から疎外されることへの懸念など、民間記録にはそれが記録されるまでのハードルが存在する。その記述に「どこからともなく流言が来た」式の婉曲な表現、日時や場所についての曖昧さや誤りも見受けられる。それでもなお、民間記録には公文書とは異なり個々の体験から描き出されるリアリティがあり、流言や事件をめぐる人と人との関係や行動が記述の中から浮かびあがるのである。

3. [表 1]・[表 2] から流言・殺傷事件を確認する

(1) [表 1]・[表 2] に見られる流言の記録

殺傷事件を引き起こした流言はいつ、どこで起こっていたのだろうか。9月2日以降には東京のほぼ全域で流言が発生していたことは[表 1]からも確認できる。

一方、9月1日の流言の記録は、公文書を見る限りそれほど多くない。警視庁では1日午後3時に朝鮮人と社会主義者についての流言が記録されている(表1史料No.200)。

ここで朝鮮人に関わる9月1日の流言と殺傷事件の記録を[表 1]で確認してみよう⁽¹⁴⁾。注記がないものは全て流言である。また、時間や地名は原則として記録の通り記載している。

[表 1]では、江戸川区1件、北区2件、墨田区1件、中央区1件、千代田区1件、豊島区1件、港区1件の計8件が確認できる⁽¹⁵⁾。なおここでは、流言の対象が朝鮮人であるかどうか曖昧なもの、地名が不明確なものは省いている。

一方、[表 2]にはより多くの記録がある。同様に確認すると、荒川区1件、大田区1件、北区1件、江東区7件、品川区4件、渋谷区3件、新宿区2件、墨田区20件、台東区4件、中央区2件、千代田区5件、豊島区2件、中野区1件、文京区2件の、計55件である⁽¹⁶⁾。

(14) 註9に記した拙稿を脱稿した後にも記録を補充、見直しているの、拙稿と本稿では若干数値が変わった部分がある。ただし全体の傾向に大きな相違はない。

(15) 江戸川区(午後8時、小松川警察署管内、史料No.24、以下数字は全て史料No.を指す)、北区(夜、火薬廠、34)、(午後4時、王子警察署管内、42)、墨田区(夜、柳島元町、126)、中央区(夜中、月島4丁目付近での兵士による殺害事件、146)、千代田区(外神田警察署管内、150)、豊島区(巣鴨警察署管内、161、なお160には巣鴨刑務所の囚人が脱走したとの流言も記録されている)、港区(愛宕警察署管内、184)。

(16) 荒川区(日暮里で殺害、史料No.29、以下同じ)、大田区(夜、大森で朝鮮人を交番に「突き出した」、54)、北区(午後、滝野川、248)、江東区(深川門前山本町で殺害、96)、(夜半、大島、118)、(夕方、亀戸、129)、(晩、亀戸、133)、(夜、柳島橋で殺害、137)、(晩、旧羅漢寺、153)、(晩、砂町小学校、526)、品川区(夕方6時、大井町で自警団の警戒、177)、(夕方、大井町?、179)、(品川、184)、(夜、品川、制服の巡査が警戒を呼びかける、187)、渋谷区(夕、196)、(記述から判断すると代々木

また、この〔表 2〕では流言のみについて触れた記録は省いているので、これを『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』から直接確認してみよう。9月1日には、足立区2件、荒川区1件、北区3件、江東区7件、品川区4件、渋谷区2件、新宿区2件、墨田区6件、世田谷区2件、台東区5件、中央区2件、千代田区6件、豊島区1件、練馬区1件、文京区4件、港区6件、目黒区1件、その他1件の計57件の流言があったことが確認できる⁽¹⁷⁾。

新町、200)、(夜、代々木初台、203)、新宿区(あるいは豊島区か、目白大学と長崎で自警団が警戒、33)、(角筈、234)、墨田区(夕方、東あずま公園近くで憲兵が扇動した殺傷、246)、(夜、小村井、250)、(夜、雨宮ヶ原で殺害、255)、(真夜中、雨宮ヶ原で殺害、256)、(夜9時、請地で加害、257)、(午後、請地で殺害、261)、(夜半、白鬢橋付近、285)、(夜、寺島?、291)、(夕暮、東向島、292)、(寺島、296)、(夜、寺島、300)、(夜、旧四ツ木橋で拘束、301)、(夜、玉野井、303)、(晩、荒川土手で殺害、327)、(夜遅く、荒川土手付近、330)、(夕方、四ツ木橋のたもとで加害、350)、(晩、四ツ木橋で自警団ができた、354)、(夜、四ツ木橋付近で自警団に拘束、356)、(四つ木近く?、360)、(夜半、旧四ツ木橋で殺害、361)、台東区(夕刻、浅草周辺、382)、(夜、浅草公園で自警団が活動、388)、(夜、谷中、417)、(夜、谷中、419)、中央区(夜、佃島、428)、(午後、銀座通りで朝鮮人を切ったという話、435)、千代田区(夜、麴町七丁目の市電通りで加害か、213)、(夕方、飯田橋?、442)、(夜、警視庁で官房主事が朝鮮人むぼんの噂を触れ回るよう指示、443)、(夜、宮城前広場、444)、(夜、警視庁で?官房主事が淀橋、中野、寺島警察署から爆弾投毒の犯人を検挙との情報を得た、448)、(夜、丸の内の電信隊が男を縛り付けている場面、449)、豊島区(大塚、457)、(夜、目白の自宅に警察から警戒情報、464)、中野区(夕刻、上高田、471)、文京区(真夜中、大塚、475)、(夕方、曙町交番の巡査が警戒を通知、501)。

(17) 足立区(竹の塚、13頁、以下の数字も頁数)、(夕方、西新井、15)、荒川区(夜、三河島、23)、北区(夕暮れ近く、滝野川、75)、(夜、滝野川?、75)、(夜、田端、80)、江東区(夜、大島5丁目、89)、(夜、大島?、93)、(夜、大島町、100)、(夜、亀戸、104)、(午後6時頃、亀戸天神、106)、(夜、中川のへり、108)、(夜、亀戸水神森、108)、品川区(夕食時、桐ヶ谷、128)、(日暮れ、中延、128)、(午後3時頃、中延?、130)、(夜、戸越公園あたり、130)、渋谷区(夜、諏訪神社近く、161)、(夜、道玄坂、163)、新宿区(夜、牛込171)、(夕、下戸塚、184)、墨田区(夕暮れ、東京モスリン吾嬬工場、208)、(夜、東京モスリン工場、209)、(12時半頃?、押上橋、212)、(午後8時、向島の桜堤、232)、(夜10時、寺島警察署管内墨田交番、235)、(夜中、大畑、245)、世田谷区(三軒茶屋、266)、(三軒茶屋、268)、台東区(夜中、鶯谷、281)、(午後7時、上野公園、291)、(下谷、295)(午後6時、下谷か上野公園、295)、(夕、谷中、304)、中央区(夜、月島、310)、(夜、浜離宮、311)、千代田区(夜、靖国神社、317)、(夜、皇居前橋か、317)、(午後2時半、日比谷から帰宅途中に新聞社の自動車から流言、318)、(夜中、宮城前広場、321)、(三菱ヶ原近く?、322)、(晩、日比谷、323)、(夜、二重橋前、327)、豊島区(池袋?、338)、練馬区(夜、352)、文京区(夕方、小石川小日向水道町、379)、(夜12時頃、丸山福山町、389)、(夜、本郷、390)(夜遅く、本郷西方町、395)、港区(午後かなり経った頃、麻布市兵衛町、414)、(暗くなって、麻布高

以上のように、民間記録では既に9月1日には113件にのぼる流言の記録がみられる。もちろん証言が全て正確とは限らない。地震の発生と流言とを時間的に近いものとして認識する傾向もあるかもしれない。しかし、これだけの数の証言が広範囲に亘っており、仔細に見ると確度の高いものもあることから、9月1日の時点で流言は東京の各所に起こっていたと考えるべきであろう⁽¹⁸⁾。地域によっては複数の流言の記録があり、千代田区の皇居前を始めとして、江東区、墨田区、台東区、文京区、港区の比較的狭い地域内で流言が多発しているように見える。

流言の拡大についての分析は紙幅の限界もあり今後の課題としたいが、官憲も関わっていることは表に示した内容からも指摘できる。とりわけ皇居前はその立地条件もあり、警戒は厳しかったと考えられる。記録からは早期から兵士が検問を行っている様子も見取れる。かかる警戒態勢を見た民衆の中から、あるいは検閲を行っていた軍隊や日比谷にあった警視庁からも流言が発生した可能性は、十分に考えられる⁽¹⁹⁾。

官憲が流言を伝える方法にはいくつかの類型が見られる。[表2]史料No.219、486、504は、警察署や派出所等に朝鮮人に関する流言を張り出して警戒を呼びかけていたという記録である。同史料No.187、196、239、291、464では、警察官が市中で朝鮮人襲来への警戒を呼びかけている。なかには、同史料No.222、486、517に見られるように、朝鮮人との戦争を想起させる命令や朝鮮人の「鎮圧」や殺害を許可するような命令も出されている。

このように、掲示や呼びかけといった様々な手段を通じて、警察は住民に朝鮮人警戒への働きかけを行っていたことが各地で確認できる。「亀戸天神公園で（亀戸警察署の一引用者註）古森警察署長は石油箱の上に立って避難者や群がる人々を前に、危険な朝鮮人や社会主義者の不逞の輩は全部逮捕するからみんな協力するようにと演説した」のはその象徴的な事例であろう（同

台、416）、（夕方、芝公園近くの岩崎勲邸、419）、（夕方、芝古川橋から麻布十番への途中、422）、（高輪、426）、（夜、泉岳寺、426）、目黒区（夕方、現・小山台高校付近、434）、その他（夜、日の出）。

(18) 9月1日における流言の意義については前掲「東京における関東大震災時の流言と朝鮮人虐殺—公文書と民間記録の対照から」で論じる。

(19) 前掲『関東大震災』の、とりわけ49頁以降を参照。

史料 No.129、『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』101 頁)。

[表 2] 史料 No.522 には、町長が警備を指示したという記録もある。よく知られているように⁽²⁰⁾、9 月 2 日には内務省から埼玉県庁を通じて県下の町村に対して、在郷軍人会等の組織を挙げて「不逞鮮人」に対処するよう命令が下されたことが、殺傷事件が県下に起こった大きな要因となった。この記録は、そうした中央から地方行政官署を通じた地域の民衆組織への働きかけが東京でもあったことを示すものかもしれない。

軍隊については、[表 2] 史料 No.438 では上官の命令により朝鮮人への警戒態勢が取られ、住民にも警戒するよう指示している。史料 No.246 では憲兵が朝鮮人殺害を命令している例が出てくる。史料の記述によれば、これが朝鮮人殺害の引き金になっている。

(2) 殺傷事件の記録について

では、次に殺傷事件の記録を確認しよう。流言が早期から確認できる千代田区の外神田警察署の報告を見ると「同日(1 日一引用者註) 薄暮、自ラ本署ニ来リテ保護ヲ求メ、或ハ、署員ニ依リテ検束セル者等ヲ合セテ、支那人十一名、鮮人四名、内地人五名を収容セリ」とあり、既に 9 月 1 日の夕刻には検束の動きが広がっていたことがわかる([表 1] 史料 No.150、前掲『大正

(20) 9 月 2 日内務省との打ち合わせを受けて、埼玉県庁から以下のような通知がなされた。これが出された事情については、関東大震災六十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会(日朝協会埼玉県 連合会内)『かくされていた歴史—関東大震災と埼玉の朝鮮人虐殺事件』(増補保存版、1987 年) 18 頁以降を参照。なお、下記史料は、同書 223 頁からの引用による。

庶発第八号

大正十二年九月二日

埼玉県内務部長

郡町村長宛

不逞鮮人暴動に関する件

移牒

今回の震災に対し、東京に於て不逞鮮人の盲動有之、又其間過激思想を有する徒らに和し、以て彼等の目的を達せんとする趣及開漸次其の毒手を振はんとするやの惧有之候に付ては、此の際町村当局者は、在郷軍人分会消防隊青年団等と一致協力して、其の警戒に任じ、一朝有事の場合には、速かに適當の方策を講ずる様至急相当御手配相成度、右其筋の来牒により、此段及移牒候也

大震災火災誌』941～942頁）。ここに記載されている内地人とは、労働運動家であろうか。

千代田区では、1日に〔表2〕史料No.442に示されるような自警団事件（日本人の傷害事件、ただし、被害を受けたのが飯田橋付近であるとは限らない）が起り、〔表1〕史料No.146に見られるように、中央区の月島で9月1日の夜中に軍隊による朝鮮人虐殺も起っている。1日には旧四ツ木橋で1日から朝鮮人虐殺が起っていたことは、前述の『風よ鳳仙花の歌をはこべ』で明らかにされている通りである。

以上のように、9月1日には殺傷事件につながる緊迫した雰囲気はいくつかの地域であつという間に醸成されたと考えてよいであろう。

一方、特に〔表2〕において問題となり得るのはデータの偏差である。

〔表1〕の警視庁『大正大震災火災誌』には東京市と東京府の64警察署の報告が記載されている。これらは内容の濃淡はともかく基本的に所定のフォーマットに従って纏められている。そのため東京の各地域における流言と殺傷事件について、後述する問題はありつつも情報を得ることができる。

このような史料は、当然のことながら〔表2〕に見ることはできない。たとえば前述の東京における聞き書きによる調査は、東京都内をまんべんなく歩いているわけではないだろうから、結果として聞き書きの成果をも収録した『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』における証言の数に地域的な偏差が生まれることが考えられる。単純にデータの数（史料数）が多ければ、そこでは多くの流言や事件が起っているとはいいきれないのである。

そこで、〔表1〕と〔表2〕の殺傷事件の記録の件数を比較してみよう（被害者の人数ではない）。〔表1〕も〔表2〕も圧倒的に江東区や墨田区が多く、それぞれ江東区では前者が全体の11%余り（中国人と日本人の殺傷事件を含む、以下同じ）、後者が16%余りとなっている。その共通性から、東京の中でこの地域では殺傷事件が多かったと言っても大きな誤りはないだろうと思われる。この原因としての朝鮮人や中国人労働者人口の多さも、当然事件の件数や規模に関連しているであろう。

以下、〔表1〕では、品川区で全体の10%ほど、文京区、足立区、新宿区、千代田区が6%余りで続く。〔表2〕では台東区での件数が8%ほどを占め、

文京区と新宿区が6%余り、品川区が5%近く、千代田区と足立区、葛飾区が3%台と続く。

[表1][表2]とでは件数の割合に若干の違いはあるが、墨田区や江東区などの件数が際立って多く、その周辺地域、品川など東京南西部、文京区や新宿区等、西側の一部地域で比較的件数が多いことも、ほぼ共通した特徴として挙げられる⁽²¹⁾。

これらの地域で殺傷事件が多かったのは、流言が早くから起こっていたことの他に、労働者や留学生が多数居住していた地域であったこと、火災等からの避難経路にあっていた場所であったこと、軍隊や警察の動き等が関係していよう。

朝鮮人殺傷事件はまた、朝鮮人に誤認された日本人の殺傷事件をも引き起こすこととなったが、圧倒的多数は朝鮮人にかかわるものであったことは、[表1]に見てとることができる。しかもこの中には、「迫害」や「検束」など殺傷行為があったかどうかを含めて具体的な内容が不明確な殺傷事件が多く含まれており、被害の実態は[表1]の記録よりはるかに深刻なものであったと考えられる。そのことは、[表2]に[表1]には記録されていない殺傷事件についての目撃談や回想が数多く収録されていることから明らかである。

ところで、[表1]に収録した諸史料を仔細に検討してみると、原史料それぞれに固有の特質が見られる。こうした史料を組み合わせると、一つの地域で起こった出来事を具体的に知ることができる。

たとえば一つの事例として、寺島警察署周辺についてこの表から判明することを考えてみたい。ただし、この地域については既に『風よ鳳仙花の歌をはこべ』で言及されているし、より広い視点に立って分析をしているので、これはあくまでも表の範囲内でわかることを示すに過ぎない。

(21) 前掲、拙稿「東京における関東大震災時の流言と朝鮮人虐殺—公文書と民間記録の対照から」に一覧表を掲載する予定である。なお、個々の件数については、曖昧な記述もあることから、数え方により件数が変わる部分もあり、また脱稿後の継続的な検証により若干の件数の変化が生じたために、本稿に収録した表と件数が異なるところもある(ただし、大きな変動はない)。それゆえ、この一覧表については殺傷事件の件数の傾向性を示すものとして理解されたい。

前掲、警視庁の『大正大震災火災誌』の寺島警察署の報告には次のように書かれている。

九月二日午後五時「不逞鮮人等四ツ木橋附近ニ集合シ、放火其他ノ暴行ヲ為サントス」トノ報告アリ、直ニ署員ヲ派遣シタルニ避難セル鮮人百六十人ヲ発見セシカバ之ヲ検束シテ保護ヲ加ヘシモ、民心ノ動揺甚シク、鮮人ニシテ自警団ノ為ニ本署ニ同行セラレルモノ、同三日既ニ二百三十六名ニ上レリ（1335頁）

ここには、9月2日の夕刻に流言が起こったこととその内容、朝鮮人を検束したこと、民衆が朝鮮人を捕まえ寺島警察署に連れてきたこと（同行）、そして警察署内に留置した朝鮮人の人数が書かれているのみである。ちなみに、寺島警察署の報告は各警察署の報告の中ではかなり薄い部類に入っており、殺傷事件について記録した他地域の警察署の報告もある。

これに他の史料の情報を付け加えていこう。新聞の裁判関連記事で同じ寺島という地名が入っているものに限っても、9月3日寺島町荒川放水路で朝鮮人1名が殺害された事件の記録がある（〔表1〕史料No.114）。表中には記していないが、この記録には加害者の名前も書かれており、原史料を確認するとこの加害者は別な事件も起こしていることがわかる。

同じく判決記事で、9月3日午前崔秉熙はじめ7名の朝鮮人が寺島村青年団長ほか12名に殺害された事件（〔表1〕史料No.117）もある。東京地裁の公判に回された。

前掲『震災後に於ける刑事事犯及之に関連する事項調査書 秘』にも9月3日午後10時に寺島町大字寺島で朝鮮人2名が殺害された事件が記録されている（〔表1〕史料No.115、公判等については不明）。この人物は〔表2〕史料No.363の新聞記事にも登場する⁽²²⁾。

同上の史料には、9月3日に寺島町大字寺島字玉の井で朝鮮人6名が殺害された事件も記録されている（〔表1〕史料No.116）。

(22) 個々の事件の詳細な分析については今後の課題とする。

一方、[表 2] の民間記録には、史料 No.286～312 の、実に 27 件（新聞記事 6 件を除いても 21 件）もの記述がある。これらの記録には他地域で虐殺された遺体が運び込まれていると考えられるものや重複もあるかもしれないが、上の事件の記録には書かれてない事件の記録が散見される。

その中には寺島警察署での事件の記録もあるが、ここでは警察官が直接の加害者となっている（[表 2] 史料 No.301、曹仁承氏の体験による）。当然のことながら、警視庁の『大正大震火災誌』にはこうした事項は記載されていない。

以上のように、寺島警察署の報告内容からは多くの情報は望めないが、これを最初の手がかりとして、同地域について記載がある他の公文書を見ることができれば、その地域で起こった流言と殺傷事件の一端は知ることができる。ただし、書かれていないことについては民間記録により補充するしかない。民間記録は日時などの情報が必ずしも明確ではないが、ここでは公文書の欠陥を補う役割を果たしてくれるのである。

4. おわりに

以上に述べたことを簡単に纏めておこう。関東大震災から 100 年を迎えようとする現在、震災時の流言や殺傷事件を実見した人びとから話を聞くことはほぼ不可能となり、まさに遠い過去の歴史となる中で、真相究明は困難となりつつある。

そうした課題を念頭に、本稿では公文書と民間記録の双方について一覧表を作成し、対照ができるような試みを行なってみた。その結果、流言の発生についてはかなり早期の段階から各地で見られること、そのもとで殺傷事件も起こっていたことを確認した。

[表 1]、[表 2] に見られるように、殺傷事件は地域的な数の差違はありつつも広範に発生していた。公文書の殺傷事件には記録上では「迫害」や「同行」など抽象的な表現にとどまるもの、そもそも書かれていないものがあり、実際にはより多くの事件が起こっていたと考えられる。公文書は時間と場所が明確に記されているものもありその点では有用であるが、誤植や隠蔽など

があり得るので民間記録による検証が必要となる。

以上の結論については、筆者の調査が途上にあるため暫定的なものであることをお断りする。今後は新聞記事の分析を進めて、殺傷事件や裁判記録等の記事の検証をしたい。あわせて流言の情報源や通信についても検討が必要だと考えている。本稿で触れられなかった中国人や日本人の殺傷事件についても検討すべきことがある。課題はまことに多い。

殺傷事件の記録には根本的な問題があることも指摘しておかねばならない。それは多くの被害者の名前が不明だということである。[表 1] で確認できる朝鮮人殺傷事件の史料点数中、一部でも被害者の名前が記されているのは 18 件、朝鮮人殺傷事件全体 120 件の 15% に過ぎない（記載されている史料の数で人数ではない）。しかも名前に漢字の誤りが多いという問題点もある。

実は、日本人被害者についても全員の名前を知ることはできない。名前が記されているのは 33 件、日本人に関する史料点数 64 件の 51% 余りである。ちなみに中国人被害者については 4 件の名前があり全体の史料点数は 9 件である。ただし、中国人被害者については、中国側の調査による史料として被害者の名簿が存在する⁽²³⁾。

民間記録でもいくつかの例外を除き、被害者の名前を知ることはできない。多くの殺傷事件で被害者を特定できないという事実は、朝鮮人の命や人権がいかに軽視されていたかを示している。関東大震災朝鮮人虐殺は、まさに日本の朝鮮植民地支配の本質を表現するものであった。

被害者の名前がわからないということは、個々の殺傷事件を確認する上で障害となる。前述のように殺傷事件の中には同一犯による複数の犯行と見られるものがある。しかし、それらが本当に別な事件なのかを検証するためには、最終的には被害者の名前を確認するしかない。これらの記録で被害者の名前がないことが、事件についての正確な認識を妨げてしまうのである。

[付記] 本稿は、平成 31 年度専修大学長期国内研究員の研究成果である。

(23) 詳しくは、前掲「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む (1) ～ (5)」を参照。

【表1】公文書に見る流言と加害の記録

史料No. 足立区	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
1	み135公	9月2日	後5時	新足立郡 神明町	検束	朝鮮人	第一師団	騎十六第三中隊の「軍曹は部下分隊を率ひ急犯(ママ)該地に至り鮮人を捕縛し監官に引渡せり」。
2	み408公/ 新別263	9月4日	正午過ぎ	新足立郡 花畑村大字々々左衛門新田青森端山橋付近	殺害	朝鮮人、5名(各前は石記)	日本人10名	内匠権一(近衛と同一)、被害者は韓九、林仁満、倉田鳳、元方機、李龍在(新別263)。日本刀、竹槍、棍棒で殺害された。表2史料No.16も参照。一部の加害者は、表2史料No.10の旗本元殺害の記事にも登場、場所も一致する。
3	み405公/ 新別269	9月4日	朝3時	新足立郡 江北村大字能沼池内	殺害	日本人1名?(名前前は石記)	日本人5名	新別269によれば、江北村自警団員たるが同村の三郷文吉の店より朝鮮人と誤認して殺害した。み435公では被害者が「三郷文吉外一名」。本表史料No.5も参照。
4	新別264	9月3日	夜	新足立郡 西新井村與野通り	殺害	朝鮮人1名	日本人2名	西新井村で同村自警団員?名が朝鮮人を殺害した。『法律新聞』1924.1.30は3日夜とする。同日の加害者の名前は共通(場所の表記は異なる)。本表史料No.5、No.6、表2史料No.14も参照。
5	み405公/ 吉03公	9月3日	後9時	新足立郡 西新井町、大字與野(ママ、與野か)	殺害	日本人1名	日本人2名	氏名不明の日本人が窪口と關経で殺害された。至63公は被害者が「韓人らしい1名の内地人男子」とし、み435公も日本人とする。上記の事件(本表史料No.4)と少なくとも1名の加害者の名前が同じで、同時、あるいは同じ事件の可能性もある。
6	み60公	9月2日	後7時	新足立郡 千住警察署	流言・迫害 標榜・殺害	朝鮮人1名/1名 /7名/1名/1名 日本人1名/1名	日本人	朝鮮人3百名が隅千住を襲走との流言により、悪徳王作次機と千住駐隊内で警戒されたが襲来なし。自警団の朝鮮人追音、9月3日には千住町で朝鮮人と誤認した日本人が負傷。西新井與野で殺害。柳原で朝鮮人7名が殺害、千住町でも朝鮮人1名が暴死の被害。柳原では朝鮮人と誤認され1名の老妾が殺害(本表史料No.3、No.4もある)。No.8あるいはNo.9、No.11、No.12)。4日には朝鮮人婦女が殺害との流言、柳原で1名の朝鮮人を殺害、陣中(營1330公)によれば、この日自警団の戒厳器の携帯禁止。千住町の某は9月2日夜半以降朝鮮人36名を自警団から守った。
7	み428公/ 新別264	9月2日	後10時	新足立郡 千住町八四六塚路	標榜	朝鮮人、樺三石	日本人1名	日本刀で標榜。新別264は「樺三機」。加害者の名前は、表2史料No.11、No.13にも登場する。
8	み428公/ 新別264	9月3日	後5時	新足立郡 千住町	殺害(または標榜)	朝鮮人、韓善祥	日本人2名	手紙、日本刀で殺害された。判決の記事によれば朝鮮人被害者の姓名は「韓善祥」(表2史料No.12)、殺人者とも(新別264)。加害者のうち1名の名前は下の事件(本表史料No.9)にも登場している。

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録—東京の記録から

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
9	み435公	9月3日	後5時	新足立郡 千住町	横害	日本人、福井高久ほか1名	日本人1名	上の事件(本表史料 No.8)と同一の時間と場所、上の加害者1名の名前が同じ。本表史料 No.6 の記述を眺むと、実際には1カ所での事件であった可能性もある。
10	市232公	9月3日		新足立郡 千住町	横害	朝鮮人、200名	近衛師団	近衛二が千住で朝鮮人、200人を探獲したとする。なお、本表史料 No.10、14、140、141は馬史料では一つの表に記録。
11	み429公/ 新別267	9月3日	後3時	新豊島郡 南塚津村大字柳原	殺害	朝鮮人、李順順ほか6名	日本人11名	新別267によれば、酒稼藤村柳原の自警団員が同村に同居する朝鮮人を日本刀、また空手棒で殺害。本表史料 No.6、12および本表史料 No.4、7、8、No.17も参照。新別267が4日の事件としたのは誤りで、実際には3日に起り、理髪を逃れた1名が翌日殺害された。
12	み429公	9月4日	前3時	新豊島郡 南塚津村大字柳原地区内	殺害	朝鮮人、李順順	日本人2名	この事件は9月3日の事件現場を逃けた1名を4日に発見し殺害したものである。新271は、9月3日に7名を殺害した上の事件(本表史料 No.11)との事件が一連のものだと明らかにした。本表史料 No.6、表2史料 No.17も同様の位置づけ。
荒川区								
13	新別321	9月4日	前11時	新足立郡 三ノ輪王子電車軌道踏切	殺傷?	朝鮮人、2名 日本人、1名 (名前は名記)	日本人7名	『報新新聞』1923.10.21では加害者は9名、朝鮮人金益一、朴起、日本人熊敦清一刑事を日本刀、棍棒で暴行、金は殺害された。『東京日日新聞』1923.11.2では、金益一と金(漢?)、東英(漢?)2史料 No.32、加害者は8名。本表史料 No.15を参照。
14	市232公	9月3日	後1時	北豊島郡 三河島	横害	朝鮮人、700名	近衛師団	近衛二が朝鮮人を保護したとする。なお、本表史料 No.10、14、140、141は馬史料では一つの表に記録。
15	み131公	9月3日	後1時	北豊島郡 三河島	横害	朝鮮人、300余名	近衛師団	近衛二が(朝鮮人三百余名を同地(三河島—田中註)小学校に護送し、生命の安全を計らった。『後報彰』
16	み131公	9月5日		北豊島郡 尾久町	殺傷?・横害	朝鮮人、20名 日本人、?名	近衛師団	近衛師団が不逞の底約二十名を捕縛して共謀し殺人、強盗、指撃等行なうのを鎮圧し終夜徹夜を繰り返して翌朝後幸に際し、多大の効力を与へた。
17	み430公	9月4日	後4時	北豊島郡 尾久町上尾久熊	横害?	朝鮮人、李祥宰	日本人1名	金祥宰が短刀突きつけられ、殺されそうになった。加害者の名前が本表史料 No.18と同じ。
18	み440公/ 百65公/ 新別272	9月4日	前11時	北豊島郡 尾久町上尾久熊	殺害	中国人、董烈順	日本人1名	株式会社日本電機製作所前道路、吉65公によれば、兵士に連行されてきた中国人が槍で殺害され物品を奪われた。み440公には被害者名がある。新別272は9月5日とするが、僅は9月4日とする。加害者の名前は本表史料 No.17にも登場する。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
19	み59 公	9月2日		北豊島郡 南千住警察署	流言・迫害・検束	朝鮮人434名/2名 中国人87名 日本人1名	日本人	流言発生後、自警団等が朝鮮人を迫害し午後9時半には警察署に朝鮮人を拉致、3日午前1時には朝鮮人2百名が矢日本初瀬と隈田川駅を脱走との報、署員を派遣するも何事もなし、保護隊東朝鮮人は434名、4日午前中に朝鮮人労働者と相次ぎ検束会館を襲撃し内閣係巡査1名を保護隊履行させたが三ノ橋の落刃に群衆に要われ、日本人と朝鮮人は別かつたがもう1名は行方不明(本家史料No.13)。原典(巻316公)によれば、4日に板田屋の捕縛を果した。後に朝鮮人は相模谷平務所に引渡し、中国人87名は帰国させた。表2史料No.26には南千住警察署裏庭での事件記録あり。
20	み60 公	9月2日	後3時	北豊島郡 南千住警察署日蓮里分署	流言・迫害・検束	朝鮮人170余名 日本人	日本人	地蔵、朝鮮人の暴行などの流言から自警団が朝鮮人を迫害、殺害は「国民」にも及んだ。この日、本署に収容した朝鮮人は70余名に及んだ。これを第四日警署小学校に収留した。4日に朝鮮人1名が逃亡をはかるや民衆は警察の急務を罵った。原典の巻1323公によれば、署内の騒擾は5日まで継続した。
板橋区	21 み59 公	9月2日	午後	北豊島郡 板橋警察署	流言・迫害・検束	朝鮮人10余名	日本人	朝鮮人暴行等の流言、自警団が作られた。本署は朝鮮人10余名を中井と丘屋、長袋は朝鮮人の住宅を襲撃した。朝鮮人10余名を本署に保護隊東、原典(巻1315公)によれば、3日に派遣された千原田警署の隊と協力して自警団を取締り、監視員の指示で戒厳路兵字塚の第一部隊と協力して自警団を捕縛し、監視員の指示で流言その他の取締りに関する隊員命令が送られたので取締りを行い、団員2名を暴行隊員として検束、重傷の応傷で志村・石神井・下練馬、長崎に出張、凶器を押収した。
江戸川区	22 み136 公	9月2日	夜半	有楽町郡 小松川	検束	朝鮮人170余名	第一師団	小松川付近に出勤した野戦重砲1が朝鮮人を保護隊東して民心の冷静化に努めた。と記述。この地域の出入事については、表2史料No.36以降も参照。
23	み56 公	9月2日		南豊島郡 小松川	殺害	日本人小高幸重	日本人6名	親身銃撃戦で脱打し、水中に溺死させた。
24	み61 公	9月1日	後8時?	南豊島郡 小松川警察署	流言・迫害・検束	朝鮮人400名	日本人	流言と同時に迫害が起ころ、朝鮮人を本署に同行する者多数、署員は署内に援助を求め一方、「警戒及び捕縛」した。脱走した朝鮮人は3日に400名を収めた。郡、市長、議員、青年団長が協議し、5日に吉志野派出所に移送した。
25	総2186 公	9月2日	後11時半	南豊島郡 下江戸川橋際	殺害	朝鮮人1名	第一師団	姓名不詳の朝鮮人1名が第十五の兵士に射殺、捕縛等は行なわれず。下江戸川橋とは今井橋である。なお、資料には千葉県南行巻村とあるが、東京府との県界として表の中に組み入れた。今井橋での重傷による朝鮮人殺害については、表2史料No.51以降を参照。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
26	経②163 公	9 月 4 日	後 4 時	荏菥新郡 下江戸川橋北詰	殺害	朝鮮人 2 名	第一師団	姓名不詳の朝鮮人 2 名が騎十五の兵士により絞殺。義経等は行なわれず。
27	経②163 公	9 月 4 日	後 5 時	荏菥新郡 下江戸川橋北詰	殺害	朝鮮人 3 名	第一師団	姓名不詳の朝鮮人 3 名が騎十五の兵士により絞殺。義経等は行なわれず。
大田区								
28	吉 33 公	9 月 2 日	後 4 時	荏原郡 大森町字北原海神通り	流言	朝鮮人	日本人	朝鮮人が六郷川を渡って襲撃してきたとの流言で、大森町、入新井町の住民が警威。
29	み 57 公	9 月 2 日	後 4 時	荏原郡 大森警察署	流言・迫害・検束	朝鮮人 80 余名 / 2 名 / 19 名 日本人 1 名	日本人	原典(鑑 1249 公)によれば、朝鮮人が横浜から東京へ来る途上駒島で暴行、投擲、放火、絞殺との流言。本署では川崎警察署に職員を派遣したが暴行を認めず。警備隊を東海道と六郷川など各鉄道橋、矢口渡等に配置。民衆は朝鮮人を迫害、夜には本署に 60 余名收容。3 日には池上村大字島ヶ谷の民衆と馬込村千束工本組員人との間に争闘。不入斗の住人 1 名收容。朝鮮人の軍需 2 名、軽傷 18 名、日本人 1 名殺害。本署は自警団の戒固器の携帯を厳禁、取続った結果 4 日以降平穏になっていった。
30	み 434 公 / 吉 63 公	9 月 3 日	前 3 時	荏原郡 入新井町大字不入斗	殺害	日本人 市村勤次郎	日本人 4 名	証言により殺害。吉 63 公の記述では、男子 2 名のうち 1 名を殺害。本署史料 No.29 にも同じものと扱われる事件の記述あり。
31	吉 34 公	9 月 2 日	後 3 時半	荏原郡 六郷村、蒲田村、羽田村	流言	朝鮮人	日本人	朝鮮人が街道の井戸に毒を投じ、六郷川を流すとの流言が伝わった。
32	経③104 公	不明		荏原郡 大森	流言	朝鮮人	軍隊	在大森水産学校学生佐藤少尉の情報によると、蒲田や赤坂の火災は朝鮮人の放火によるもので、池上川に立て籠っている朝鮮人の集団が放火棒等を打っているなどとして、この地一帯の人心が震えている。
葛飾区								
北区								
33	市 235 公	9 月 3 日		北豊島郡 赤羽荒川鉄橋	流言・検束	朝鮮人 100 名	近衛師団	表 2 史料 No.61 以降には多数の記録あり。 鉄 1 州武器ヲ使用スル不逞朝鮮人出沒ノ報(正)により東北義勇荒川鉄橋ヲ武装した兵士 50 名を捕獲。飯田橋～大塚～赤羽と赤羽と行陣し(市 191 公)。午後 5 時までに憲兵 5 名に引渡した朝鮮人は 100 名に及ぶ。表 2 史料 No.83 以降も参照。
34	経③114 公	9 月 1 日		北豊島郡 荒軍火薬廠薬部	流言・迫害	朝鮮人	日本人	9 月 1 日の夜、東京市内の火災は朝鮮人の放火による間き、2 日午後に放火した朝鮮人を逮捕した等の情報。朝鮮人 1 名が任民に追われ捕縛されたとの報告を受け、警戒を強める。9 月 3 日以降も「不逞朝鮮人の情報により警戒を一層厳重にした。9 月 11 日までの記録を記す(9 月 13 日、中谷操葉部長より海軍省副官別 1 部災害事取報告ノ件)所収報告書)。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
35	経③105 公	9 月 3 日		北豊島郡 海軍火薬廠爆薬部	流言	朝鮮人	軍警	本口赤羽、川口方面の高橋副官宛に警戒隊前を依頼、工務員を報、別紙のように陸軍省高橋副官宛に警戒隊前を依頼、陸軍副官宛別二分手紙を寄附している旨、海軍省副官宛に報告、陸軍副官宛別紙は、朝鮮人 4 百名が板橋、赤羽、川口方面から当部へ班乗との情報、赤羽工兵隊へ伝授した旨、工兵隊への連絡文書とともに報告する内容。
36	経③106 公	9 月 3 日	後 2 時	北豊島郡 海軍火薬廠爆薬部	流言	朝鮮人	軍警	報告書 2 紙、皇朝駐在團重砲隊から、朝鮮人が海軍川野軍火薬廠爆薬部を襲撃するたために皇朝軍に襲撃構法を出発したとの情報があった旨、海軍省高橋副官宛に連絡。
37	経③106 公	9 月 3 日		北豊島郡 海軍火薬廠爆薬部	流言	朝鮮人	軍警	弾 2 顆、朝鮮人女性 1 人の服装で投擲の企て、陸軍火薬製造所に爆発の企て、漢野、川崎工學投擲で砲火の企てを暴発し未然に消したとの情報、近衛第 1 の 32 名、赤羽工兵隊 21 名到着、梁丹基地で手榴弾投擲の朝鮮人を発見したが行方不明、平塚理軍火薬廠がほとんど全滅との情報を海軍省副官宛に連絡。
38	経③107 公	9 月 3 日		北豊島郡 海軍火薬廠爆薬部	流言	朝鮮人	軍警	弾 4 顆、午後 7 時に皇朝警署より皇朝付近で爆弾多発の通報、8 時 45 分朝鮮人が海川学園庭内に侵入、9 時 15 分飛鳥山から斥候らじきものが当方に向から、9 時 20 分駒込陣に百名の朝鮮人が通過、飛鳥山に朝鮮人侵入、防衛配備陣地より斥候を依頼する旨、海軍省副官宛に連絡。
39	経③107 公	9 月 3 日		北豊島郡 海軍火薬廠爆薬部	流言	朝鮮人	軍警	第 9 班、現在駐留中の幹部員の名前、9 時 50 分に赤羽工兵隊 15 名到着、銃 1 個小隊も来つつあるとの報告、海軍省副官宛に連絡。
40	経③108 公	9 月 4 日		北豊島郡 海軍火薬廠爆薬部	流言・秘案	朝鮮人	軍警	第 6 班、海川学園方面から朝鮮人が当部に襲来、午後 1 時に皇朝付近に集合した朝鮮人 10 名を取り捕へ新聞配達であることが判明し、折来ノ流弾 2 発取り上子警署等に運送して医護を依頼、「色々ナリ折来ノ流弾 2 発取り上子警署等に運送して医護を依頼、等其ノ折来ノ流弾 2 発取り上子警署等の報告、海軍省副官宛に連絡。第 7 班で説明けともにも在團重砲隊および青年会の応援警署を頼いた旨、連絡、ただし、以後の報告でも警署連絡は継続。
41	経③113 公	9 月 7 日		北豊島郡 海軍火薬廠爆薬部	流言・秘案	日本人	警察	無政府主義者が海相で捕まったと聞いた、東條三丁目で社会主義者の 1 集団を発見、皇朝警署が本捕ら役後された。
42	み 59 公	9 月 1 日	後 4 時	北豊島郡 王子警署	流言・道言	朝鮮人：100 余名 日本人	日本人	朝鮮人が放火との流言、2 日以前は警察撤去、爆弾投擲、殺人、掠奪等に、此案は或区域を警備して朝鮮人を逮捕、深更夜に本署に連れてきた朝鮮人は百余名に至った。原典(巻 1300 公)によれば、3 日には巨集団が朝鮮人、日本人を問わず本署に拒致し、警察官をも諷向するに至った。本署は或凶器の機密禁止等自警団を取締つた後、警煙庁からも同様の通達に添した。その後も種々の自警団事件が起つた。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
43	市232公	9月3日		北豊島郡 王子付近	殺傷?	不明	近衛師団	予備隊長の命令により近歩1の32名が「不運/狂子掃討」。
44	経②165公	9月6日	前7時半	北豊島郡 飛鳥山西端	殺害	日本人、FM	近衛師団	北豊島郡尾久村上屋久のFM(原史料)には姓名を記載。近歩四連歩兵隊長により射殺された。裁判等は行われず。
江東区								
45	経②161公	9月3日	後4時	深川区か京橋 永代橋付近 区	殺害	朝鮮人、約32名中 17名/1名	第一師団、警察 /日本人	「行動概況」欄には約30名と表記。姓名不詳の朝鮮人32名のうち17名を野重一ノ二砲兵一連等卒TK、同一等卒H(原史料)には姓名を記載)、外1名が射殺、また避難民と警官が打たれ殺した。裁判等は行われず。永代橋での朝鮮人被害の証言について、表2史料No.93以降を参照。
46	み439公	9月12日	朝	荒葛新部 近井堀	行方不明 (失踪口は殺害)	中国人、王希天	第一師団	軍隊「女性の後の所在不明ならず」としたが、実際に「専ら第三三衛団司令部内の判断で、12日早朝、池井橋のほとりまで中国人の王希天を射殺(田60、および表2史料No.104以降の大島についての記述を参照)。
47	経②162公	9月3日	後4時	荒葛新部 大島町丸八橋付近	殺害	朝鮮人、6名	第一師団	姓名不詳の朝鮮人6名が野重一ノ三砲兵連署KG(原史料)には姓名を記載)以下5名により射殺された。裁判等は行われず。
48	経②161公 /み439公	9月3日	後3時	荒葛新部 大島町八丁目付近	殺害	中国人、あるいは朝鮮人、200名	近衛、第一師団	軍隊関係者「野重一ノ二」騎十四、兵器使用者「騎十四騎兵、砲兵連署使用者「騎人二百名」。「備考」欄で「本隊人員(本部防務、倉ナリノ説アル屯軍隊制ハ鮮人ト推シテ居タルモノナリ)」と注記するのは、中国人を殺したならば国籍問題に考慮するたためか。裁判等は行われず。み439公は「真の事跡不明ならず」と述べるのみ。実態は、大島8丁目および周辺で殺害にわたった朝鮮人、市民一体による中国人殺害(仁18)。表2史料No.104以降の記述も参照。朝鮮人も含まれている可能性は十分あると思われる。
49	み449公	9月2日	後12時	荒葛新部 亀戸警察署管内神明町 派出所	殺害	日本人、清井忠恒	近衛	朝鮮人が斬りかかったため巡警が帯刀で殺害したとして、「法律上罪と為さるゝこと明なるに至りたり」とする。本史料No.80「よこ」の被害者の名前が出てくる。
50	経②162公	9月3日	後4時	荒葛新部 亀戸新橋内	殺害	朝鮮人、1名	近衛師団	姓名不詳の朝鮮人1名が、騎十三機上砲兵AS(原史料)には姓名を記載)に射殺された。裁判等は行われず。
51	み118公	9月5日	前2時半	荒葛新部 亀戸警察署	殺害	朝鮮人および日本人、6名	近衛師団	「内地人及不逞鮮人六名、警向に暴行し、馬の柙番者名馬動し暴行せんとせし故、同馬馳之を制止せり、彼等は最後迄命万端を叫び思たり」とする。しかし、実態の亀戸警察署の様子から察するに、このことは、騎124中の研究より明らかである。本史料No.82も参照。
52	経②704公	9月5日	後2時半	荒葛新部 亀戸警察署	殺害	朝鮮人および日本人、6名	近衛師団	「内地人主悪者及不逞鮮人六名が、警察官に暴行し、他の柙番者を煽動したため騎十三連隊が射殺したとす。本史料No.51とは午前午後のみ異なるので、同じ事件を書記した可能性。裁判等は行われず。経②の解題も参照(30)」。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・加害者	加害者・関係者	内容
53	経②163 公 ／み 118 公 ／み 444 公 ／吾 98 公	9 月 4 日	後 7 時	青島新部 亀戸警察署構内	殺害	日本人、SK、KB、 AL、IK(右も参照)	近衛師団	自衛員 4 名(開史料には姓名を記載)が騎十三により斬殺された。み 444 公には鈴木金之助の名前あり。古 98 公には木村其四郎、岸本久米雄、鈴木新之助、秋山橋次郎の名前あり。「内鮮人七百六、七(ママ)」と題し、この中に和して喧嘩し、兵士の軍器を奪おうとしたとする。数行は行なわれず。経②の解説も参照(39)。
54	経②164 公	9 月 5 日	後 1 時	青島新部 亀戸警察署構内	殺害	日本人、FE	近衛師団	「無頼漢」FE(開史料には姓名を記載)が拘置場前で立向っていた兵士七を殴つたため、陣の兵士が斬殺した、とする。数行毎は行なわれず。
55	経②164 公 ／み 443 公 ／吾 98 公	9 月 5 日	前 3 時	青島新部 亀戸警察署構内	殺害	日本人、10 名(姓名は右記)	近衛師団	古 98 公には平沢計七、河合(川台)義宗、鈴木重一、北原(北原)吉蔵、山岸賢司、近藤三三(広道)、加藤高基、吉村光治、佐藤欽次の名前あり(中新字八の名前なし。その他かっこ内は加 182 の後注による)。表 9 史料 No.123、129、145 に亀戸事件関連の記述あり。被害者は前日未だ「鮮人と相呼び心し盛んに革命歌を高唱し」を喧嘩したため警備中の騎十三が斬殺したとするが、事実は異なる(加 140 ほか)。平沢計七の話が表 2 史料 No.146 に、川合義宗の話が表 2 史料 No.329 に、連音の話が表 2 史料 No.364 に出ている。
56	経②704 公	9 月 4 日	後 9 時	青島新部 亀戸付近	殺害	不明	近衛師団	「亀戸付近にて四名の壮漢兇器を以て警官に抵抗したるを以て騎兵第 十三連隊の応援隊は即時抵抗しある結果を斬殺せり内鮮人の区別目下調整中」。裁判書は行なわれず。
57	み 61 公	9 月 2 日	後 7 時	青島新部 亀戸警察署	流言・殺機	朝鮮人、250 名 日本人、1 名 警察官	日本人／重傷／ 警察	朝鮮人が強盗、強姦、強姦との流言が発生。小松川方面では警備が怠られ、古森署長は軍隊の援助を求め、平井隊と西宮ヶ原に警察を出動させた。多々ヶ原では 2 方の民衆が強盗事件を起こした。朝鮮人 250 名を以て容。原典(望 1343 公)によれば、3 日以降警察は「鮮人暴行ノ説」が流言だと説明、巡警が自衛団に暴行された事件、軍隊が物村の自衛団員を刺殺した件、巡警が「十番」の執見を養つていて「基」を捕獲物で刺殺した件、亀戸事件等を話載。
58	み 429 公/ 新別 321	9 月 3 日	前 3 時	青島新部 亀戸新師団巡査派出所 付近	殺機?	朝鮮人、田舎者ほか 1 名?	日本人、1 名	10 月 1 日以降自衛団の後手に着手した。 根據で殺害、み 429 公はこの事件と本案史料 No.59 を別な事件として扱う。新別 321 によれば事件は亀戸町通園通で起こり、被害者は田舎者(殺害)、豊島鎮(曹か)重傷もしくは殺害、加害者は 5 名とされており、この事件は一つのものとして扱われている。表 2 史料 No.147 の記事も同様。
59	み 429 公/ 新別 321	9 月 3 日	後 2 時	青島新部 亀戸阿大字新島	焼害	朝鮮人、曹長ほか 1 名	日本人 2 名	曹長が焼害か。朝鮮人が日本刀で斬られ、重傷を蒙り、み 429 公は本案史料 No.58 とこの事件を分けるが、新別 321 と表 2 史料 No.142 の記事では一つのものとなる。

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録—東京の記録から

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
60	吉 59 公	9 月 3 日	後 3 時	青雲新部 徳戸道圃地運路付近	殺害	朝鮮人 2 名	日本人 1 名	日本人 2 名が同居の朝鮮人 2 名を連れ、徳戸道圃署署署に向かう途中で自警団に捕はれ日本人は送還、朝鮮人 1 名が棍棒で乱打、殺害された。もう 1 名については不明、加害者の兄弟分として、本表史料 No.49 の被害者(通井井)が登録する。
61	み 428 公 / 吉 60 公 / 新別 321	9 月 2 日	後 10 時	青雲新部 香煙町電戸	殺害	朝鮮人 1 名	日本人 2 名	棍棒または剣で乱打、殺害。吉 60 公、新別 321 にも同じと思われる事件の記述あり、判決は不明。
62	新別 321	9 月 4 日	前 0 時	青雲新部 徳戸町京成電車路切	殺害	朝鮮人	日本人 6 名	短銃、銃棒、日本刀で惨殺した。本表史料 No.106、107 を含むと同一の加害者(記名は同じ)が漢字が異なる者もいるので、時期も同じ。場所の記名は異なるが同じ事件の可能性があり、江東区に急めるべき場合は検討の余地あり。
63	み 136 公	9 月 2 日	夜 半	深川区 深川方面	迫害	朝鮮人	日本人	兇器を持った者から朝鮮人を保護。地域について、表 2 史料 No.162 を参照も参照。
64	み 55 公	9 月 2 日	後 3 時	深川区 深川西平野警察署	流言・銃撃	朝鮮人 日本人	日本人	原典「警 1202 公」によれば、朝鮮人が前仲向に襲来、放火、銃撃、強姦、夜警の流言があり、警員を誘発したが安ばなし。民衆に逐捕され本署に運送された人はおおむね沖繩や伊豆大島の人だった。本署は管内全ての朝鮮人を検束して保護した。
品川区 65	み 51 公	9 月 2 日	後 4 時半	芝区 芝高輪警察署	流言・迫害	朝鮮人 47 名 日本人 小林某	日本人	朝鮮人が才崎方面より馳来との流言が起これ、警相を導かめると同時に才崎方面の警視と偵察にあつた。白金台町では警察に襲われかけた日本人小林某を保護。大崎警官内戸越派出所が朝鮮人 47 名を保護。9 月 7 日、大本営情報課との流言が発生。原典「警 1020 公」によれば、4 日に自警団の代表を呼び指導と取締を行った。
66	み 435 公	9 月 2 日	後 9 時半	荏原番 大井町	殺害	日本人 木岡久枝	日本人 1 名	日本刀で殺害。新別 289 は 9 月 4 日としているが、異説とする新聞では 2 日と、新聞により被害者名に相違。
67	新別 269 / 新別 312	9 月 2 日	夜	荏原番 大井町南浜川	殺害	日本人 岩成徳三郎	日本人 1 名	警視庁刑事部捜査課の調査。丸子の遠路増を獲って来た遅延民により流言がもたらされた。
68	吉 48 公	9 月 2 日	後 4 時	荏原番 調布村・平塚村	流言	朝鮮人	日本人	徳口、空襲、杖棒で乱打された。本表史料 No.71、表 2 史料 No.181、No.182 の朝鮮人への構害事件に同じ加害者の名前が登場する(ただし No.182 は名字のみ同じ)。
69	み 435 公	9 月 2 日	後 5 時	荏原番 平塚村下笠窪	傷害	日本人 菊田三四郎	日本人 6 名	新別 265 によれば、平塚村自警団員たちが運搬を助けた。被害者の名前に「洪弘時」(み 439 公)、「洪弘祐」(新別 265)、「洪弘順」(表 2 史料 No.160)。「一部の加害者の名前は本表史料 No.78 の事件にも登場する。
70	み 429 公 / 新別 265	9 月 2 日	後 5 時半	荏原番 平塚村大字下笠窪	傷害	朝鮮人 洪弘時	日本人 3 名	新別 265 によれば、平塚村自警団員たちが運搬を助けた。被害者の名前に「洪弘時」(み 439 公)、「洪弘祐」(新別 265)、「洪弘順」(表 2 史料 No.160)。「一部の加害者の名前は本表史料 No.78 の事件にも登場する。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
71	み・429 公／ 新別 321	9 月 3 日	後 5 時半	庄原郡 平塚村大字下総窪	擄奪	朝鮮人・李銀慶	日本人 2 名	朝鮮人が釜口で打打・重傷を負う。新聞記事では 3 名が起訴されたとする(新別 321)。本表史料 No.69、表 2 史料 No.181 も参照。
72	新別 322	9 月 2 日	夜	庄原郡 平塚村中延	殺害	日本人・藤球美	日本人 2 名	教団用の銃で擄殺。送検したがその後は不明。
73	み・42 公	9 月 2 日	後 8 時	庄原郡 品川警察署管内山台坂	擄奪?	朝鮮人 7 名	日本人	朝鮮人が横浜から擄理して上点する途上で、自警団の重圍に陥った。朝鮮人の被害は明らかでない。
74	み・86 公	9 月 2 日	後 2 時 25 分	庄原郡 品川警察署	流言・擄奪・殺害	朝鮮人 7 名 / 47 名 日本人 1 名 / 2 名	日本人	原典(警 1231 公)によれば、横浜からの擄理記により朝鮮人數十名、数百名の集團が上京との流言、警報に報告された記述も、六郷川方面に集団たが真相不明。民衆は配達人が犯人だと見出し、朝鮮人によるとして恐怖し、兇器を携え、朝鮮人を本署に同行。9 月 4 日には大井町で袋家が横浜から来た朝鮮人 7 名、日本人 1 名と「闘争」。また日本人死傷の複数の事件が発生。本署収容の朝鮮人は 47 名に及んだ。
75	み・42 公	9 月 2 日	後 7 時	庄原郡 品川警察署管内ハツ山 付近	擄奪	朝鮮人	日本人	集めた牛舌詰 4 個とビール瓶 2 本を持っていた朝鮮人を自警団員が擄行。
76	み・46 公	9 月 2 日	後 5 時	庄原郡 品川警察署大崎分署	流言・擄奪・ 検束	朝鮮人 180 余名 日本人	日本人	原典(警 1241 公)によれば、2 日後 2 時に市7分場所解放の囚人が脱走。5 時には朝鮮人が横浜川原に脱走者多発ない裏京方面に来るとの流言、警員を丸子方面に派遣、検察した異なるし。自警団は朝鮮人と日本人を互害。第一師団司令部から玉川付近に不逞者はいないと発表。3 日に管内在住朝鮮人 180 余名を保護検束。平塚村、大崎町に巡察隊を派遣。5 日には自警団に戒凶警の検帯厳禁を通知した。
77	み・435 公／ 新別 270	9 月 2 日		庄原郡 品川町北馬場	殺害	日本人・龜山次夫	日本人 11 名	新別 270「次夫と、品川強盗団の自警団員たちが被害者を朝鮮人と誤認、殴打・擄殺。史料により加害者の人数等異なる。表 2 史料 No.183 も参照。
78	新別 322	9 月 2 日?	夜	庄原郡 大崎町五反田	擄奪	朝鮮人 1 名、日本 人 2 名	日本人 11 名	通中中の朝鮮人と日本人を擄奪、木刀などで殴打し、人事不省に陥らせた。新別 322 は犯行日時は不明、加害者計 11 名とするが、『時事新報』1923.10.17 は 2 日で加害者 9 名、表 2 史料 No.190 は 9 月 2 日夜。本表史料 No.70 も参照。
79	み・428 公／ 新別 309	9 月 2 日	後 4 時半	庄原郡 大崎子岡ヶ谷	擄奪	朝鮮人 5 名(名前 は石記)	日本人 3 名	金谷宅、金谷中、村一順、高岡現、村守人を藪口等で擄打。新別 309 では、被害の程度(死亡)、加害者の人数等のみ 428 公と相違あり。表 2 史料 No.172 も参照。
浜谷区	80	み・128 公	前 1 時半	豊多草郡 下浜谷	検取	不明	近衛師団	近歩 4 表 5 中隊は下浜谷中電氣製作所に急行し、豊多草 4 表 5 中隊も警察団に引導した。この團隊は台町付近を巡察して正源寺で「不逞漢」名を捕えている(本表史料 No.168)。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・加害者	加害者・関係者	内容
81	み88 公	9月2日	後4時	豊多摩郡 赤谷阿佐か 坂区	流言・坦言・ 殺害	朝鮮人20名 日本人1名	日本人	世田谷管内を2千人の朝鮮人が襲撃し、こちらに向かうとの流言。世田谷を玉川方面に急派する途中、駒沢村で朝鮮人20名が坦言に運ぶところを救助し、本署へ移送。高津村でも襲撃の被害あり。世田谷で日本人1名の殺害事件。原典(巻1085 公)によれば、9月5日に警備庁の指示で自警団の襲撃をした。その後も流言は止まらず。
82	吉18 公	9月5日		豊多摩郡/赤谷阿佐か 坂区	流言	日本人	日本人	9月5日頃から朝日間にわたり、赤坂区と東区町下庄(豊瀬(ママ))法曹町で、本署通信者がこの震災に乗じて暴動を起こし、各所に焼燬を致しているとの流言。
83	経9104 公	9月5日	後5時	豊多摩郡 赤谷	流言	朝鮮人	日本人	焼燬被害局に男が来て朝鮮人があつたと憲兵隊に届出があり、調査中である。
84	み107 公	9月3日	後12時より 前	豊多摩郡 富ヶ谷川坂梅東北郡田 地	検束	朝鮮人・林烈、日本 人、金子らみ子ほか	第一師団	輜重第一大隊の重曹が家蔵名簿系、住長金山(子)かみ子と〇〇(林列)ら各警官に引渡す。金子文子らの警官署での様子について、表2史料No.232を参照。
新街区								
85	市233 公	9月3日		牛込区	高田馬場など	朝鮮人	近歩3	「不逞朝鮮人捜索のため、高田馬場、両谷馬場、赤坂見附、九段、三宅院、着山、麻布に向かうよう命令。
86	市233 公	9月3日		牛込区	戸山馬道か?	朝鮮人2名	近衛師団	近衛が「不逞朝鮮人2名を監視す」。駐地近辺と推測されるが詳細不明。また、早稲田茶臼茶と戸山麻羅切工工師屋に監視隊を出した。
87	市233 公	9月3日		牛込区	戸山馬道か?	朝鮮人12名	近衛師団	近衛が朝鮮人12名を監視した。なお、本表史料No.86と87は同じ家の中に記録。
88	み52 公	9月2日	前10時	牛込区 牛込神楽坂警察署	流言・坦言	朝鮮人20名	日本人	士屋宇校前に、強震あり、朝鮮人が襲来すとの流言を貼紙(本署史料 No.92 と同じか)、青年団員らが朝鮮人を「逮捕」午後5時までに20名を本署に連行。原典(巻1066 公)によれば、4日より自警団の襲撃を行って現踪を採取した。
89	み53 公	9月2日	前10時	牛込区 牛込神保町警察署	流言・坦言	朝鮮人	日本人	放火、掠奪、種別不明等の流言から数時間、朝鮮人を襲撃に放致する者が少ない。原典(巻1072 公)によれば、3日以降自警団を取締り現踪の捜査を禁止。
90	吉40 公	9月2日	正午	豊多摩郡 豊多摩	流言	朝鮮人	警察	警備庁刑事部捜査課によれば、山口正孝の部下による正午の小石川、牛込方面の流言が豊多摩市内の放出、との説。
91	み84 公	9月5日		豊多摩郡 豊多摩	検管	日本人、森信男	日本人1名	拳銃により襲撃。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
92	み52 公	9月2日	午前	四谷区 巴谷警察署	流言・迫害 朝鮮人・迫害 日本人	朝鮮人 日本人	日本人 日本人	士官学校の機関に誘惑、朝鮮人未熟の結核(本表史料 No.88と同しか)。その後横濱より襲来、放火、投擲の被害があり、迫害が起った。原典(巻1057 公)によれば、下の本表史料 No.92 から起るもの。襲来者は日本人か否かわからない。一方、巻2 史料 No.214 のような出来事は記録されていない。当初から警官を差別に派遣し、暴行隊の押収と監禁を行った。
93	み435 公/ 新別 271	9月2日	後4~5時?	四谷区 伝馬町	殺害	日本人、伊東辰吉	日本人1名	射撃、新別 271 の記事では、被害者は伊藤辰吉、加害者の名前も史料により異なる。
94	み88 公	9月2日		豊多摩郡 下戸塚辰白臺	拘束	朝鮮人	近衛師団	近衛三が社安主義者ととの通謀を疑い、寮と近衛の築造工事場の朝鮮人を引致。
95	み57 公	9月2日	前10時	豊多摩郡 淀橋警察署	流言・迫害・ 拘束	朝鮮人 朝鮮人 日本人 日本人	日本人	朝鮮人と社安主義者が放火との流言、本書では再告の労社社、相木町等の朝鮮人を保護隊車、朝鮮人への迫害、通行する者あり。原典(巻1266 公)によれば、午後8時に中野警察署内から代々木町方面に朝鮮人? 百名強襲、代々木上方方面で朝鮮人 60 余名が暴動等の放火あり、監督が「局長」を襲った。午後8時に駒込と四谷警察署に着手、翌9日(8日か?)に監視所より自警団取締の連絡があった。
96	み88 公	9月2日	未明	豊多摩郡 淀橋警察署戸塚分署	流言・焼害	朝鮮人 87 名 / 1 名 日本人、8 名	警察・近衛師団	9月1日午後6時40分に戸塚町字上戸塚に放火ありとの話。2日未明に朝鮮人放火との流言、午後1時に近衛師団境内に朝鮮人連外との連絡を受け、朝鮮人 87 名を拘束、取調べ。放火器の捜索を行った。6日に近衛師団兵連隊が本署に隊方を求め、7日に要注犯人 8 名と朝鮮人 1 名を拘束した(一紙の記事を本表史料 No.84 に記載)。
杉並区	97 市 230 公	9月2日		豊多摩郡 高円寺ほか	流言	朝鮮人		雷1が高円寺から兵舎北端まで警戒線を描き(午後8時20分)、後に通報した。
	98 新別 322	不明		豊多摩郡 高円寺村上高円寺中州 街道	標置	日本人、橋本山治	日本人	大木土工監督橋本山治に標置を命じた。11名を逮捕した。
豊田区	99 み435 公/ 新別 271	9月2日	後10時	朝霧郡 吾郷町葛西川	殺害	日本人、橋本源	日本人1名	銃撃で殴打された被害者、吾郷町亀戸も(み435 公)。吾郷町や小村井の殺害事件については、巻2 史料 No.246 以下を参照。
	100 み435 公/ 新別 322	9月2日	後10時	朝霧郡 吾郷町葛西川	殺害	日本人、松本裕吉	日本人1名	松本裕吉が捕らえられた。新別 322 の判決記事では他に共犯者が3名。加害者の名前が史料により異なる。
	101 み430 公	9月3日	前2時半	朝霧郡 吾郷町字大畑荒川敷水 路堤防	殺害	朝鮮人 1 名	日本人 3 名	日本刀により殺害。加害者は本表史料 No.113 で4事件を起こしている。

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録－東京の記録から

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
102	み430公	9月3日	前5時	千葉県新部 香焼町字木下荒川放水 堤防	橋害	朝鮮人1名	日本人1名	ピストルにより擲害。
103	み429公	9月3日	前5時	千葉県新部 吾焼町字 木の下の茂船運 付近	殺害	朝鮮人1名	日本人3名	日本刀により殺害。加害者の名前は表2史料 No.310にも登場す る。
104	み406公	9月2日 後0~9時?		千葉県新部 吾焼町小村井	殺害	日本人2名	日本人8名	棍棒、薪竹で殴打、殺害。一部の加害者は3日にも事件を起こした (本表史料 No.109)。
105	み438公	9月3日	前7時	千葉県新部 吾焼町小村井	殺害	日本人3名	日本人1名	棍棒、薪竹で殴打、殺害。加害者は2日にも事件を起こした(本表 史料 No.109)。
106	み430公/ 別別267	9月4日	前12時	千葉県新部 吾焼町講地熊本宿付 近	殺害	朝鮮人、韓人ほか2 名	日本人3名	下敷事件(本表史料 No.107)は加害者の名前は異なるが、同時・ 同所で行っている。表2史料 No.259も参照。
107	み430公	9月4日	前12時	千葉県新部 吾焼町講地済米宿付 近	殺害	朝鮮人1名	日本人2名	上の事件(本表史料 No.106)と同所に行っているが、み430公は別の事 件とする。一方、本表史料 No.62はこの事件と上の事件を一つのも のとして記録している可能性がある。ただし犯行順序の表記が異 なるので、No.62を暫定的に別な事件とした。
108	み465公/ 新別266	9月3日	前3時半	千葉県新部 吾焼町大字大畑	殺害	朝鮮人1名	日本人1名	判決記事によれば、暴行した多数が引上げた後に木棒により殴 打、殺害された。加害者の名前は同じで、本表史料 No.109 と同じ 事件の可能性もある。
109	み428公	9月3日	後3時	千葉県新部 吾焼町大畑五〇ヵ道路	殺害	朝鮮人1名	日本人1名	木棒により殴打、殺害された。上の事件(本表史料 No.108)とは加 害者の名前が同じで午前/午後別の別のみが異なっており、同一事 件の可能性もある。表2史料 No.251にも加害者の名前は登場す る。
110	み428公	9月2日	夕刻	千葉県新部 吾焼町放水路四ツ木橋 付近の堤防	殺害	朝鮮人1名	日本人1名	鉄棒により殴打、殺害される。この加害者は本表史料 No.114 の事 件も起こしていると思われる(ただし名前の一部の漢字が異なる)。 四ツ木橋堤防の殺傷事件については、表2史料 No.61 以降および 327 以降に多くの証言がある。
111	み429公	9月3日	前5時	千葉県新部 吾焼町大畑荒川放水路 四ツ木橋付近堤防下	殺害	朝鮮人2名	日本人1名	日本刀により殺害。同名の加害者が28~29歳の長名不詳の朝鮮 人を殺害した判決記事がある(本表史料 No.112)が、被害者の人 数が異なり同一事件かどうかが不明のため、別格とした。表2史料 No.305 も参照。
112	新別266	9月3日	9月3日	千葉県新部 荒川放水路	殺害	朝鮮人1名	日本人1名	上の事件(本表史料 No.111)と同じ加害者。この人物は9月3日午 前1時に表2史料 No.309の事件も起こしている。
113	み60公	9月2日	後5時	千葉県新部 吾焼町警署	流言・迫害	朝鮮人:180名/ 236名	日本人 236名	朝鮮人が四ツ木橋付近に集合、放火騒ぎをしているとの報告で警 員を派遣したところ朝鮮人遊説者 160 名を見送り、逮捕された。自言 団が本署に向行したところ朝鮮人は3日には236名にのぼった。朝鮮人 の虚言と自署の取調を行って人心の安定を図り「鎮撫ノ列ヲ奏 スルヲ得タリト云ヘルガ、吾島警察署内外の虚言については記さ ず(表2史料 No.266 以降)。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
114	別別 266	9月3日		新巻新郡 寺嶋町荒川秋次路	殺害	朝鮮人1名	日本人1名	判例の記事では、朝鮮人学生が日本人で殺害されたとする(表2史料No.365も参照)。この加害者は本巻史料No.110の事件も起こしていると思われる。
115	み428公	9月3日	後10時	新巻新郡 寺嶋町大字寺嶋	殺害	朝鮮人2名	日本人1名	日本刀により殺害。加害者の名前は表2史料 No.363にも登場する。
116	み430公	9月3日	前10時	新巻新郡 寺嶋町大字寺嶋守玉の井	殺害	朝鮮人6名	日本人1名	丸太棒で殴打殺害される。
117	新別 322	不明		新巻新郡 寺嶋村	殺傷	朝鮮人10名(名前は石記)	日本人13名	四ツ木楼や隅田川鉄工所で働いていた池田井、崔某の妻崔某、その妻文根ほか7名が、寺嶋村青年団会館か12名により殺傷。新別322には日河の記載がないが、表2史料 No.311では事件の日には9月3日午前11時、『歴史の日新聞』1923.10.22は同日午前10時とする。一部の加害者の名前は表2史料 No.363にも登場する。
118	み428公	9月3日	前9時	新巻新郡 隅田川玉の井三之助後付近	殺害?	朝鮮人、拳銃手ほか6名	日本人2名	史料には、朝鮮人が日本刀、蕭口で殺害したとするが、罪人には殺人未遂と書かれており、記述が矛盾。表2史料No.312の新開記事では加害者は3名となっている。
119	み436公	9月2日	後9時	新巻新郡 隅田町大字善左衛門	傷害	日本人、清次、藤松	日本人1名	棒で殴打。加害者は本巻史料No.101でも事件を起こしている。
120	み429公	9月3日	後12時	新巻新郡 隅田町大字牧場	殺害	朝鮮人1名	日本人2名	日本刀により殺害。表2史料 No.271の記事では、よく似た名前の加害者が登場。
121	経2100公	9月3日	前10時	日本橋区? 向国橋西詰付近	殺害	朝鮮人1名	近衛師団	氏名不詳の朝鮮人が、近歩一ノ三歩長二等卒により射殺された。
122	経2704公	9月5日		本所区 西国	傷害	軍隊	日本人	薬丸より銃撃を以て斬られた、とする。
123	み132公	9月4日	後3時	本所区 彼瀬跡	傷害	軍隊	日本人	彼瀬跡跡で不逞朝鮮人に間違えられ頭部砲面を自傷した軍人を、近歩第六十六連隊の兵士が救出したとする。彼瀬跡跡では朝鮮人被害などが起こっていたと考えられる(表2史料No.310)。
124	み55公	9月2日	夕方	本所区 本所向島警察署	流言・迫害	朝鮮人 日本人	日本人	朝鮮人が放火、強奪、強姦等を行なうとの流言が発生。3日には管内に聴来する等の流言があり、署長が署員を連れて現場に行つたが何事もなし。朝鮮人の追害が在所で発生(表2史料No.252では、向島署前で朝鮮人の被害の記録)、日本人も被害。原典(警1194公)によれば、本署は各種の報告と実地調査により流言が収伝たと認め、自署内の取締を行った。流言は9月中旬にようやく収まつた。
125	み35公	9月2日	夕方	本所区 本所相生警察署	流言・迫害	朝鮮人	日本人	2日正午に海關送米の流言が広がった後、夕に朝鮮人送米、午後7時には朝鮮人3百名が監獄方面から送米する等の流言が起つた。朝鮮人が青年団に捕えられ、本署に渡捕拉致された。取調後、本庁刑務部へ送致した。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
126	吉 39 公	9 月 1 日	夜	本所区 神島元町	流言	朝鮮人	日本人	火災からの避難の中で、朝鮮人による強姦、強奪などの流言が拡がった。
世田谷区	127	み 56 公	9 月 4 日	荏原郡 玉川村周辺?	検束	朝鮮人	軍隊	玉川水道工事に従事していた朝鮮人労働者約 80 名が空襲犠牲者により同地方警備の軍隊に引渡され、後に吾志野収容所に移送。二子玉川守定の流言と殺傷事件については、表 2 史料 No.389 以降を参照。
128	吉 36 公	9 月 2 日	後 4 時半	荏原郡・豊多摩郡 玉川村、渋谷	検束	朝鮮人 34 名	日本人	芝の焼給始末から玉川村に帰る途中の朝鮮人 34 名を乗せた 2 台のトラックのうちの 1 台が玉川村で、もう 1 台が渋谷町蓮玄塚で青年団員に止められ、それぞれ世田谷警察署と渋谷警察署に検束された。
129	吉 35 公	9 月 2 日	後 4 時	荏原郡・豊多摩郡 玉川村、駒込村、渋谷町、目黒町	流言	朝鮮人	日本人、警察と軍隊も関係?	午後 4 時前後、二子の渡から朝鮮人が襲来するという流言が玉川村、世田谷村、駒込村、渋谷町、目黒町に伝わった。これが世田谷警察署、玉川電報本社へ、本社から渋谷警察署および同郷分隊に急報した結果、風評が急遽に拡大した。本通史料 No.188 には、第一陣団が世田谷、丸子方面に出動したという記録あり。
130	み 430 公 / み 43 公 / 吉 59 公 / 新別 321	9 月 2 日	後 9 時	北多摩郡 千歳村倉山	殺傷	朝鮮人 25 名 (2 名は石段)	日本人 12 名	史料により経路に相違。東京地裁で録出。朝鮮人被害者各名は、比喩的被害者が金丁石、島田珍、李敏雄、権直徳、許荷意、朴在善、朴道生、朴敏鎮、李永滿、金希伯、高榮伊、李米中、李榮伯、風崎到、具樹元、金珠雲、文己出、阪内●(「玉川」)、金仁壽、樺七喜、鄭三俊、金泰和、金成光。或●■が赤十字病院へ来られた。洪基台が死亡。事件の被害者、内容等については表 2 史料 No.242、378～No.380 を参照。この事件に関連する出来事として本通史料 No.194 を参照。
131	吉 60 公	9 月 2 日	後 5 時	荏原郡 世田谷	殺傷	朝鮮人 2 名	日本人	世田谷警察署警備隊が朝鮮人 2 名を連発中、群衆に囲まれ、1 名が射殺された。
132	み 57 公	9 月 2 日	後 4 時半	荏原郡 世田谷警察署	流言・迫害	朝鮮人 120 名	日本人	2、3 百名の朝鮮人が二子の渡しを越えて豊多と三軒茶屋派出所に向かったと認を認めず。豊多分署に届くまで受難を憐れにない。自警団が本署に出動した朝鮮人は 2 日午後 8 時に 20 名、3 日に警視庁の命により威力器の携帯を禁ず。朝鮮人を白黒顔馬場に軟音、注意人物は軍隊に託し警視野へ、引取人あるものは返還。朝鮮人が多く居住する風沢、等々力、蒲田、碑文谷、上野等には連発を派遣。原典(著 1253 公)によれば、9 月 5 日には警備隊の命により自警団を許可制とし機関を禁止。本通史料 No.81 の渋谷警察署の記録にも世田谷で起きた事件を記録。
133	み 429 公 / 新別 321	9 月 2 日	後 5 時	荏原郡 世田谷町大字木子壺	殺傷	朝鮮人 1 名	日本人	銃殺。裁判法は不明(表 2 史料 No.377)。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
台東区								
134	み 45 公 / 新別 272	9 月 2 日	後 10 時	浅草区 新谷町一四第一飛行館 付近	殺害	日本人、露中義雄	日本人 3 名	日本刀などで斬殺。判決の記事では、被害の名前や人数が異なる。
135	み 55 公	9 月 2 日	後 4 時	浅草区 浅草象形警察署	流言・迫害	朝鮮人 日本人 3 名	日本人	約 100 名の朝鮮人が前千住方面で暴行、朝言書と新谷町に逃亡との流言、朝鮮人が連害された。2 日午後 10 時には新谷町で進行人 3 人が朝鮮人と誤認、被害された。原典(警 140 公)によれば、犠牲者 3 名を誤解し取柄を歪めた。
136	み 55 公	9 月 2 日	夕方	浅草区 浅草南元町警察署	流言	朝鮮人	日本人	朝鮮人が放火、投毒、砲撃、強盗等の流言後、自警団が作られた。原典(警 1156 公)によれば、警視庁の密により凶器の携帯を禁止、取締を行った。
137	市 235 公	9 月 3 日		浅草、両国橋、寺島?	検束	朝鮮人、日本人、各 100 名	近衛師団	近衛師団の野重久が「内鮮人各百名を捕らふ。これに附つた第一中隊は浅草駅前橋、諸地方面を警備、第二中隊は両国橋、寺島村を警備。
138	み 54 公	9 月 2 日		下谷区 下谷上野警察署	流言	朝鮮人 日本人(社会主義者)	日本人	放火、爆弾、飲料水や菓子、井戸や池への投毒、朝鮮人と社会主義者との連射、上野精養軒、博物館、松城屋敷に誤る流言。上野公園や松城屋敷で起こった騒動については表 2 史料 No. 398 以降を参照。
139	市 231 公	9 月 3 日		下谷区 上野駅	流言	朝鮮人	近衛師団	近歩一隊司から近歩 1 に、爆弾を持った朝鮮人が上野から赤羽まで突進したため、上野駅に配兵せよ、王子付近が甚しく不穏なので攻撃を厳重にせよとの訓令。
140	市 232 公	9 月 3 日		下谷区 上野	検束	朝鮮人 50 名 / 700 名 / 200 名	近衛師団	近歩二が上野で 50 名、三丘島で 700 名、千住で 200 名の朝鮮人を保護したとする。なお、本表史料 No. 10、14、140、141 は原史料では一つの表に記録。
141	市 232 公	9 月 3 日		下谷区 上野	検束	中国人 5 名	近衛師団	近歩二が上野で 3 人の中国人を保護したとする。なお、本表史料 No. 10、14、140、141 は原史料では一つの表に記録。
142	み 54 公	9 月 3 日		下谷区 下谷赤本警察署	流言	朝鮮人	日本人	朝鮮人が放火、砲撃、投毒などの流言。夕方には自警団が各所に設置された。原典(警 1124 公)によれば、自警団に対して説諭、戒凶等の携帯を禁止した。
143	検 2161 公	9 月 3 日	後 2 時半	下谷区 三輪町四十五番地先電 車道路上	殺害	朝鮮人 1 名	近衛師団	氏名不詳の朝鮮人が近歩二の歩兵二等卒により銃剣で殺害された。裁判官は行なわぬ。
144	検 2164 公	9 月 4 日	後 10 時	下谷区 上野陣町	殺害	日本人 SM	近衛師団	「不逞野人が上野陣に侵入、凶器を使い地上部隊に抵抗したため事情上より近歩四ノ三歩兵により射殺されたとする。連体は日暮里警察署に引渡したという。裁判官は行なわぬ。隣者欄で上記野人ハ其後ノ調査ニ依リ斬人ナリシコト明セルモノナリ」とある。原史料には姓名を記載。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
中央区	145 51-50 公	9月3日	前10時半	京橋区	流言・迫害	朝鮮人	警察・日本人	朝鮮人が爆弾を携帯し放火、破壊、殺害、掠奪、投擲等の流言が起った。午後1時30分には歩1連隊が朝鮮人検閲に来ると、それを勇たな兵が朝鮮人を迫害、本署は朝鮮人を検閲し署門前へ護送。原典(警 981 公)によれば、流言の根拠がないがしだいに明らかになったので、9月3日に警備庁の命により自警団に武器の携帯を禁止。6日に流言に惑わされぬよう広報を徹底した。
				京橋区	殺害	朝鮮人1名	近衛師団	姓名不詳の朝鮮人が歩一機歩兵一等卒 ML(原典判)には姓名を記載しに暴殺される。裁判等は行わねず。
	147 51-50 公	9月2日	後2時	日本橋区	流言・検束	朝鮮人	日本人	9月1日の海嘯の流言の後、2日の午後4時に朝鮮人暴行の流言が起った。自警団の旗原を見て、本署では朝鮮人を保護し、自警団の取締を行った。
	148 51-50 公	9月3日	後5時	日本橋区	流言	朝鮮人	日本人	「不逞の徒が傍り残る金庫を破壊し擄奪し」との流言が起った。4日午前1時に日本銀行に警員を特派して護つた。
千代田区	149 51-49 公	9月2日	後3時	神田区	流言・検束	朝鮮人・申衛護	日本人	2日には朝鮮人が暴動、3日には海嘯との流言。遊蕩者が危惧したため「依谷朝鮮人」/「依谷トモト二努力」した。4日に朝鮮人申衛護を検束、警備庁へ送致。原典(警 920 公)によれば、5日に警備庁の命で自警団に凶器携帯を禁止した。
				神田区	流言・検束	朝鮮人4名 中国人11名 日本人5名	警察	9月1日流言が管内に伝播、署員を要所に派遣して警戒。9月1日警察には自ら保護を求める者と署員による検束を命じて中国に11名、朝鮮人4名、日本人5名を検束。原典(警 941 公)によれば、民衆の行動が「有恩ス可ラザルモアリ」、凶器の携帯を厳禁する等の措置をとった。
151 51-49 公	9月2日	後7時	神田区	流言・迫害・検束	朝鮮人、数十名	日本人	朝鮮人「暴動」の流言。自警団が組織され、朝鮮人を迫害。日本人数十人を保護のため検束し、民衆に凶器の携帯を厳禁。9月9日に習志野収容所に引き運んだ。	
152 51-49 公	9月3日	夕方	麹町区	殺害	日本人1名	日本人1名	運行人を朝鮮人と誤認して殺害、犯人をすくすく逮捕し、自警団への取調べを拒んだ。朝鮮人が朝鮮警備隊に擄取られたの誤認、保護のため制、私服員数名を派遣。原典(警 685 公)によれば、5日に警備庁の命で自警団はすべて警察の許可を受けることとし、検束を禁止。10月初旬には流言「自警団は「其語ヲ絶テリ」」。	
153 51-49 公	9月2日	夕方	麹町区	流言・迫害・検束	朝鮮人	日本人	朝鮮人暴行の流言が起り自警団結成、戒厳令を持って朝鮮人を逮捕する者は救え切れず。朝鮮人60名を本署および仮事務所(に保護。原典(警 908 公)によれば、3日には流言が数回であることがしだいに明らかになって自警団を取壊し、9日には戒厳令の所持、検束を禁止した。	

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
154	原典・頁 み449 公	9 月 16 日	後 3 時	麹町区 東京憲兵隊本部	銃害	日本人、大杉栄、伊藤野村、橋本一	東京憲兵隊	内容 大杉栄、伊藤野村、橋本一が甘粕正彦らに銃害された。み449 公では、定額警察署員の銃害そのものへの関与は「証を呈す」としてしている。加151に詳細あり。
155	み434 公 / 吉62 公 / 新別 271 / 新別 311	9 月 3 日	後 2 時	麹町区 永田町遊藝派出張所	銃害	日本人、松本九一、五城田憲太郎	日本人 4 名	新別271によれば、剣道の達人であった加害者が日本人 2 名を朝鮮人と誤認し銃害した。史料により事件の日付、場所や関係者の名前が異なり、正確な実態が不明。
156	市 237 公	9 月 3 日	前 1 時	麹町区 東京総理部付近	拘束	不明	近衛師団	歩隊が放火未遂者 1 名を捕え憲兵に引き渡した、との記述。なお、本史料 No.156 と 177 は同じ系中の記録である。
157	み 52 公	9 月 2 日	後 4 時	赤坂区 赤坂青山警察署	流言・迫害	朝鮮人		朝鮮人の放火団体が青山に襲撃するなどの流言が宣伝された。本署は流言について徹重な調査を行ったが虚偽だったので自警団取締に着手した。9 月 21 日に朝鮮総督府が明治神宮外苑パルクの一角に朝鮮人収容所を設け朝鮮人約 2 千名を収容しようとする際に、反対運動が起きた。原典(巻 1049～1050 公)によれば、3 日午後 6 時半頃に本本本館についての流言が発生。米川神社では朝鮮人への暴行が起きたこと、9 月 9 日午後 8 時に「陰謀企及ル」朝鮮人を署員と多 2 連隊が協力して青山墓地を捜索したが見つけられなかった。6 日以降自警団の取締を断行した。
158	市 205 公	9 月 3 日	後 11 時 30 分	赤坂区 青山墓地	殺傷?	不明	第一師団	青山墓地で怪しい人影に発砲した兵士がいたことを証す。詳細は不明だが、当時この地帯に派遣されていたのは第一師団歩 3 旅 299 公。
159	み 52 公	9 月 2 日	後 7 時	赤坂区 赤坂表町警察署	流言・迫害・ 銃害	朝鮮人、数十名	日本人	原典(巻 1040 公)によれば、朝鮮人数十名の流言で、自警団が横行。朝鮮人数十名を保護確保した。3 日に流言が激しく朝鮮人が集え、青年団員を取締り流言流布の犯人を捜索。朝鮮人は宮野に運送して監獄に交わした。9 月 20 日朝鮮総督府朝鮮人収容所を明治神宮外苑に設置すると、四谷、赤坂の区長は反対したが説得した。
聖島区 160	吉 17 公	9 月 1 日	夜	山の手方面	流言	日本人か?	日本人	集約整理の囚人逃走との流言……

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録—東京の記録から

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	関係者	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
161	み89公	9月1日		北豊島郡 泉崎警察署	泉崎警察署	検束	朝鮮人 635名	警察	朝鮮人が爆弾、投擲との流言の後、自警団による追撃が起った。2日には放火の横行、毒薬を投じたとして朝鮮人を捉まえ、警察に連れてくる者がいた。警察署の通釈場を解放し朝鮮人を収容。8日には635名となった。その後戻された朝鮮人を、美栗朝倉工場、三栄労働者宿、日華青年会館、さらに自警団警備や刑務所などに移した。原典(鑑1283公)によれば、社会主義者が放火を計画したの報告に接し、泉崎、西栗朝倉、高田の各町役場、「社会主義者及毒薬を朝鮮人」を監視した。3日には「良民」(民族不明)8名を取り締まると、4月には要捕獲人の取締をさらに厳しく流言を重く捉えた。5日には自警団を許可制とし戒凶署の構築を提案。7日には朝鮮人を招き説教した。
162	み449公	9月5日	夜	北豊島郡	泉崎警察署	殺害	日本人 1名	警察官?	自警団の取締中、1名が負傷死に至った。「感傷警察官の横行の経緯」があるが、捜査中、捜査の結果については記述なし。
163	百02公/ 新別322	9月4日	後11時	北豊島郡	泉崎刑務所前	標榜	日本人 2名(名前 は石記)	日本人 3名	陸軍中尉野村義文が電車で殴られ、制止しようとした泉崎署巡査手塚次郎も暴行された。
164	み268公/ 新別265	9月3日	後11時	北豊島郡	泉崎町宮下	殺害	朝鮮人 1名	日本人 1名	判決の記事によれば、彌生で狙撃、殺害されたこの朝鮮人、被害者(原典)は朝鮮王朝の中央官職を歴任した園泳(鑑の三男(鑑272史料 No.468も参照))。
165	新別322	9月3日	後9時	北豊島郡	泉崎町泉崎橋傍	標榜	日本人 1名 堀竹正雄、 堀竹庄兵衛	日本人 16名	日本刀、棍棒、鉄棒などで殴りされ、重傷。16名が起訴されたが、その数については不明。
中野区									
166	市230公	9月2日	不明	不明	朝鮮人	流言	朝鮮人	近衛師団	朝鮮人襲撃が盛況であることを知り、電1が警備を厳しく高円寺北高(現在の中野と置かれる)西北端と西栗朝倉を警戒(真体的な警備は不明)。
167	鑑2165公	9月5日	後8時	豊多摩郡	豊多摩刑務署(マ?)	殺害	日本人 10	近衛師団	豊多摩刑務所内、懲役5年以内が電信1共卒MMにより射殺される(原史料には姓名を記載)、裁判等は行われず。
168	み30公	9月2日	前10時	豊多摩郡	中野警察署	流言	朝鮮人	日本人	市内で放火した朝鮮人が都野でも放火との流言が発生した後、自警団起る。午後7時には朝鮮人3名が高円寺・池袋村に誘来しているとの情報で警備を孤軍したが、朝鮮人はいなかった。原典(鑑1279公)によれば、即日自警団の凶謀の態勢と検束を奏し、流言を抑制した都を後援した。
文京区									
169	市228公	9月2日		小石川区	大塚弾薬庫付近か?	検束	朝鮮人 8名	近衛師団	朝鮮人大塚は請一連隊と協賛し、弾薬庫付近の警備を怠す。朝鮮人8名を拘らえ、警察署に送る。み115公に本史料からの引用あり。
170	吉65公	9月3日		小石川区	泉崎町	標榜	中国人 1名	日本人	泉崎町巡査派出所に連行される際、竹棒により殴りされ、傷を蒙る。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
171	み53 公	9 月 2 日	正午	小石川区 小石川大塚警察署	流言・迫害 朝鮮人 85 名 警察官	朝鮮人 85 名 警察官	日本人	朝鮮人が暴行、兵器振動騒音との流言から朝鮮人の迫害を起さうとした。対処するために 85 名を警察署に保護収容、原典(警 1082 公)によれば、朝鮮人の提議に應じた民衆が警察署を襲った。3 日に自警団の戒厳隊帯を禁止、4 日以降軍隊と協力して違反者の検束を行なった。
172	み53 公	9 月 2 日	前 7 時	小石川区 小石川高坂警察署	流言・迫害	朝鮮人	日本人	原典(警 1079 公)によれば、朝鮮人の密火や大塚火薬庫襲撃計画等の流言、本署は火薬庫検問命令とを要請に注意した。その後自警団が朝鮮人を襲撃に駆致。午後 5 時半に近衛歩 4 連隊が到着、襲撃して警戒隊帯を行い自警団の防衛帯を中止。
173	第 218 中	9 月 4 日		本郷区 豊栄町	偽造	中国人、(前名は石記)	日本人	韓初、沈振植、陳梅、蔡松徳、日華学会第二中學會関係者が、群衆により襲撃、乱打。本署史料 No.174 と同じか? 専 128 中については、119 頁の解説を参照。
174	み440 公	9 月 4 日	後 1 時	本郷区 春日二 相踏	標害	中国人、韓初	日本人 9 名	韓初が標標、銃剣、竹槍、炎筒は、夜間て殴打、重傷を負った。本署史料 No.173 によく似た名前前の被害者がいる。専 2 史料 No.501 も参照。
175	み54 公	9 月 2 日	後 2 時	本郷区 本郷駒込警察署	流言・標害・迫害 迫害	朝鮮人 日本人、輦置兵中尉	日本人	「朝鮮人が預火、投擲し、赤坂、青山、深川ではその理髪を取り押さえた」、「警察官、重人に襲撃」、「女性が胸に爆弾を抱えている」等の流言が起り、朝鮮人が迫害された。自警団は 3 日後 2 時には駒込近衛歩隊で暴行人 4 名を重傷させ、5 日には精進寺中尉を標害者として本署に送致。また、戒厳令を違反して警察署が軍隊に移ったとし「暴中が警察署を襲撃し」に至った。自警団を襲撃し殺傷した。
176	み54 公	9 月 2 日	後 2 時	本郷区 本郷本富士警察署	流言・迫害 検束	朝鮮人 日本人	日本人	「朝鮮人暴行の流言、朝鮮人が迫害され、日本人も被害を受けた。朝鮮人を保護検束した。原典(警 1082 公)によれば、3 日以降自警団の取締を行った。
177	市 238 公	9 月 3 日		小石川区?	検束	朝鮮人、100 名	近衛師団	歩隊が近歩 3 連隊衛隊により担任区域内の「本連隊人」を捜索し、(自警団)を保護して警兵警察に 100 人を連送した。次に(小石川)川とあるが文中では千代田区の警備を担当しており、上記の具体的事態は不明。なお、本署史料 No.186 と 177 は同じ系中の記録である。
港区	178	み51 公	9 月 2 日	麻布区 麻布六木警察署	流言・標害	日本人	日本人	品川以西からの避難者からの流言により、朝鮮人が被害を企てるとの流言、住民が麻布区に保護を依頼、自警団が編成され、警備では通行人が群衆により標害(本署史料 No.179 の事件との関連は不明)、朝鮮人だとして本署に連れてくる者もほぼ日本人だった。原典(警 1082 公)によれば、3 日以来民衆の戒厳隊帯帯を禁止、4 日には警察の許可なく自警団を組織することを禁止した。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
179	総2180 公	9 月 2 日	後 6 時半	森布区 高町臺地南盛付近	殺害	日本人、WY	第一師団	日本人 WY(原史料には姓名を記載)を歩三所属 2 名が斬殺、群衆が殴打、射殺とある。裁判等は行なわれず。本表史料 No.178 に同じ襲撃での事件の記載があるが、関連は不明。
180	市 299 公	9 月 2 日		森布区 麻布?	殺害?	朝鮮人	第一師団	「事件」の内容および派遣後の行動については記さず。
181	み 51 公	9 月 3 日	夕方	森布区 麻布高層坂警察署	流言・検束	朝鮮人 30 名 日本人	日本人	大森、品川、横浜方面より朝鮮人が襲来する、すでに潜入して強盗、殺人、投擲する者が多いとの流言、民衆により大森に連れてこられた朝鮮人は 30 名。原典(鑑 1025 公)によれば、通行人 5 名が重傷を負う事件も起こった。監視庁の命により自警団に町内警備の任務を禁じた。現存した朝鮮人は、後に聖吉野収容所に送られた。
182	み 430 公	9 月 4 日	前 11 時	芝区 三崎町六 一付近路	殺害	朝鮮人 申次善	日本人 8 名	銃管、角棒、棍などで乱打、絞殺された(芝区との特定は、山田健次(關東大震災時の朝鮮人虐殺)186 ページ)による)。
183	み 30 公	9 月 1 日		芝区 芝区芝警察署	流言・追害	朝鮮人 日本人 警官?	日本人 警官	9 月 1 日、朝鮮人襲来との流言が伝わり、同時に監視庁の命により、制・私鉄の職員で芝園橋、芝公園等の要所を警備。2 日には放火、焼彈、毒薬の流言が拡がり、凶器を持ち暴行する者も出た。原典(鑑 1000 公)によれば、品川から管内に来た者が朝鮮人と認識され、自警団に捕まわれた。警官が保護しようとしたが、自警団員の怒りを買った(「某」が警官がは不明確)。ついに警官の使用によって激越の目的を達した。3 日監視庁の命により民衆の武器を押収。5 日には軍隊と協力して検問所を設けた。
184	み 51 公	9 月 2 日	後 5 時	芝区 芝区田警察署	流言・追害	朝鮮人	日本人	管内は市内候補地で選罷員が騒擾、機匠方面の悪者も管外を遊蕩、横浜から放火、投擲する朝鮮人襲来との流言。自警団が組織される行動。原典(鑑 1011 公)によれば、本署も一時警備を撤回したがほどなく流言に過ぎないことを知った。3 日以後自警団の武器を押収。5 日に監視庁の命により自警団の取締を行った。
185	み 406 公	9 月 3 日	後 12 時	芝区 新島町小山盛付近	殺害	日本人、松本佐吉	日本人 1 名	日本刀により殺害。
186	み 128 公	9 月 2 日	後 10 時	芝区 正壽寺	検束	不明 2 名	近衛師団	近衛師団は井戸に投擲しようとする「不逞漢」2 名を捕えて高橋警察署に引渡した。この軍隊は、下渋谷でも暴漢 4 名を捕えている(本表史料 No.80)。
187	み 434 公	9 月 3 日	正午	芝区 日出町七有明出張所	殺傷	日本人、津井又吉ほか 3 名	日本人 1 名	日本刀により殺傷された。
白黒区								
188	み 119 公	9 月 2 日	後 6 時半	荏原郡 日黒、世田谷、丸子方面	殺害?	朝鮮人	第一師団	史料には「日黒、世田谷、丸子方面に始動して罪人を鎮圧」とある。本表史料 No.79 の流言と通報への対応か?
189	み 434 公 / 新習 269	9 月 2 日	後 8 時	荏原郡 日黒と日黒西郷山道	殺害	日本人、羽田平次郎	日本人 3 名	捕殺または殺で傷害を受ける。判決の陪審では、被告人の名前や武器が異なる(新習 269)。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・加害者	加害者・関係者	内容
その他								
140	み62 公	9月2日	後5時	西多摩郡 青柳警察署	流言・検束	朝鮮人19名	警察	強盗ありとの流言に続き、6時に朝鮮人が特品材料を襲撃、相生村へ逃走等の流言、たまたかに署員を昇屋や福庄に派遣して偵察し青柳町を中心に警戒、さらに在籍軍人団と交渉して警備の応援を依頼し梅田を任務と名目して自衛団員の後援行動を要めた。福生村渡船場付近の朝鮮人を保護検束、岡村副生の朝鮮人銃所持19名に緊急なる整頓を付した。原典(警1368 公)によれば、3日に警視庁の命により調査等を本庁に派遣、警察力が増強されると在籍軍人増派大等を旨として警務の任に就かされた。
131	み62 公	9月2日	後5時	西多摩郡 青柳警察署五日市分署	流言	朝鮮人 日本人	日本人	朝鮮人が社会主義者と連繋して八王子を襲い、管内に侵入すると の流言が起り、自警団が構成されたが、当署はそれが流言に過 ぎないことを知って、そのことを重伝したところ、幸いして秩序を 維持できた。
132	み61 公	9月2日	後4時	八王子市 八王子警察署	流言・迫害・ 検束	朝鮮人: 10名	日本人	朝鮮人が梅田方面に侵入、250名が梅田町を経て片倉町(八王子) 婦女を殺害等の流言。原典(警1352 公)によれば、本署は署長を 派遣し偵察したがそのような事実を認めず。この日、五日市分署内 の朝鮮人10名が八王子市方面で自警団数百名に囲まれたのを救 助。5日に自警団の幹部に銃凶器の携帯、誰かを暴すると厳達し た。
133	市229 公	9月2日		八王子市	流言	朝鮮人	近衛師団	飛行5人が八王子に「不逞軍人」深獲の発覚を偵察した。
194	み61 公	9月2日	後2時	北多摩郡 府中警察署	流言	朝鮮人	日本人	東京・横浜の火災は朝鮮人の放火だという流言。5時には朝鮮人 数人名が管内に暴ようとしているとの流言。後期は猛烈・同夜、管 内の土工請負者と朝鮮人16名を乗せた自動車が高川で自警団 により包囲、殺害事件が起こった(体系史料 No.139 を参照)。以後 朝鮮人を保護調整したが、3日には迫害は一層激しくなり、朝鮮人 を雇用する工場や土木業者等を襲撃。嚴重と交渉して警兵10名 の派遣を求めて危機を脱した。原典(警1382 公)によれば、6日に も朝鮮人の暴行等の流言が起った。
195	み62 公	9月2日	後7時	北多摩郡 府中警察署田無分署	流言・迫害	朝鮮人	日本人	流言が伝わることも、朝鮮人への迫害が甚るるところで行なわれ た。本署は朝鮮人へ外出させないようにより、流言を調査したがそ の事実を認めず。3日にも朝鮮人の管内襲撃が流布され、本署が 朝鮮人を保護したところ、民衆は警が憲兵に与りたとして反抗し た。原典(警1365 公)によれば、5日頃から平穩を取り戻した。
不明								
196	み39 公	9月1日	後1時	不明	流言	天竺地獄		富士山噴火、海嘯など。

史料 No.	原典・頁	月日	時間	地域	区分	被害者・対象者	加害者・関係者	内容
197	み39 公	9 月 1 日	後 3 時	不明	流言	朝鮮人 社会主義者		社会主義者・朝鮮人関連流言の初出以後、史料の同題新には流言の記述が稀くが、起こった場所が一切不明のため本案には掲出しない。
198	経20 公	9 月 2 日	午後	東京西南部	流言・坦言	朝鮮人	日本人	特に東京西南部と舟橋(マヤ)方面では朝鮮人襲来の流言により、民衆は混乱、朝鮮人の殺傷各地に起こる。
199	市292 公	9 月 3 日	後 5 時	東京府各地	流言	朝鮮人	第一師団	品川、目黒、池尻、渋谷各方面より不逞漢人が多摩川を渡河、襲撃との報。午後には品川、荒比方面からも同様の情報、斥逐を出入りさせた。被害者も多かった。
200	市292 公	9 月 3 日	後 6 時半	東京府各地	殺害・擄奪?	朝鮮人	第一師団	歩兵 20 名で目黒、世田谷、丸子方面に出勤、朝鮮人を鎮圧し、朝鮮人襲撃に因る被害を受けて同方面の人心を鎮静した。
201	経103 公	不明	不明	不明	流言・検束	朝鮮人	軍隊	予備騎兵大隊が自守近衛を警備中に捕獲した朝鮮人より、暴行のための「番号」(簿冊種類、投毒、放火)の記号を尋ねた、と述べる。

備考:

・原典の題名各詞については基本的にそのまま使っている。表に載めるにあたって表 2 に似い現在の行政区画に組み込みもしているが、区分が曖昧なものもある。

・史料 No. の数字は表紙のページ数を表す。

・数字の右側の記号

加一 加藤文三『戊午事件—起された朝鮮人権力批判』(大月書店、1991 年)

關一 關東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会編『風よ、風仙花の歌をよんで—關東大震災、朝鮮人虐殺から 70 年』(教育史料出版会、1997 年)

吉一 吉河光貞『關東大震災の治安回復』(昭和二十四年九月特別警備高島資料第一輯、法務府特別警備局、1949 年)

警一 警視庁『大正大震災の経緯』(1926 年)、日本橋軒博編、京橋北組屋、下谷谷中、浅草日本堤、芝草七軒町、本所原庭、深川南橋、深川南橋、東京水上、八王子警察署、町田分署については、流言・殺傷事件に関する記述がない。

経②一 私尾重一監修、田崎公司、坂本昇海編『關東大震災政府海軍関係史料』(II 巻 陸軍関係史料、日本経済評論社、1997 年)

経③一 私尾重一監修、田中正敏、速坂栄明編纂『關東大震災政府陸海軍関係史料』(III 巻 海軍関係史料、日本経済評論社、1997 年)

市一 東京市『東京震災記録』(前編、1926 年)中の『陸軍省及陸軍の活動』

新別一 山田昭次編、海峽『朝鮮人虐殺通史』(關東大震災朝鮮人虐殺問題關係史料 V 列巻、綜経書房、2004 年)中の『朝鮮人虐殺事件關係刑法一覽』

専一 小笠原清、宮川英一『關東大震災時の中国人人権保護をめぐり』(中央研究院近代史研究所編『日本震災研究』第 4 輯、(『専修大学』63、2017 年))

田一 田原洋樹『關東大震災と中国人—人権五事件を巡る』(岩波現代文庫、2014 年)

藤一 藤野裕子『都市と暴動の兵隊書—東京、1905—1923 年』(有志舎、2016 年)

み一 史料 No. 西崎輝夫『現代史資料 6—關東大震災と朝鮮人』(みすず書房、1983 年)

表 2 史料 No. 一 西崎輝夫『關東大震災朝鮮人虐殺の記録—東京地区別 1100 の証言』(現代書館、2016 年)

・数字の右側の記号

公一 日本政府機関作成の公文書であることを示す。

新—新聞記事によるもの(前掲「新別」も同)。

仁一 仁木みず『關東大震災と中国人大虐殺』(岩波書店、1991 年)。

中—中華民国北京政府外交資料が掲載した『日本震災後修華條案』(全 8 冊)所収史料。

・表 2 について、100 名か 2 名という記述は、計 3 名を指す。

〔表2〕民間史料に見る加害関連記録

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
足立区					
1	西12	千住	朝鮮人・A	軍隊・警察・日本人	震災から2日後、千住に家族道具を運ぶ途中、白雲団に捕まわり、警官からも暴行され、荒川放水砲でも連行された。逃げ出して帰った後、憲兵隊に習志野(収容所)に連行された(朝鮮人体験者・A)。
2	西12		朝鮮人・15~16名	日本人	長屋のような場所に15~16人の朝鮮人を住まわけていた難民が、土手のそばの清原寺に朝鮮人を集めて日本人から守らせた(柳原在生の八百屋)。
3	西12		朝鮮人・3名	日本人	9月4日夜、千住の名無医院の前で朝鮮人3人と一緒に死んでいると目撃回に罹った。警察が来ては私は日本人だと言ってもらったが他の人はバストルで殺害されたようだった。
4	西15		朝鮮人・3~4名	不明	4日か5日頃、利原の朝鮮人がその時は死体になっていた。3林か4林はあった。蘇林か何かでめつた打たにさられていた。本署史料 No.7、8、17と同じ事件か?
5	西16		朝鮮人・4名/12~13名	不明	中川放水工事の従事者のうち、幸房組の女性4人は花畑村の徳緒川の所で殺されたと言われた。矢口組の12~13人は徳谷警察署に向かった。本署史料 No.13の事件と同じか?。
6	西16		朝鮮人・50名	日本人	3日頃、本本にいた父の顔見知りの朝鮮人が追われてきた。本本にいた50人ほどの朝鮮人を集めて、青年団・消防団から守った。
7	西16		朝鮮人・10名	日本人	柳原で放水砲の朝鮮人夫が持っている家を「みんな」で取り囲み、出てきたところをよってたかたつて斬った。10人ぐらいの死体を集めた。下の本署史料 No.8の目撃証か?本署史料 No.4、8、17および表1史料 No.6、12も参照。
8	西17新		朝鮮人・李順風、李興順ほか6名	日本人	興順は聖朝同地村の田園で殺された(本署史料 No.7、17および表1史料 No.8、11、12も参照)。本署史料 No.4も関連証言か?
9	西17新		朝鮮人・李昭玄	日本人	9月3日夜10時頃、西新井村役場前で李昭玄が在郷軍人ら3名に銃銃で射殺された。本署史料 No.14、表1史料 No.4、No.5と一部の加害者の名前が共通しているが、同一事件の証言かどうかは不明。
10	西17新		朝鮮人・孫承元ほか4名	日本人	(4日)午後2時頃、埼玉町から関東義勇司令部に選出中の孫承元ほか4名を、花畑村の10名が徳淵川タカミ橋上で攻撃し、死体を川中に投げこんだ。加害者には、本署史料 No.16、表1史料 No.2と同じ名前が含まれている。
11	西17新		朝鮮人・1名/1名	日本人	千住中郷自警団の署名が同地遊撃で朝鮮人1名を、千住三福自警団員が30歳ぐらいの朝鮮人を殺害した。後者について、加害者の名前は本署史料 No.13と同一であり、同じ事件の可能性もある(表1史料 No.7も参照)。
12	西17新		朝鮮人・韓龍新	日本人	9月3日午後5時頃千住町で韓龍新を殺した2人の日本人を収監した(表1史料 No.8を参照)。
13	西18新		朝鮮人・崔圭錫	日本人	9月2日夜10時、千住町で崔圭錫に重傷を負わせた被告の判決についての証言。加害者の名前には本署史料 No.11も登場する。公文書にもこの事件が登場するが、被害者の名前が一部分異なる(表1史料 No.7)。
14	西18新		朝鮮人・1名	日本人	9月3日の夜、西新井村岡野通りで朝鮮人1名を警察で射殺した。自警団員2人についての判決証言(表1史料 No.4も参照)。本署史料 No.3と一部の加害者の名前が共通しているが、同一事件の記事かどうかは不明。
15	西18新		朝鮮人・井龍新	日本人	9月4日の夜、井龍新を千住中郷の2人が殺害した。事件の判決証言。本署史料 No.12、表1史料 No.8と同じ事件の可能性もあるが、被害者と加害者の名前の一部が異なる(増補か?)。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
16	西 18 新		朝鮮人: 5 名(名前は右記)	日本人	日本人	9月4日、花柳十字交差前門前通で、朝鮮人の韓鳳九、朴仁通、金恩鳳、李元麟、李鍾在が、10名の日本人に殺害された事件の判決についての記事(表1史料No.2および本文史料No.10も参照)。
17	西 18 新		朝鮮人: 8 名	日本人	日本人	南葛郡南総津村の朝鮮人 8 名が殺された事件の判決記事(本文史料 No.4、7、8 および表1史料 No.6、11、12も参照)。
荒川区						
18	西 20		中国人: 2 名	不明	不明	3日白で警察と軍隊が朝鮮人と中国人を殺殺せと言った。殺されたのは、三河島で中国人 2 人が殺害されたのを見た(済州島出身者の証言)。
19	西 21		朝鮮人: 2 名	不明	不明	3日朝、尾久町大字上屋久で2名の朝鮮人のうち1人を殺害し、もう1人は半殺しのまま佐藤病院に入院させた。
20	西 21		朝鮮人	日本人	日本人	三河島で朝鮮人多数があった。自警団を作って、刀剣類は自由に所持していたので、裏つ向から斬られた。試し切りだと言っていた。
21	西 22		朝鮮人: 数名	日本人	日本人	尾久の町役場前で朝鮮人数名が自警団に竹槍や刀で殺された。
22	西 23		朝鮮人	日本人	日本人	2日、日軍理で朝鮮人煙草業者との喧嘩があった。その案外に青年団が後輩に注意に注意と報告して歩いてきた。3日夜、日軍理の星屋の中に警備員が5、6人陣立、告げる警備員も兵士もいない(築川區長)。
23	西 24		朝鮮人、曹高煥	不明	不明	2日、同胞の血の付いた服を見た。上野公園で夜を過ごし、日暮里にも朝鮮人徘徊り始めた。日暮里に10口井で外に出ずについて、その後日暮里警察の分署に移った(朝鮮人体験者、曹高煥)。
24	西 24		朝鮮人	日本人	日本人	(3日、日暮里へ向かう)歩いて行く道々も自警団がいて、朝鮮人とみれば殺されるし、ちよつとも要る言葉があれば朝鮮人として引きずっていく。
25	西 25		朝鮮人	不明	不明	日暮里に行き、それから田原、王子方面に歩いて行った。朝鮮人は黙つつかるとすぐに殺された。(芝罘小学校児童の作文)。
26	西 25		朝鮮人: 約 30 名	不明	不明	南千生警察署の表庭に 30 人ほどの朝鮮人が後ろ手に縛られ、目隠しをされて次々と銃で殺された。表1史料 No.19も参照。
27	西 25		中国人: 潘潘堯	日本人	日本人	地震から3日目に3人で電車に乗って三河島まで出かけた。1人が駅に降りかかるといきなり真口で叩き殺された。降りずに逃げ帰った(中国人体験者、潘潘堯)。
28	西 25		朝鮮人	不明	不明	日暮里で朝鮮人かほとんど殺されていたと祖父が言った。
29	西 26		朝鮮人	不明	不明	1日?、日暮里で、朝鮮人が片端から殺された。
30	西 26		朝鮮人	不明	不明	南千生の方で朝鮮人が捕えられたと黒山の人が聞いた。口々に打殺せなど言っていた。
31	西 26		中国人、林誠忠ほか	警察・日本人	警察・日本人	2日、三河島の両側に着いたとたんに駅の方で悲鳴が聞こえ、多くの中国人が殺され始めた。警察と中方の両方がやってきて警々を連れていこうとしたが、本主人が交渉して運行を免れた(中国人体験者、林誠忠)。
32	西 30 新		朝鮮人: 2 名 日本人: 1 名(名前は右記)	不明	不明	9月4日午前11時南千生駅前通りで、南千生署道査係清一が保護する朝鮮人金英一、姜(姜か?)真洋を暴行し、金は殺害、残る2名が連発を食った事件で、自警団8名が起訴された。(表1史料 No.13を参照)。
板橋区						
33	西 32		朝鮮人、崔高萬ほか	警察・日本人	警察・日本人	1日、目白大寺を過ぎると、竹槍と金棒、いろいろな並んでいる。尾崎村の客には自警団がいて、妻と娘も一緒に板橋警察署に行った。4日夜、学生主体作隊、招集金協と保立一中にあった臨時警察(警現行)に行つて赤池に面会、板橋警察署に備る際にも自警団に止められた(朝鮮人体験者、崔高萬)。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
江戸川区					
34	西 36	小松川・平井	朝鮮人	日本人	小松川橋で朝鮮人を空気銃などで民間人が撃って殺害した。
35	西 38		朝鮮人:10名	不明	震災から4~6日後、小松川橋の扇戸よりの工手で、朝鮮人男女18人が殺害されていたのを見た。
36	西 36		朝鮮人	軍隊	小松川で朝鮮人が暴動との連絡で、曹長野取容所でも調査をしておかしいのを引っぱり出した。(軍隊が小松川の橋の上で朝鮮と思われるようなものをまとめて追い出し、機関銃を並べて撃った。公報記録には記載なし(表1史料No.22)。
37	西 36		朝鮮人	日本人	自警団が朝鮮人と思われものを捕ま、竹筒で突き、川端に並べ籠かトタンで覆ってある。
38	西 36		朝鮮人	軍隊	小松川に配備された連隊(野重第1連隊の岩波隊)が「朝鮮人征伐」をした(8日の朝知った)。
39	西 37		朝鮮人	軍隊	小松川の芦川土手で朝鮮人が軍隊により機関銃で射殺されたと言った。
40	西 38		朝鮮人	日本人	小松川の土手で銃撃を吊って獲ていると、自警団が表で発音の検査していたので、でかいと斬ってしまった。
41	西 38		朝鮮人:200名	軍隊	岩波隊が朝鮮人労働者など200名を殺害したとの記録(野重1連隊兵士の久保野茂次日記)。
42	西 38		朝鮮人	日本人	2日、自宅に帰る途中、小松川の丘で朝鮮人が捕まっていた。平井小学校の近くにも多数の捕かかれた同胞の死体を見た(鄭然圭)。
43	西 39 新		朝鮮人/鄭然圭	不明	小松川方面からの連射がら朝鮮人十数人を殺害してきたと在郷軍人が話した。
44	西 39		朝鮮人:十数名	日本人	手を離らされた朝鮮人が小松川の(橋の)上を引っ張られていった。夜には「あの辺の野蠻的な人間が」日本人でも殺し、放水器に放り込んだ。
45	西 40		朝鮮人 日本人	日本人	総武線の鉄橋を架けたりするときなど、土木工事に朝鮮人が働いていた。平井小学校の近くにも20人ぐら、いい朝鮮人ばたせんで殺された。
46	西 40		朝鮮人	日本人	平井土手から荒川に投げこまれた朝鮮人の死体を目撃。
47	西 41		朝鮮人	不明	小松川から望川番所まで多数の朝鮮人が生きながら埋め殺された跡地を指摘された。
48	西 41		朝鮮人	不明	(2日夜?)、停戦した荒川新水路から見ると、葦の中や小松川の橋の上などに、「死人移し替血は付近を染めていた(被害者は朝鮮人と考えられる)。
49	西 41		朝鮮人	不明	浦安の渡し橋で朝鮮人の商人が自警団により殺害された。日本人も殺された。
50	西 42	今井橋・浦安の渡し(橋通う参照)	朝鮮人	日本人	騎兵の上等兵が、亀戸から江戸川方面でずいぶん朝鮮人を殺したと自覚、江戸川の葦の中を機関銃で掃射したと言った。この地域での軍隊による殺害の公文書記録については表1史料No.25以降を参照。
51	西 43		朝鮮人	軍隊	9月1日頃、今井橋に来ていた習志野の騎兵連隊が、朝鮮人3人ばかりを銃砲で殺害した。
52	西 43		朝鮮人:3名	軍隊	4日か5日?に今井橋の上で縛った朝鮮人2,3人を刺していた。
53	西 44		朝鮮人:2~3名	日本人	
大田区					
54	西 46	大森	朝鮮人:1名ほか 日本人:1名	日本人	1日夜、大森の空き家にて40才ぐわいの朝鮮人がいたので、5,6人で囲んで攻撃に突き付した。2日後、大森で、長崎県五島列島から来た東京外語大の学生が自警団に殺害されたという話を聞いた。聖朝大森の鉄道鑑別隊で朝鮮人の死体を見た。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
55	西 48		朝鮮人	不明	2 日稼から 3 日翌明けて大森の小学校(名称不明)で、11じゆめられた朝鮮人が引寄せられて行くのを見た、
56	西 50		朝鮮人:7~8名	日本人	大森で、3日か4日に7、8人の朝鮮人も別に縛り付けておきかけて沖へ離したと聞いた。
57	西 54	羽田	朝鮮人:2名?	日本人	隣の外国人(朝鮮人と書かれる)夫婦のところに、町の大人 20~30名がけやちまると来た。要口から私の家に連れてきて匿った。
58	西 55		朝鮮人?:2名	日本人	外国人が2人でビール瓶を持って棒路を歩いているのを見つけて捕まえてみたら、羽田セントロ工場に載っている人まで、軒ら顔底なかった。
59	西 59		朝鮮人:6名	不明	東京への途中、六張橋の付近で、8名の朝鮮労働者が殺された遺体は道路に押しやられているのを見た。
60	西 59	八郷	朝鮮人:3~4名	不明	神奈川のはいり川あたりに、3、4人の朝鮮人の死骸が無造作に積み重ねられていた。
葛飾区					
61	西 60		朝鮮人	日本人	堀切の荒川の中でゴミの間を泳いで逃げる朝鮮人が、在職重人に竹槍で刺し殺された。
62	西 60		朝鮮人	日本人	本田村で、朝鮮人が切りつけられて死んでいた。
63	西 60		朝鮮人:2~3名/約10名	日本人	9月1日ぐらから上平井橋の下で2、3人、本根川橋近くで10人ほど殺された。
64	西 60		朝鮮人	日本人	四ツ木橋のところに朝鮮人を並べ、竹槍で突いて荒川土手に突き落とすと聞いた。
65	西 60		朝鮮人:17~18名	軍隊・日本人	2日夜、四ツ木駅で17、8名の朝鮮人が軍隊および在職重人と衝突し、殺された。
66	西 61		朝鮮人:2名	不明	本田村で1組の朝鮮人両親が殺されたが、子どもはどうか不明。
67	西 61		朝鮮人	軍隊	四ツ木へ避難し土手へ上ってみると朝鮮人が兵隊に追い詰められてうろうろ悲鳴を上げているのが聞こえた。
68	西 61		朝鮮人:5~6名/7~8名	日本人	9月2日に四ツ木橋を越え本田村に避難。翌朝、荒川放水路の土手に5人、6人と死んでいた。人組は朝鮮人だった。荒川土手の農家のまわりで、7、8人の朝鮮人が自警団らに捕まり、めった打ちに殺されてしまった。
69	西 62		朝鮮人	日本人	四ツ木の連田で、竹槍か何かで殺されていた人を見た(被害者は朝鮮人と考えられる)。
70	西 62		朝鮮人	軍隊	金町に近いあたり、2人の騎兵兵が田圃の中の道を、編笠をとった男を引きよって来た。次々十餘騎やって来た。
71	西 63		朝鮮人・華人在	日本人	2日夜、立石青年小学校前で青年団に捕まり実行されたが、護背で殺されそうになる寸前で動いた。
72	西 63		朝鮮人・伊集三 中国人	日本人	(谷町で)2、3日すると、夜警が始まった。自警団から私に頼んでいる朝鮮人の伊(伊?)集三を引渡せと言ってきたが、守った。また、村人が中国人を殺さしようとした朝にも、彼を諭して守った。
73	西 64		朝鮮人:8名	日本人?	川口の改修工事で働いていた幸房組と水口組の朝鮮人労働者たちのうち8人が、内務省の命令で縛られ連れていかれた。縛られたまま、水元村葛町の大場川で日本刀で殺されたのを目撃した(本表史料 No.5 の事件か?)。
74	西 64		朝鮮人:12~13名ほか	軍隊・日本人	四ツ木駅のそばで、朝鮮人に窟口を打ち込んだ。軍隊は、総瀬川の河原で縛った12、3人の朝鮮人を横間獄で殺した。
75	西 64		朝鮮人	日本人	四ツ木橋の近くで、自警団が朝鮮人の女性の手足を押さえてドラックで轢いたと聞いた。
76	西 64		朝鮮人:約10名	日本人	小菅付近で、朝鮮人が中の嵐のそばで10人ぐらいわきされ、総瀬川に投げこまれたという。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
77	西 65		朝鮮人:5~6名ほか	軍隊	兵戸嶺で5,6人朝鮮人を捕まえて、国府台の兵隊が横の上で殺した。2日、戒厳令が布かれると、馬に乗った兵隊を先頭にした水元の方から浦安の方へ土手を渡って手を縛られた多くの朝鮮人が連れていかれた。川の中に逃げた人は、兵器などどめをさされた。
78	西 66 新		朝鮮人:18名	日本人	中川砲撃工事の朝鮮人18名が、9月3日黎明、下水元舟の倉裏団により水元村大字集つまで密送され、自害団員十数名を殺害。
北区					
79	西 69	赤羽・岩淵	朝鮮人:5名	日本人	(岩淵の荒川工事事務所)の5人の朝鮮人労働者を田畑の目玉に匿った。彼らは顔や頬にあざがあった。
80	西 68		朝鮮人	不明	9月5日、汽車が荒川の鉄橋を運っていたとき、川の中の朝鮮人の死体を石を投げているのを見た。
81	西 69		朝鮮人	日本人	9日、汽車が赤羽駅から荒川土手にさしかかった頃、朝鮮人の少年を土手にひっぱっていき、400~500人の群衆を罵った。
82	西 69		朝鮮人:1名?	日本人	(8日以後)空車の下から朝鮮人が引きずり出され、リンチ刑に警官に保護されたのを赤羽駅で見た。
83	西 70		朝鮮人:40~50名/20~30名ほか	軍隊?	赤羽から十条の田圃道を警官が40~50名の朝鮮人を運りするのを見た。警官から、赤羽工兵隊で処刑するの間を見た。9月3日、荒川の鉄橋(渡しの)赤羽駅前に20~30人の朝鮮人の死体を目撃、また上野駅でトラック一杯の血まみれになった朝鮮人を見た。
84	西 70		朝鮮人:4名	軍隊	9月3日頃、赤羽の家で同居していた朝鮮人夫婦2組を憲兵と巡査が連れ出し、赤羽の工場の上で4人の首を切り落とした。この地獄に関する公文書の記録は、第1史料 No.33以降を参照。
85	西 70		朝鮮人	軍隊	赤羽の工兵隊に向かう途中、土手の坂末に朝鮮人が1人ずつ縛られ、兵隊たちが今夜切るといっていた。
86	西 71		朝鮮人	不明	9月3日、荒川改修の岩淵工場で着いた。荒川には殺された朝鮮人の死体が川に落ちていた。
87	西 72		朝鮮人	不明	4日、赤羽で鉄舟の飯桶を運るとき、初めて死体を見た。混乱の中で、朝鮮人と誤って日下人も殺された。
88	西 72		朝鮮人?	日本人	4日昼12時に赤羽停車場内で車両の落下に逃げ込んだ「暴乱」が引きずり回され、寺の箱で撲殺された。
89	西 73	王子	朝鮮人	日本人	9月2日、田端駅で捕らえた朝鮮人の身振りが物凄しい(日記の記述、王子村十条で爆発)
90	西 78	田端	朝鮮人:5名	軍隊	2日朝、田端駅の上で騎兵が朝鮮人男1名女2名を捕えたとの男た者がいた。
91	西 78		朝鮮人	日本人	3日、田端で男の人たちが棒を持って朝鮮人を追っていた(小学校置業の作文)。
92	西 80		朝鮮人	軍隊	9日、田端駅で負傷した朝鮮人を運路に引き運じた。
江東区					
93	西 84	永代橋・越中島	朝鮮人:5~6名	不明	2日、永代橋の橋際に首を切り落された朝鮮人の死体が6,7体あるのを見た。
94	西 84		朝鮮人 日本人	不明	朝鮮人の死体も難民長の死体もごちゃごちゃさせて駒形学校近辺の埋立地に埋めた。
95	西 84		朝鮮人	不明	第1夜の実夜中、朝鮮人襲来との情報。深川方面には朝鮮人の死体が方々にあった。その数は多かった。
96	西 85		朝鮮人:1名/12~13名ほか	日本人	1日、深川門前山本町で朝鮮人が民衆により殺害。3日午前3時半に相生橋の高松学校前で朝鮮人を捕え、さらに1名捕えて投殺。5時半頃、永代橋交番の傍方に12,3名の死体があった。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
97	西 86		朝鮮人	不明	2 日、永代橋を渡った荒川で捕らわれた朝鮮人の死体を見た。面のない死体もあった。
98	西 86		朝鮮人	警察	埋立地に避難した朝鮮人を警官が前後を護衛して連れて去った(深川入舟町で被災した人の回想)。
99	西 86		朝鮮人 日本人	軍隊・日本人	3 日、深川寄りの永代橋のところで、たもとに証をかけた朝鮮人の死体を見る。黒江町から本所五原への途中、同行者(日本人)が数人に殺されたが、助かった。その後、兵士が剣金で縛られた朝鮮人を運んでいるのを目撃した。
100	西 87		朝鮮人、3~4 名	不明	高橋の高丘通りで 3、4 名の朝鮮人の死体を見た。
101	西 87		朝鮮人、17~18 名	不明	永代橋、深川寄り、朝鮮人の惨状死体が 17、8 積み上ずられているのを目撃。
102	西 88		朝鮮人	日本人	3 日、越中島では、人がどがけやりをやって朝鮮人を追い回していた(高専小学校児童の作文)。
103	西 88		朝鮮人 日本人	日本人	永代橋で、朝鮮人を数珠つなぎに縛って欄干に立たせ、藁の棒で突き刺さしたという話が入ってきた。網屋の野田・木崎村に廻り着くと、東京で連れ出された日本人の一家が朝鮮人ということになって、利根川の畔で惨殺されたという話を聞いた。
104	西 89	大島(大島の中国人)	中国人	不明	3 日夕方、高野球場で、中国人たちが激進にも囲まれて逃げられなかった。
105	西 89	大島(大島は、 国人史料 表 1 史料 No.46、No.48 も 参照)	朝鮮人、450 名 中国人、王希天	不明	大島方面で殺された朝鮮人は中国人とあわせて 450 名に達した。
106	西 89		中国人、王希天	軍隊	(9 月 12 日)逆井橋で王希天(中国人労働運動家)の後ろから一刀落してそのまま歸った。当質、野暮塚第一連隊(中尉)。
107	西 89		中国人、200 名	軍隊、警察、日本人	(大島で)5、6 名の兵士と数人の警官と多数の民衆が 200 名ばかりの中国人を包囲して、片橋から高野した。中川水上署の巡査も加わっていた。虚報だけでなく、騙って財産を奪取した。
108	西 90		朝鮮人、20 名? 中国人、王希天	軍隊、日本人	9 月 3 日、大島に行く。在郷軍人が、朝鮮人が、朝鮮人とみえるが観察してしまつた。20 人ひとかたまり、地方人(住民)が 4 人、8 人と断り、(野暮第一連隊兵士だった久保野夜次の日記)。王希天の殺害についても虚報に足載。
109	西 90		朝鮮人 中国人	日本人	中国人、朝鮮人をやっちゃえ、と言ふのは、逃げ出された人に多かつた。た(さんの死体を焼いた場所は、いまガソリンスタンドのあるところだ。中国人、朝鮮人、漢方だった。警察がうるさくなくて、民間人が集めた。
110	西 91		朝鮮人 日本人	日本人	(大島 4 丁目では)警察のお通ひがあつて、自警団が「山川」川などの合い言葉と検問をして、暗号を知らない日本人も殺されたようだ。近所の下川川に死体が 4 列にも 5 列にも横たわっていた。狂婦は女性の死体が一番多かった。朝鮮人を匿うと被害に遭つた。
111	西 92		中国人、王希天ほか 日本人、林某	日本人	中国人の死体は 9 月 12 日、最善寺境内空堀に土葬された。王希天は日本人夫人(不明)に抱かれていた。中国人労働者だけを雇っていた日本人夫婦も殺された。あと 3 人も行方不明だ(日本人が、王希天に話した内容。原典では、42 頁と 36 頁に分けて記されている)。
112	西 92		不明	日本人	3 日暗くなるにつれて大島 5 丁目広場の近所も騒がしくなり、やがて 1 町ばかり先の河津での事件に参加した人びとが帰ってきた。
113	西 93		朝鮮人、1 名ほか 中国人	日本人	3 日、猿江町から小名木川方面への途中で、巡査から「不逞朝鮮人米屋」の情報があるのを警備を要請された。4 日、朝鮮人 1 名が日本人に殺われたのを目撃。その朝、大島 3 丁目の広場に無数の死体が運び込まれていて、目撃した朝鮮人の死体もここに運ばれた。その日から屠殺の取り締まりが始まる。5 日、警官から今夜広場の死体を焼くが、あの中には中国人がた(さ)ら死んでいると聞いた。
114	西 95		中国人、250 名	日本人	大島 5 丁目の死体を曳に行った。数は 250、中国人だと聞いた。狂婦の死体が凍結した。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
115	西 95		朝鮮人 中国人、陳益忠ほか	軍隊・日本人	9月2日夜、日本人らしき者が当地の日本人を呼び集め、各自が朝鮮人や中国人同胞を参照した。大島8丁目一帯は軍警が配備されていて、殺される場面を見て息もふりをして、5日になって生き残りは留置野の兵營に押送された(中国人体験者、陳益忠)
116	西 96		中国人、陳益忠	不明	地震の時、大島 3 丁目にいたが、南千住に逃げた。数日たつて働つてみたら 8 丁目の人はみな殺されて、羊畑の人も 2 人殺された。私は南千住の警察に保護された。南千住は中国人宿舎が多く(軒に 20~30 人住んでいた。(中国人体験者、陳益忠))
117	西 96		中国人?	警察・日本人	大島 4 丁目ではたぐさんの死体が 2 箇所に着き重なられ、警察が集めた「与太もん」がそれを焼いた。
118	西 96		朝鮮人?	日本人	1 日夜半、朝鮮人が投毒と聞く。2 日朝、大島 8 丁目では警官が 1 人の男を連行していくのを群衆が奪い、朝鮮人と罵りながら池に投げこみ棒で乱打して殺害したのを目撃。
119	西 97		中国人:174 名、黄子蓮	軍隊・警察・日本人	大島 5 丁目の宿舎に大勢の軍隊、警察、青年団、漁人連などがやってきて、174 人を出し入れ、近くの空地で殺り殺された(中国人体験者、黄子蓮の証言)。
120	西 98		中国人	軍隊・日本人	3 日午前 8 時、新付鉄道の兵士 2 人が大島 8 丁目の中国人宿舎に来て中国人労働者を 8 丁目の方に引き立てていった。
121	西 98		朝鮮人:1 名?ほか	日本人	3 日 P、大島製鋼所の埋地帯でピストルを構えた憲兵と自警団が、飲料水に毒を投げた朝鮮人だと言つて青年を追い詰めて射殺、殺害。その後埋戸の五ノ橋で朝鮮人妊婦の惨死体を見た。
122	西 98		中国人、王希天ほか	警察	王希天ほか 200 余名が殺害された現場を視察、王希天の殺害現場にはつきりせず、黒髪警視總監が監視片が焼をつくのほ様ですねえ!」と言つたのを思い出す(当時被験者談)。
123	西 99		朝鮮人:200~300 名 日本人:8 名	警察	4 日の朝、調査が、外国人が電戸管内に掘壕に来るもので犠牲で死体 20 人を見つけた。朝鮮人だけでなく「王希天」も 8 人殺されたと言つていた(電戸事件と考えられる。資料 No.55 および本表史料 No.145 を参照)。大島 8 丁目の大島製鋼工場の側に 200~300 人の死体を見た。私だけではなく、近所の者は皆見ている。
124	西 99		中国人:(名前は右記)	不明	2 日朝、大島 12 丁目のいとこは不在。3 日、大島の黄柱峰、黄柱峰の兄弟の宿舎で行く誰もない、地面に血痕があった。隣の人に聞くとい、みな殺されたという。阿歪、阿歪も死んだ(中国人体験者、林景栄)。
125	西 99		中国人:(名前は右記)	不明	兄の林景昌、岩賀、岩高といふ 2 人が殺された。深澤鎮では、下村 48 人、上村 12 人、計 60 人が大島 5 丁目の罹死者だった。この村から一掃に行つた同僚の者が一掃に死んでしまつて、訃報を伝える人がいない(中国人体験者、林景栄)。
126	西 99		中国人:林阿紹/林金桃	不明	2 人といふ 8 丁目で見られた。もう 1 人のいとこ林阿紹は日本人の家で匿われて働かつた(中国人体験者、林金桃)。
127	西 100		中国人:林文彦、林啓清/林達昌	日本人	いっしょに中国から日本へ行った林文彦は、日本人に電戸でやらせて南千住まで連れてきて死んだ。林啓清も林油昌もやらせて働の手当てを要しないまま通州まで帰つて死んだ。私は日本人の親方の家に逃げて働けられた(中国人体験者、林啓清)。
128	西 101	電戸	朝鮮人:2 名	日本人	電戸駅から、朝鮮人 2 名が征調軍人に引き立てられて出たところを、青年団が駆け寄つてきつて棒で刃で斬殺した。
129	西 101		朝鮮人 日本人:石毛留古	警察	9 月 1 日夕方、流石言葉が殺されたと聞かされた。9 月 2 日、電戸大寺公園で戸長警察署長は避難民を前に、危険な朝鮮人や社会主義者を全員逮捕するから協力せよと演説。私は聞かなくて高橋に引取られ、電戸署で拷問を受けた。留置場は立つたままのすし詰り。朝鮮人、労働運動者、社会主義者が逮捕された(石毛留古の証言、石毛)については本表史料 No.145 にも記載がある)。

史料 No.	頁	地域	被害者/関係者	加害者/関係者	内容
130	西 102 新		朝鮮人: 5 名ほか 日本人	日本人	朝鮮人に刃みな日本人がい、2 日から 7 頃まで亀戸町の朝鮮人 5 名をはじめ、大島、斎藤、小松川で百余名の朝鮮人を自警団から救助。4 日夜柳島砂浜橋では、朝鮮人を助けようとして群衆に負傷させられた。助けられた凡山は亀戸署で通存されている。
131	西 102		朝鮮人	軍隊	2 日午後 2 時、亀戸に習志野橋と連繋が到着。列車攻めで朝鮮人を白刃に銃剣で攻撃。兵隊が多くの朝鮮人を切ったのはこの夜だった。
132	西 103		朝鮮人: 15~16 名	軍隊/日本人	2 日になって働けなかった亀戸の狭橋近の長屋に引き返した。そのうち戒厳令がかけられ、一般の者も刀を銃を持てと軍隊が命令、それで朝鮮人を殺した。十間川に引き込んだ朝鮮人は痛殺で奪られた。2 日か 3 日のはたは大家だった。狭橋近くのガラス屋の朝鮮人 15、6 人を亀戸警察に連れていった。その後小松川土手で軍隊に痛殺で殺されたと聞いた。
133	西 104		朝鮮人	不明	9 月 1 日の夜、朝鮮人が運搬してくるとの流言。朝鮮人を田圃に追い込んで殺した。
134	西 104		朝鮮人	日本人	2 日の夕方が夜、学校に入った。夜に流言を聞き、立ち番した。大島の方でワーワー声が聞こえたり、頭を叩かすけにして縛られた人が何人も連れていかれるのを見た。
135	西 104		朝鮮人	日本人	朝鮮人は自警団にやたと日本人刀、竹槍で突き刺され、少し躊躇して言えば十間川は死体黒々だった。
136	西 105		朝鮮人 日本人	日本人	2 日、城東電車の芝罘停留所近くで、白昼朝鮮人を何人も斬り殺した話を聞いた。5 日、亀戸第一尋常小学校で、朝鮮人に刃向い運えられて軍隊を受けた人が何人かいた。
137	西 106		朝鮮人	日本人	1 日の夜、亀戸 3丁目から柳島橋を本所の刃に運ると右側に芝屋があり、そこで朝鮮人を生きに共まぶげこんでいるのを見た。
138	西 106		朝鮮人	軍隊	亀戸駅で警察が逃げる朝鮮人を射殺するのを見た。
139	西 107		朝鮮人: 李	日本人	亀戸で朝鮮人従業員が李さんが助けに来て、押し入る中に匿った。亀戸の町で朝鮮人が殺される場面を目撃。止めていたらこちらがやられたらどう。
140	西 107		朝鮮人: 李	日本人	工具の李を匿い、流言が集まってきたから巨艇車を与え逃げた。
141	西 108		朝鮮人	軍隊	3 日の朝、亀戸五の橋の文番前で、馬上の憲兵が「今晩 7 時頃小松川方面から朝鮮人の隊舎がある」と報道していた。
142	西 109 新		朝鮮人、関係者/曹長純	日本人	9 月 1 日午後 10 時亀戸町で 30 歳の朝鮮人を殺害した 2 人に容赦を出した(資料 No.61 の事件)。9 月 3 日午後 3 時亀戸瀧園地で関係者を殺害し曹(曹か?)巨艇に重傷を負わせ 5 人を監視した(表 1 史料 No.58、No.59)。
143	西 109		朝鮮人、李教振ほか	警察?	亀戸警察に収容された。与えられた服に腕一つを余計に渡すのを拒否された人がいた。(朝鮮人体験者、李教振)
144	西 110		朝鮮人 中国人	軍隊/警察	亀戸警察署で兵士が人間の死骸を引きずっている。朝鮮人や中国人が巡査や刑事によって中庭に引きずり出され、殺害されたようだった。
145	西 110		日本人: 石毛留吉、平沢計七、川合義虎ほか	軍隊/日本人	亀戸署の待合所刑罰室がやってくる石毛留吉急運行。顔相が変わるほど股から腐って帰ってきた。亀戸警察署では平沢計七、川合義虎ら 9 人(実数は 10 人)が殺された(亀戸事件。本表史料 No.123、129、No.148、No.329、No.384、表 1 史料 No.55 も参照)。労務会本部の塚本理は白旗旗で自警団に殺された。
146	西 110		日本人: 平沢計七	軍隊	亀戸警察署では社会主義者を連れ出し荒川土手で殺したと習志野警察署の兵士が言った。そのうち平沢(計七)さんの靴が土手の上で見つかった。本表史料 No.45 も参照。

史料No	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
147	西 111		朝鮮人；(名前不記載)	軍隊	米戸警署で韓兵が朝鮮人 88 名を殺すの直前にした。被害者のうち、朴成根、金在基、趙鈔敏、趙正朱、趙正夏以外の名前はない(羅丸山の話、本書資料 No.130 参照、崔承基の回顧)。
148	西 111		朝鮮人；30~40 名ほか／全統岩 日本人	軍隊・日本人	2 日夜、電戸の飯場で同隊 20 人が黒龍会の連中に日本刀で斬り殺された。私は 3 日の午後 3 時頃電戸警署に收容された。4 日明け方、電戸事件の騒ぎを聞く。道路の両側には 30~40 人の死体が横たわっていた。産婆は日本まで来たが、回陰赤十字などの調査が来るまで夜中よんだ。死体は深川の四ツ木橋のたもとでもあった。四ツ木橋で騎兵隊が同隊を機関銃で殺したと聞いた。大島でも多くの朝鮮人職工が殺された(金忠岩の証言)。
149	西 113 新		朝鮮人／鄭然圭	日本人	新聞記者と一緒に古森警察署長から、電戸署に收容した朝鮮人が民衆たちに殺されたほどのめかされる。その後遺体を埋めた現場に行った(鄭然圭)。
150	西 115	田羅漢寺	朝鮮人；20~30 名 日本人；5~6 名	軍隊	羅漢寺の境内で日本人と朝鮮人が乱闘になり、憲兵隊がやってきて一斉射撃で殺してしまつた。朝鮮人が 20~30 人、日本人も 3、0 人殺されたという話だ。
151	西 115		朝鮮人；8 名	日本人	2 日午後 3 時半、大島町の五百羅漢で朝鮮人 8 名が自警団に捕えられて殴打され、溺死になった。
152	西 115		朝鮮人；16 名	日本人	9 月 1 日、夕方、電戸警署に收容された朝鮮人を警官隊に護送する途中、羅漢寺の近くで、憲兵と兵隊一隊がついていた。4 人の朝鮮人を民衆が殺害、軍隊、警察もいよいよにろとろとつぶれはかりに消えた。
153	西 116		朝鮮人 日本人；戸沢仁三郎ほか	日本人	1 日の晩には流言が広がりがり、2 日には朝鮮人狩りが始まつた。朝鮮人、主義者、警察に反発的な人間羅漢寺の墓地に連れていって、自警団が竹槍や刀で惨殺した(日本人、戸沢仁三郎)。
154	西 116		朝鮮人 日本人；戸沢仁三郎ほか	日本人	自警団が警察の手伝いをした。仲間(日本人労働運動家)が朝鮮人と一緒に羅漢寺に連れていかれてそこで殺された(戸沢仁三郎の証言)。
155	西 117		朝鮮人；20~30 名ほか 中国人	軍隊・日本人	大島の方か岸の運池で 20~30 名くらいの朝鮮人が殺されていた。十間川のほとりに朝鮮人、中国人を立たせて軍隊が銃殺したという話を聞いた。
156	西 117	砂町・州崎(補遺も参照)	朝鮮人	軍隊・日本人	朝鮮人 人夫を殺した部分(電戸警署に捕まらな)が、憲兵隊に銃殺された。小名木川に絆った朝鮮人を投げこんだのを見た。
157	西 118		朝鮮人	日本人	州崎の養魚場に行く途中に朝鮮人らしい死体がゴロゴロしていた。焼け残った電柱に朝鮮人が縛られていて、血だらけだった。
158	西 118		朝鮮人；100 名ほか	日本人	2 日、砂町で朝鮮人が捕まえられた。また大勢の人が朝鮮人をたたき突いているのを見た。3 日、11 時頃、100 名ほかの朝鮮人が 15、6 名の軍人に護送された。
159	西 119		朝鮮人；20 名	日本人	2 日か 3 日の夜、砂町の小学校の校庭に、後ろ手に縛られていいる人が 20 人ぐらいた。首を切っていた。
160	西 120		朝鮮人	不明	我が家の東方の貯米所に集められた朝鮮人の遺骸を火葬にする産婆が匂ってきた。それが臭いが強い。
161	西 121		朝鮮人；鄭子ヨほか	日本人	州崎から火事が延びり川へ流れた。小舟を作っている人、丸太を持つた人が父や職人を運んでいた。その後、残りの家族 4 人である、男がやってきて殺す脅迫された。警察に行き、曹志野へ運送、父と再会した(小舟主らつた鄭子ヨの作文)。
162	西 122	深川	朝鮮人；25 名ほか	日本人	ガラス工場の大工 70 人のうち、55 人が朝鮮人だった。大井の製糖業のガラス工場に朝鮮人を預けた。本所、深川には朝鮮人が多く、すいぶん殺されていた。小名木川に浮かんでいて、臭う新だった。
163	西 122		朝鮮人	日本人	(3 日、深川(樺原)に)警察が朝鮮人を捕えて高層をぶちやぶらしたというので、警察署留置所生徒に西平野警察署に護送させた。

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録—東京の記録から

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
164	西 123		被害者・関係者 朝鮮人:3名	日本人	3日、十五銀行荻川支店の前に朝鮮人が3人殺されていた。電柱にくりつけられていたと聞い。
165	西 123	丸八橋、連開橋	朝鮮人:3名/30~40名/6名	軍隊・日本人	3日後4時頃、大島町連開橋で朝鮮人3名が軍隊に殺された。2日、大島町より行徳に通じる川中橋で、朝鮮人30~40名と青年団が衝突し、軍隊の応援もあって、朝鮮人全員を殺害。3日後、小名木川田中川の朝鮮人6名を焼跡、軍隊により殺害。
166	西 124		朝鮮人:20名/10名	軍隊	3日、父と丸八橋の近くで、橋の右側に10名、五側にも10名、川に撒落とされて軍隊が銃撃。連開橋でも10名の銃撃体を見た。死体が浮いているのは朝鮮人だけだった。
167	西 124		朝鮮人:1名 中国人:3名	軍隊・日本人	3日、連開橋で橋の欄干に1人の男が縊らた。朝鮮人を切りつけ、川に投げこんだ。連開橋から五反橋の方に行き行ったところでも3人の男が後ろ手に縛られ、群衆が殴りつけていた。そばには騎兵銃を持った軍人。服装は中国人だった。
168	西 125		朝鮮人 日本人	軍隊・日本人	兵隊が銃剣の血のしみを流としていた。どこそこでは何人殺された。誰それは朝鮮人と間違えられて半殺しの目にあつた。という話をしていた。小名木川で面たけた人の死体が流れているのを見た。引き潮で海まで流れて、上げ潮で戻ってくるまで、三度も見えた。
品川区					
169	西 128	在原、戸越	朝鮮人	軍隊	(六木の連隊に)捕縛すると休止する暇もなく、「朝鮮人の不穏行動に対処」のため岡ヶ谷、五反田に出勤した。美弾80発などを撃たされた。この地区には朝鮮人の部隊があつた。彼らの生命を暴力から守るために、トラックで警察署に護送した。
170	西 128		朝鮮人	警察	在原は朝鮮人が多かった。土方ばかりだった。水道が出るようになって、おまわりは朝鮮人には飲ませなかつた。朝鮮人の大人を封鎖で縛ってどこかに連れていった。
171	西 130		朝鮮人:2名ほか	日本人	3日、横浜方面から殺されてきた朝鮮人は容赦なく自宅用の手で殺された。重傷者、殺された朝鮮人が担架等で品川警察署へ引取られていった。早稲に行くと、朝鮮人2名が電柱に縛り付けられているを見た。
172	西 130 新		朝鮮人:5名(名前は不記)	日本人	9月2日午後9時頃、荏原郡大崎町の朝鮮人入会会館を、会館中、村一、高風、高風、村守人が連籠を負つたが、赤十字病院で手当を受け助かった。加害者の大崎町生人3人が収監された(表1史料No.79を参照)。
173	西 131	大井町・野塚	日本人:1名?	不明	町の中華そば屋の主人が殺されたという話を盛で聞いた。
174	西 131		朝鮮人:5~6名	不明	家のすぐ裏に馬糞を作つて行商する朝鮮人が5、6人いたが、家財も高赤道具そのままにしていなかった。
175	西 133		朝鮮人:1名?	日本人	2日、町人が男を旧東海道の新川1060の角にあつた交差点まで連行した。巡査の知り合いの朝鮮人だった。
176	西 133		朝鮮人	日本人	3日の夕方、川崎方面より流言が伝わり住民が警戒した。翌日縛られた朝鮮人が交番(旧国運北浜川)に引き立てられていった。
177	西 133		朝鮮人:全線不明ほか	日本人	大井町で働いていた。飯場には19名の朝鮮人労働者がいた。1日夕方6時頃、日本人が窓口などを持って飛び出し、夜遅くに芝倉と尾倉2人と住所の日本人が仏たちを逮捕して品川警察署に向かうが、途中で何度でも自宅団に逃げられた。品川警察署は数千の群衆に囲まれ、警察署に入つてからも銃撃は止まらなかつた(朝鮮人、全線不明)。
178	西 134 新		朝鮮人:1名/文彦山	日本人	大井町の長屋に住んでいた文彦山の家にも大勢の日本人が日本刀や窓口を持ってやって来たが、大家さんが出でてくれた。同郷の人が朝鮮人は何も悪いことばしてない、抗議に行く以外に出かけた数分後、日本人の一回がその差を竹槍に突き刺して目の前を運つていった。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
179	西 135		朝鮮人：4～5名	日本人	1日夕方、朝鮮人が六軒まで押し寄せたとの情報。午後9時、ラッパの音かして軍隊が到着、やがて海岸の方で銃声、4、5名の朝鮮人が絡繰をつたってやがてきた。土工の境方が自分の家に匿うと書いて置れていた。
180	西 135 新		朝鮮人：洪弘耀	日本人	9月2日午後5時、荏原郡平塚村下駄塚で、木剣や棍棒で洪弘耀に重傷を負わせた3人が今秋執行処断された。記録により被害者の名前が異なる(表1史料No.70)。加害者は他にその事件を記している(本表史料No.190、表1史料 No.78)。
181	西 136 新		朝鮮人：李柱模	日本人	9月2日午後6時、平塚村惣塚で棍棒で李柱模に重傷を負わせた3人に今秋執行処断した(表1史料 No.71)。一部の加害者は日本人被害者・傷害事件も起こしている(本表史料 No.182、表1史料 No.69、71)を参照。
182	西 136 新		不明：1名/1名	日本人	2日後5時半ごろ、平塚村下駄塚で20歳の男、同じ地域で27歳の男が日本刀で殺害されているのが発見された。被害者を承審に付した。一部の加害者の名前は、すぐ上の本表史料 No.180、No.181にも出ている。
183	西 138	品川・北品川・大崎	朝鮮人：3名	日本人	品川沖の八丈丸から上陸した後、3人が日本刀やピストルで惨殺されたのを見た。自分たちも脅迫された。
184	西 138		朝鮮人	不明	1日、デマが飛び交った。幸い品川方面は火事はなかったが、右往左往した。数日後、縛られた死体がお台場に数体流れ着いた。
185	西 139 新		不明／鄭然圭	日本人	品川辺りは、自宅の刀を棒で打って、早瀬河岸に立って、川から上がって来るのを片端から斬った(朝鮮人、鄭然圭)。
186	西 139		朝鮮人：7～8名	警察	2日、岩崎警察別働隊の閉軍團に遇った。依、刑事が入ってきて7、8名の朝鮮人を連れていった。
187	西 141		朝鮮人	警察	1日夜、刺腰の道堂が巡警で、朝鮮人が投擲、暴行するかも知れないので自警団を作れ、朝鮮人は警察に突き出せとふれて行った。
188	西 141		朝鮮人、日本人(名前は右記)	日本人	品海路隊に負傷して入院した者について。島山丈夫(表1史料 No.77 参照)、姓名不詳の朝鮮人、朝鮮人張善景とこの息子張善星が運び込まれた。
189	西 142		朝鮮人	軍隊	3日、北品川空襲で警備をしていた軍隊の増援が朝鮮人への警戒を呼びかけていた。
190	西 146 新		朝鮮人：1名 日本人：2名	日本人	9月2日夜、五谷田の自警団が半鐘を乱打している間に通りかかった朝鮮人を乱打、人事不省に陥らせ、さらに日本人2名を殴打し人事不省にした。事件は、9名が起訴され市ヶ谷刑務所に収監された(表1史料No.78)。この犯人は別の朝鮮人への傷害事件を起こしている(本表史料 No.180)。漢字が一航異なるが関係か？。
191	西 146	鈴ヶ森	朝鮮人：2名	日本人	2日11時頃、雑居建物の事務所に朝鮮人が数人逃げ込んで、群衆により1名が殺され、1名が袋だまきにごされた。この事件については本表史料 No.192、No.194も参照。
192	西 146		日本人	日本人	2日頃から流言が起った。ヌメ社にれとい人がいるのが怖かった。町会で3件の事件が起ったが、殺されたのは皆日本人だった(本表史料No.191、No.194の記述とは異なる、竹下らの証言)。
193	西 147		不明：1名	日本人	鈴ヶ森の石碑の横の通り、海岸側の商店に1人の男が血だらけで縛られているのを目撃。
194	西 148		不明：1名/1名	日本人	濱の屋といつ料理屋の前で男が1人殺されていた。海み社の前でも1人重傷(後者は「竹下」だとされており、本表史料 No.182 の証言者。この事件については本表史料 No.191、No.192 との間で記述が食い違い、事実がどうであったかは判断しえない。
浜各区					
195	西 152	蓮玄坂、方一下で朝鮮人を2名殺したとの自覚語を聞いた。	朝鮮人：2名	日本人	知人から、蓮玄坂、方一下で朝鮮人を2名殺したとの自覚語を聞いた。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
196	西 152		朝鮮人	警察	1 日早、〇〇(朝鮮)人騒動についての流言:〇〇人だと噂をとよまかっただけでひどい目にあわす。2 日、夜が明けると、巡査がやって来て、一軒一軒に、朝鮮人の放火や殺害に警戒せよとふれ歩いた。
197	西 153		朝鮮人:4 名 日本人:1 名	日本人	4 日夕方、代々木沼ヶ谷で止められた自動車で朝鮮人 4 人と日本人の運転手がいて、あるいは屠殺、あるいは縛りつけた後に渋谷警察署に引戻した。
198	西 154		朝鮮人:12~13 名	軍隊	3 日、沼ヶ谷で朝鮮人 12、3 名を捕まえた。2、3 名が抵抗したので捕った。騎兵連署は馬上から捕つたと聞いた。
199	西 154		朝鮮人:1 名?	軍隊	渋谷通りで騎馬式が血だらけの朝鮮人を世田ヶ谷方面より引きよづつてくるのを見たといい噂を聞いた。
200	西 156		朝鮮人	日本人	9 月 1 日以来、朝鮮人暴動の噂。田山花袋から蒙の庵に送ってきた朝鮮人をふん殴つたという話を聞いた。
201	西 156		朝鮮人:70~80 名	日本人	青山学院大学の警官室に朝鮮人 70~80 人が逃げた。学院長の許可を得て一緒に暮らすこととなった。
202	西 157		日本人:千田屋也	日本人	千駄ヶ谷駅の線路の上の土手を上った同連れ殺されそうになった。知り合いに救われた(千田屋也の回想、5 名の由来を記す)。
203	西 159		朝鮮人?:1 名/1 名 日本人	日本人	1 日夜、朝鮮人の襲撃。放火、投擲の噂。初台で、1 人の男を群衆が捕まえた。蛇巻で下宿した農家の主人は日本人を間違えて殺してしまった。夕方、代々木の道を武器を手にした群衆が 1 人の男を追いかけた。
204	西 160		不明:1 名?	日本人	3 日の夜、頭、顔から血を流している(同誌の男)死者で連れていくのに出くわした(田山花袋の回想)。
205	西 165		朝鮮人:3 名	日本人	2 日夜、千駄ヶ谷の下西の道に遊蕩していた朝鮮人 3 人が青年団に連行されて淀橋警察署に行く途中で暴行を受けた。翌志野に送られる前日に星野川に行つて橋のひどさに驚いた。
新宿区					
206	西 170	牛込、市ヶ谷・神楽坂、四谷	日本人:1 名	日本人	西念寺の墓地で警官団が 40 歳ぐらゐの紳士を殴った。妻が「私の主人です。朝鮮人ではありませんが」と必死に夫をかばった。
207	西 171		朝鮮人	日本人	2 日、町(の頭)が投擲者に注意をしようとする警告をしてくる。前の町には軍隊が極老身の剣で並んでいた。町の人が戸山学校の方に避難せよと言った。
208	西 171		朝鮮人	軍隊	(市ヶ谷沼沢町で被災)2 日夜になる前に、自宅が破壊された。家に戻る途中で人が大勢集まっていた朝鮮人が打たれていた。
209	西 171		朝鮮人	日本人	2 日、山吹町で朝鮮人が捕まった。
210	西 172		不明:1 名?	軍隊	4 日夜 11 時、牛込方面より男が逃げてきて市ヶ谷見附車場と反対側の橋に飛び込んだ。歩哨が銃殺した。日本人の朝鮮人は不明。
211	西 172		日本人	日本人	社会主義者だと言われて橋を殴り回され、負傷した。
212	西 174		不明	日本人	井天可(牛込区)の家に着いた翌日(2 日)、午前中から武装した民間人が巡査や軍隊にまじって徳義を唱ふ、外国人らしき者を先つけると尋問した。飯になると一層激しく罵詈雑言を吐いて逃げつづつての末、逃走し、身。
213	西 174		朝鮮人:15~16 名/金鐘在ほか	日本人	1 日夜、朝 7 丁目、市面通りに女警員が群衆が、朝鮮人の青年たちが群衆を殴り倒らしていた。やがて朝鮮人の暴鳴が聞こえた。2 日朝、四谷坂町の派出所に入るとしたら本勢の男に囲まれて四谷警察署に行つた。四谷警察署では血塗れの前に 15、6 人ぐらゐの朝鮮人が保護されていた。知り合いの情高刑事により、自宅に引取られて退散した(朝鮮人体験者、金鐘在)

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
214	西 175 新		朝鮮人:3名/1名/宗連匡、張善善ほか 130名	日本人	3名の朝鮮人が持っていた武器を奪取と断られ、断行。四谷町の労働者の母が日本語が話せず殺されそうになった。本署に保護された朝鮮人は、平野中學校の宗連匡、張善善ほか 130名で、学生6分、商業労働人未だ4人だった(四谷警察署長の記録)。表1史料No.92には二の出来事は記されていない。
215	西 176		朝鮮人:2名	日本人	大隊の方向にしている蘭館の家を訪ねて石切館の道を遠くと近くの交差点に負傷させられた2名の朝鮮人が自害園に連れてこられた。
216	西 176		朝鮮人	軍隊	9月9日に東京へ入り、近衛連隊で捜査、夜は練兵場で野営した。班長が、朝鮮人が暴動を起すから武器を盗まれるなど注意した(習志野海兵19連隊期間隊長(廣の兵士))
217	西 177		日本人:1名	軍隊	3日の嵐煙、江戸川橋の戒厳出陣で貴族、朝鮮人だらう?と兵士に止められた。何人も日本人だと強調し、通過した。
218	西 177		日本人:1名?	日本人	四谷町内でも洋装屋の主人が朝鮮人と疑った青年を射殺したら、承野県出身の大学生と判明した。
219	西 177		朝鮮人:2名	日本人	2日昼下がりに、神楽坂警察署に2名の朝鮮人が連れてこられた。薫口をまともに受けた男警察の玄関に投げ入れられた。同じ時間、警察の検閲には「不逞鮮人の一派が暴動を起こそうとしているから警戒せよ」との張り紙があった。(表1史料No.88(参考))
220	西 179		朝鮮人:2~3名	不明	牛込の付近でも、3名の朝鮮人が殺されているのを見た。
221	西 179		朝鮮人	日本人	(2日)飯田橋、神楽坂付近か?)群衆がxを求めて半殺しの目に合わせる光景をも目撃した。
222	西 180		日本人:1名?ほか	日本人	3日か4日、早稲田警察署から朝鮮人襲来・市内騒に備えよとの命令が来た。牛込の月井寺に数人の朝鮮人が潜んでいるのを捕えよという命令も出たが、日本人の犬だった。牛込の井天師が突発的に怪しい人間を捕えて突き殺してしまった。確認すると日本人だった。
223	西 180		朝鮮人:尹秀相ほか5名	日本人	四谷区阿で神楽坂警察署に連れていかれた。武道館のホールにはすでに40~50名いた。その後勤め先の新聞店主の家に匿われたが、ほかに韓国人が5人いた。隣の青年から引渡しを毎日要求された。2週間目に出外できなくなった(尹秀相)。
224	西 182		不明:1名?	軍隊	「射血したたる怪臭」が兵士2、3名に平らねられたから電車通りを引かていくのを見た(四谷第五尋常小学校の記録)。
225	西 185	早稲田(補遺も参照)	朝鮮人	軍隊	留守にしている間、息子久保の自宅に避難した兵士が来て朝鮮人が井戸に毒を入れるので注意せよと言って帰った。町中に散れ回っているとのことだった。
226	西 185		朝鮮人:朱某ほか6名	日本人	2日、戸塚方面を歩いていた中国人学生が青年団に捕えられた。早稲田大学の朝鮮人学生の家、土井の巨蛋園が早撃つていた。朱某は、兵6名と果敢に避難する途中で兵隊警察に捕まり、6人の友人は殺され、彼1人は交番に駆け込んだ命を助けられた。
227	西 186		不明:1名ほか	日本人	(戸山原練兵場近くの家で)2日の晩か、ドラマが飛び始めた。夜になって1人の男を捕まてひどく殴られて断れているのを自撃した。外肥の土手では、250トルで射殺した。を撃たした。
228	西 187		日本人:1名	軍隊	軍隊が出動して世を固め通りの人を訴何した。3日目に家に避難してきた小父が朝鮮人と捕えられ、やっとなしもらった(当時、牛込区早稲田尋常小学校6年生)。
229	西 187		日本人:(名前は右記)	軍隊	4日だったか、その日の早朝、近所に住んでいた柳屋正吉と平林たけ子(子)が、銃剣を持った兵士に追いつられて戸塚へ連れて行かれたという知らせがあった。(下落先が確認した戸山原)

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
230	西 189	茨城・角宮	被害者:不明 1名	日本人	2 日新宿で、1階席の者が暴れた。瓦斬ンクへ襲撃を掛けようとしたというので、新宿の青年委員らしい若者や在籍軍人等の協力を短力で制したと聞いた。
231	西 189		朝鮮人	日本人	鶴巻町でもデマのために自警団ができて私もメンバーになった。江東方面、下谷浅草で罹災し生き残った多くの朝鮮人が石川牛久保方面に避難してきたのを、自警団員に誘われた。
232	西 189		朝鮮人、日本人(名前は右記)	警察・日本人	日が暮れた頃、浅草警察署から犯者の送捕回書重査所員に来て、警察署に連行された。集団に襲われるようになった。警察署では木下東伸、釜次竜、幸憲、朴然、金子ふみ子、鄭然圭などにまつた。朴次竜子は印谷警察署に移送された。韓国入前事(毎日新聞)に毎日掲載された。窓の外は盛通りで、竹藪で 1 人の韓国入を刺しているのを見た(朝鮮人労働運動家の金素善)。釜次文子らの拘束については、表 1 史料 No.84 を参照。
233	西 191 新		朝鮮人:4名/鄭然圭	日本人	私たちと一緒に浅草署に検束された朝鮮人には、行く途で残酷な目に遭って死んだ者が 4 名ほどいたようだ(鄭然圭)。
234	西 191		朝鮮人	日本人	1 日に流言があり、翌日さらに大きくなった。角宮周辺では大騒ぎで、「朝鮮人が 5、6 人いる、出せ」と言われたが、守った。
235	西 192		日本人:5名	日本人	自警団が家に来て「ここにばか少しらがらうので朝鮮人だと疑われた。5人で交番、それから浅草署に行った。(押通出身者)。
236	西 194		朝鮮人:約20名	軍隊	憲兵隊に呼び出され、浅草の有楽園に収容した約 20 名の朝鮮人について説明した。
237	西 194		不明:1名	日本人	3 日目の夜、西大久保で 1 人の青年が殴打、被害されるのを見た。
238	西 195		悪童・不明	日本人	2 日、豪雨で車に乗った巡査と一緒に歩く 1 人の男が群衆に殴打されたのを見た。
239	西 196 新		朝鮮人	警察・日本人	2 日夜から 3 日午後にかけて、浅草、巣鴨、浅草橋方面ではオートバヤに乗った警官や在籍軍人等が朝鮮人の暴徒をふり回った。宮坂庁でも 2 日中には朝鮮人の運動を非業であると喧して居たようだ。
240	西 197	新宿	朝鮮人	日本人	友人から新宿近辺で朝鮮人を斬ったという話を聞いた。
241	西 197 新		朝鮮人:5名	軍隊・警察・日本人	朝鮮人 3 名を巡査 1 名と自警団 10 名ばかりで平死半生の目に遭わされていた。新宿駅では憲兵隊の上等兵が指揮して自警団員数百名が日本刀と村田銃で衝軍に警戒していた。
杉並区					
242	西 203		朝鮮人:14~15名/2名	日本人	3 日の夜が明けると、私どものところ(下高井戸)から西へ 1 里ばかりの烏山で、朝鮮人が 14、5 人も重傷を負わされたと言った。また、その翌日の昼頃には、藤井の正居で、2 人の朝鮮人が自動車から引きずり下ろされ、「1-1 かやめた」とのことだった(江塚秋輔)。烏山事件については、表 1 史料 No.130、本表史料 No.378 を参照。
243	西 203		朝鮮人:3名(名前は右記)	日本人	1 日、鶴見と金草堂、金三寿の兄弟は、泊まった柳葉坂の家の主人に勧められて中野に避難した。しかしこれも危ないということになり、高井戸の江塚秋輔の家で匿われた(金三寿)。
244	西 205		朝鮮人、日本人(名前は右記)	日本人	1 日、韓明相(朴烈)等の不逞社(加入)は同郷の金敏奎、金三幸とともに曙園神社で夜を明かし、牛込の石田友治に立ち寄った後、東中野の伊藤証屋の庭裏院に行った。しかし、当局や自警団に犯われる可能性があるというので、高井戸村の江塚秋輔の家に行つて身を隠した(小沢隆二)。
245	西 205		朝鮮人:伊克榮ほか全 17 名	軍隊	余黨が数多く、高円寺の下宿の近くの竹林で留学生 17 名でかたまって野宿していたら、中野の電燈第一連隊の兵士 7、8 名に連行され取調を受けた(伊克榮の証言)。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
墨田区					
246	西 208	香焼・小村井	朝鮮人	軍務・日本人	1日夕方、唐つば(現東あずま公園)に通ずる某武線の踏切に憲兵隊が3人やって来て、蓮田の中にピストルを撃ち込み、遊徒民(朝鮮人が井戸のなかに糞物を投げた、かよぶような朝鮮人は罵たらは殺すと命着。みんながいきりたつて隠れていた朝鮮人を殺した。
247	西 208		朝鮮人	不明	小村井へ行く道に朝鮮人がごころ死んでいた。
248	西 208		朝鮮人	日本人	真武線の線路沿いにおいでしていると、あちこちに朝鮮人の死体があった。朝鮮人があまひらんでいない深野川でも1日午後には轟動の噂がとんでいたので、多く住んでいる場所では噂が一層大きく伝わりびとを恐怖に陥れさせたのであろう。
249	西 209		朝鮮人	日本人	東京モリス工場裏手の蓮池辺に遊徒3、4日頃から朝鮮人を捕まえて、在朝鮮人が石蔵か警官かその時にはわからなかったが、小松川の方へ運んでいた。朝鮮人が池のなかへ逃げ込んでいた。
250	西 209		朝鮮人	不明	9月1日の夜から流言。小村井の霊岩神社(筆の大塚本前設置)の案のやらの下には、死体がいっぱい運び込まれていた(朝鮮人と考えられる)。
251	西 210 新		朝鮮人:1名	日本人	9月3日午後1時、吾妻町宇大坂で怪不詳の朝鮮人を撲殺した犯人に命令を執行。表1史料 No.109も参照。
252	西 210	両宮ヶ原付近	日本人	日本人	日本人が朝鮮人と間違えられて殺された。日本刀でめった切りに殺された人もいた。2、3人ぐらいがいろいろな場所で殺されていた。前田回昌署の前が原でぼつぼつでも殺されていた。
253	西 210		朝鮮人:1名ほか	不明	ふじ柳文番でも朝鮮人が1人殺されていた。学校のあったところでも財宝で隠られて殺されている朝鮮人もいた。
254	西 210		朝鮮人	日本人	両宮ヶ原の池の所でも朝鮮人が殺された。平井橋の所でも隠分やられた。
255	西 210		朝鮮人:2~3名	日本人	1日の夜に両宮ヶ原に行つた。朝鮮人が蓮田に逃げた。竹槍で2人か3人殺されるのを見た。1人は女性だった。
256	西 211		朝鮮人:2~3名	日本人	両宮ヶ原に逃げた。1日の真夜中に朝鮮人騒ぎが有り、朝鮮人を囲んで丸太や鉄棒で殴り殺していた。朝になるまで殺された2、3人の死体があった。
257	西 212	講地・甲上・横川	朝鮮人:2名	日本人	1日頃9時頃、向島語地稲荷神社のそばで朝鮮人2名が群衆に追い詰められたが、1人は逃げた。
258	西 212		朝鮮人	日本人	5日朝、講地を横切る際池をとりまく人たちが武器を手にして騒音をあげていた。朝鮮人を叩き返して逃げたためであった。
259	西 212 新		崔先ほか朝鮮人	日本人	9月5日、吾妻町地飛木福壽院で崔先ほか2名が脊で殺害された嫌疑で、5名が重戸署に検挙。東京地方裁判所で審理中。公判にふされたが、証人不足で5名とも無罪の判決を言い渡された。表1史料 No.62、No.106、No.107も参照。
260	西 213 新		朝鮮人	日本人	本所区横川町日本産製株式会社工場の朝鮮人職工多数を殺害した。
261	西 213 新		朝鮮人:30余名	日本人	1日午後、講地にいた30余名の朝鮮人が任意に襲撃され殺された。
262	西 213	旧西蔵橋・安田	朝鮮人	日本人	3日、御蔵橋のたもとで、半殺しにした朝鮮人を生きたまま突き落して殺した後、川に放り込んだのを見た。
263	西 214	底園	朝鮮人	日本人	5日、御蔵橋で朝鮮人を木に繋いで、通りすがりが持っている金棒で打ち、亡くなった人を岡田川に投げたのを目撃した。
264	西 214		朝鮮人	不明	朝鮮人を殺した血で御蔵橋の下の水が赤くなった。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
265	西215		朝鮮人:1名?	日本人	朝鮮人が道いかけられて十輪車から北千住川に飛び込んで2日間隠れていた。父の家に逃げるとき、後に朝鮮に帰ったそうだが。
266	西215		朝鮮人:5~6名ほか	日本人	安田邸の下流100メートルほどの隅田川岸で、針金で縛った朝鮮人に石を投げた。安田邸の操業では、5、6人の朝鮮人が針金で縛られ、生きたまきまきや焼かかれたの見え。
267	西215新		朝鮮人、日本人(名前は右記)	日本人	3日夕刻7時頃、土木建築労働者の遺体達が朝鮮人21名と日本人2名を連れて西園橋付近小舟の橋たまりにかかる。目撃者に虐待され、武佐が署名が捺番された。武の落の意代巴が東京裁判所検察局に事件を訴え出した。
268	西216	鎌ヶ湖周辺	朝鮮人	日本人	2日夜、白鷺に当て鉢留の工場で野宿していると、竹槍を持った若者が2人3人、9人と人網にして朝鮮人を捕まえてくる。刺し殺されるのを目撃。
269	西217		朝鮮人	日本人	隅田川安流の朝鮮人を幸島警察署に運れていく途中で取り囲まれ、朝鮮人は藁口でやられて被害された。
270	西217		朝鮮人:500~600名	日本人	5日午後、藤村の向島工場の中へ、金全劉が日本刃で重傷を負わされた事件で、犯人を処刑した。ま1史料No.120にこの犯人とよく似た名前的人物が登場する。
271	西218新		朝鮮人:金全劉	日本人	9月1日午後8時頃、真澤橋御隠田町で、金全劉が日本刃で重傷を負わされた事件で、犯人を処刑した。ま1史料No.120にこの犯人とよく似た名前的人物が登場する。
272	西218	菊川橋、錦糸町・電沢	朝鮮人	不明	菊川橋のたもとにすっぽんと朝鮮人が殺されていた。後ろ半に縛られ都電の掛けで曲がった線路を背負って運らされていたり、錦糸町でも小名木川の水が臭うまになるくらいだった。
273	西218		朝鮮人、釜字文ほか4名	日本人	10日ほど過ぎて、私たち朝鮮人が殺されていた。後ろ半に縛られ都電の掛けで曲がった線路を背負って運らされた。釜字文の証言。
274	西219		中国人:3名/2名/2名/名/廉福興	軍隊・日本人	3日夜、大島8丁目共済会を襲って、連で3人の同郷人が打たれ、連で2人の中国人労働者が銃弾に連れられるのを見た。菊川橋のあたりで2人の中国人労働者が銃弾に連れられるのを見た。火にあって死んだ者と殺された者との区別ははっきりした(金典の証言)。
275	西219		朝鮮人:3名/4名	軍隊・日本人	3日夕方、大島8丁目共済会を襲って、連で3人の同郷人が打たれ、連で2人の中国人労働者が銃弾に連れられるのを見た。菊川橋のあたりで2人の中国人労働者が銃弾に連れられるのを見た。火にあって死んだ者と殺された者との区別ははっきりした(金典の証言)。
276	西219		朝鮮人? 2名	日本人	3日夕方、菊川橋際で、縛られ藁口で日本刃で殺されている。2名の朝鮮人を見た。どうも朝鮮人ではなかった気がしている。
277	西220		朝鮮人:1名? 中国人:1名?	軍隊・日本人	本所区鶴沼町新車庫で縛られた事件があり、目撃証人が証言したが2人の軍兵が連れ去った。朝鮮人遺体を射た後、錦糸町では路上に中国服を着た若者の死体があつた。電車の中には殺された中国人の死体が多くあつた。
278	西221	白鷺橋付近	朝鮮人・コウドウ	日本人	久保田工所で働いていたコウドウさんという朝鮮人を警備隊員が襲った。
279	西221		朝鮮人 日本人	不明	白鷺橋で、悪いことをしていた朝鮮人と名が付けば、日本人でも朝鮮人に似ていればやられた。
280	西221		朝鮮人	日本人	白鷺橋を渡ったところで、竹槍を持った男たちの一団が朝鮮人を殺していた。
281	西221		朝鮮人	日本人	白鷺橋には多数の朝鮮人が倒れており、自分が死んだ4日の正午頃までそのままだった。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
282	西 221		朝鮮人:1名?	日本人	白鶴で朝鮮人が脚足を持った2人に引きずられてきた。木川に投げ込まれ、泳ぎ着く方向に走り出した一回が麓口で殺害した。
283	西 222		朝鮮人	日本人?	3日のお宿屋3時頃、白鶴神社に行き、足まで足を洗って川に放り込まれた朝鮮人の死体を見た。神社の裏側の川でも死体を見た。足廻と脚尻の死体も見た。人形町の向こうもひどい様子だった。
284	西 222		朝鮮人:1名/鄭宗碩	日本人	自分分は、白鶴橋から寺島警察(朝・向島警察)まで歩く際に、産婆された死体の山と、腹田川に投げ込まれた死体の血の海の中で取巻され、毒漿(取り囲まれた練武場)を走り回った(祖父一家は日本人に雇われて働いていた、体験者で会った父から聞いた話-鄭宗碩)。
285	西 224		日本人:1名	日本人	1日のお半、流石。2日朝8時、自警団が白鶴橋で、東北郡の45、6の男を斬り、川に落とされて殺害した。
286	西 225	寺島警察署付 近(横濱七参 照)	朝鮮人	日本人	メリヤスやセーターを作っているオヤジが朝鮮人は職員をボイラーの中に監禁した。
287	西 226		朝鮮人:4名	不明	曳舟川のとこにミツア石蔵工場があり、朝鮮人が4人殺されていた。
288	西 226		不明 2~3名	不明	曳舟川に2、3人の死体が浮かんでいた。そのまま10日ぐらい放っておかれたようだ。
289	西 226		朝鮮人、日本人	不明(軍隊)	殺されたのは朝鮮人ばかりではなく、毒漿、琉球、鹿児島の人もいた。(寺島)警察署の前、常務の原っぱには死体がゴロゴロしている。軍隊は9月2日あたりから来て、重防台野戦軍砲に朝鮮人を連れていった。
290	西 226		朝鮮人、李毅振	警察	玉ノ井の家に3日隠れていた。朝早く5時に出て警官に9問に捕まり、毒漿をはめられて亀戸警察署まで行った(朝鮮人林修者、李毅振)。
291	西 227		朝鮮人	警察	1日、夜に入ると警官が馬上から在日朝鮮人の反乱を伝え右往左往する。本陣方面の喚声は不逞朝鮮人に自警団と警察隊が斬込んだのだと別の喚声かふれてくる。
292	西 227		朝鮮人、金	日本人	9月1日の夕暮、小倉橋の方向で銃声が聞こえ、流言が流れた。車向島の小倉頭(藤原)の自警団が押しかけてきて、「金さん」という朝鮮人をせとま票した。小倉頭に向かい、町内の人たちはも逃げつけてきた。
293	西 228		朝鮮人:5~6名	警察、日本人	寺島警察署の前で、5、6人の朝鮮人が死んでいった。警察もやったけど自警団もやっちゃった。(兼「史料 No.113」には記載なし)。
294	西 228		朝鮮人?	不明	寺島警察の庭の中で穿つてある死体を見た。
295	西 228		朝鮮人?	不明	寺島警察に産婆された死体がトラックで運ばれてくるのを見た。
296	西 229		朝鮮人	日本人	遊離した寺島で、1日に朝鮮人が舟戸に毒を投げたという噂。毒が消防の持つ盾口を持ってきて朝鮮人に対する運用として推定された。その後、近くのどぶ川で町の住民に殺された朝鮮人の遺体が浮かんでいた。
297	西 229		朝鮮人?	日本人	寺島警察の前に山のように死体があった。
298	西 229		朝鮮人:13~16名	警察?	寺島警察署の広場にミンゴを捕まられた朝鮮人の死体が、15、6あった。「当時警察といえれば絶滅的だったんですが、そういう警察がやるんだから……」。
299	西 229		朝鮮人:3~4名	不明	地蔵から1週間くらい後に曳舟川の警察(寺島警察署)のところの、3、4人の朝鮮人の死体を臭に付った。
300	西 230		朝鮮人	日本人	9月1日の夜に流言が起こり、寺島警察の前に遊離していた。夜、陣の音が聞こえ、若い人たちが朝鮮人を寺島警察に連れてくる。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
301	西 230		朝鮮人:360 名余/曹仁承	警察・日本人	1 日夜、荒川上野四ツ木橋上で自警団に捕えられ、2 日朝に寺島警察署へ連行、門の両側の警官の白旗も同胞の血で染まっていた。警察署に連行された朝鮮人は 360 人余だった。しばらく経った後、朝鮮人同窓会が逃げよとしようとしたのに気がつき、門に逃げたところを自警団に撃たれそうになり、警察の盾に落ちた。その後、庶務で凶器が刀を握っていた同窓を 8 人殺し、多くの人が傷ついた(曹仁承の証言)。
302	西 231		朝鮮人?	日本人	向島司法系寺の墓場を横切ったとき、その空堀に惨死体がいっぱいで墓道にまで及んでいた。
303	西 231		朝鮮人	日本人	1 日夜から流言がどひかつた。2 日頃、警察が井戸の水を飲むなと言ってきた。朝鮮人が運匠の中に入らたといつて、自警団が連日回っていた。玉の井の今で言う暴力団が先導ですいぶん動つたと言いた。自分の所属の家が朝鮮人を使っていて、逃がすのに苦勞をした。匿っていることかばれとやられる。警察で保護するといつても、警察に踏み込んでやっちゃうんだからどうしようもない。
304	西 232		朝鮮人:1 名ほか	日本人	私たちが泊まっていた夜(2 日、現向島郵便局辺)、1 人道田の前で殺された。朝鮮人だつて聞いた)。それから 3 日か 4 日くらい、曳舟川の土手の所を縛られて四ツ木に向かう行列を見た。
305	西 232		朝鮮人	不明	3 日ぐらいに曳舟川沿いで朝鮮人が殺されていたのを見た。
306	西 232		朝鮮人:30~40 名	日本人	寺島の自警団長として空欄にあつた。当時寺島にあった日本電線工場の朝鮮人が 30~40 人いるのを知っていた。大衆が械斗を致すと思つたので寺島警察署に保護を頼み、1 人ずつ警察に送がした。
307	西 234 新		日本人:警察署長	日本人	2 日夜、寺島警察署を数十名の自警団が襲ひ、朝鮮人を監禁しているとして菅野署長以下に暴行を加えた。
308	西 234 新		不明:1 名	日本人	寺島警察下の交番で保護を加えていた某に暴行した事件で、数名を拷問、絶食の予定。
309	西 234 新		朝鮮人:1 名	日本人	9 月 3 日午前 1 時頃、向島曳舟通で朝鮮人 1 名を強奪した犯人 1 名に令状執行取監、この犯人は表 1 史料 No.111、No.112 の事件も起こしている。
310	西 234 新		朝鮮人:2 名	日本人	9 月 3 日正午頃、向島玉ノ湯横で七首で朝鮮人 2 名を殺害した犯人 2 名に令状執行取監。犯人のうち 1 名の名前は表 1 史料 No.103 にも登場する。
311	西 234 新		朝鮮人:崔秉熙ほか 1 名	日本人	9 月 3 日午前 11 時、寺島村玉ノ井の朝鮮人女性崔秉熙に日本刀で重傷を負わせ、ほか朝鮮人 1 名を殺害した犯人が令状執行取監された。表 1 史料 No.117 も参照。
312	西 234 新		朝鮮人:1 名	日本人	9 月 3 日午前 9 時、寺島町玉ノ井で朝鮮人を殺害した犯人 3 名が令状執行取監された。表 1 史料 No.118 も参照。
313	西 234	原公園	不明	日本人	原公園や阿宮の原、四ツ木橋下、京浜電鉄の築路上などで(奇蹟に遭つた人)を見た。
314	西 235		朝鮮人	警察	2 日朝(8 時)に原公園付近で警官が朝鮮人を多数殺すのを見た。
315	西 235	本所警察署跡	朝鮮人:2~3 名	警察	(3 日、麻糬のたもとで)兵隊と巡査が立ちま。朝鮮人らしい人が 2、3 人が巡査に誰向され引つ張られていった。
316	西 235		朝鮮人:10 名/李達心	不明	本所公会堂の前でも 10 名が殺された(朝鮮人体験者、李達心)。
317	西 236		朝鮮人:3 名	日本人	4 日後、向島国技館内警察署へ捕われた 3 名の朝鮮人のうち、1 名は群衆に殺され、2 名は拘置された。
318	西 236		朝鮮人:4 名ほか	日本人	被服廠跡のわずかな空地で 4 名の朝鮮人生きたまま焼死した。焼死連三ツ目通りで朝鮮人が買置かれてあつて死んでいた。
319	西 236		朝鮮人	日本人	本所深川では捕えた朝鮮人を軍村に(くつりけり)にしたのを見た。また、火あぶりにしたという話を聞いた。
320	西 237		朝鮮人	日本人	3 日、本所で電車の線路に吊られた朝鮮人を見た。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
321	西 238		朝鮮人	不明	5 日、本所方面の瓦人の安告を尋ね、奄羅殿跡の磚瓦林に目を奪い、途中で屠殺された朝鮮人の屍五体を多数目撃した。
322	西 238		朝鮮人: 1 名?	軍隊	3 日、被服廠に軍人が見受けられた。死人の所持品を盗んでいたとして、兵隊に逮捕された者が「御鷹蔵の方へ」呼ばられていた。知る限りで甲三匡人川だった。
323	西 238		朝鮮人	日本人	本所被服廠近傍で、自警団員に朝鮮人が殺された様子を父から聞いた。
324	西 238		朝鮮人: 1 名?	日本人	(2 日、被服廠跡から監獄へ行く途中で、兵隊さん、朝鮮人を捕まえてと言われ、見るに殺された朝鮮人の男を運いかける韓人がいた。関わらないを避け、返事もしないで監獄を渡った。
325	西 239		朝鮮人	日本人	(新大橋)にも、もう朝鮮人と分かると殺された。被服廠の中でも朝鮮人を殺した。
326	西 239		朝鮮人	日本人	(新大橋)のもとにみんが刃や女んが持って運来して朝鮮人を殺してしまっ
327	西 240	旧四ツ木精田 辺	朝鮮人: 8 名ほか	軍隊? 日本人?	その晩(9 月 1 日)かな、荒川側の土手で、朝鮮人が 8 人ぐらい、自警団が軍隊か(によって殺されたか)は知ら ないけれども、河川敷にねころがっていた。射殺のようだった。四ツ木橋の上で後頭筋を切られてまだ生き ている人も見た。
328	西 240		朝鮮人: 15~16 名	不明	自動車でどつつかから死体を 15、6 体運んできた。土手に沿って深い穴を細長く掘ってレールを、魚を眼く刺のように 置いて焼いた。そのまま穴に落とすして埋めた。朝鮮人の骨はその後 2、3 年して公園に埋め、その後またどこかの 寺に運んだと聞いた。
329	西 241		日本人: 川台義彦ほか	警察	亀戸警察署で殺された川台(義彦)などの死体を四ツ木橋に捨てたといふことだった。そこに取りに行く、多くの 人が死体でころがっているのを見て、探すのを諦めた。亀戸事件については本義史料 No.123、145、頁 1 史料 No.55 を参照。
330	西 241		朝鮮人: 2 名? / 20 名	日本人	1 日は荒野くに流言を聞き、近くのホータイ倉庫に逃げた。朝鮮人の母と子どもを、竹藪を持ってたたちから運つ た。京成荒川の真切の所に朝鮮人が 20 人ぐらい、木根川橋のもとに並べられていた。3 日ぐらいして、米俵に結 めて持って行った。
331	西 241		朝鮮人	不明	京成線の線路の上に鉄棒で打たれた朝鮮人(の遺体)を何人も見た。
332	西 241		朝鮮人?	不明	8 番線の手ひらに穴をあけられつなげられたことも、荒川の土手に 5、6 人の死体があった。
333	西 242		朝鮮人: 5~6 名	日本人	朝鮮人は逃げたり、川に入ったりした。荒川の土手に 5、6 人の死体があった。
334	西 242		朝鮮人: 5 名余	軍隊	朝鮮人が荒川の土手で 5 人ぐらい倒れているのは男だ。土手で軍隊が機関銃で撃つたといふ話は聞いた。
335	西 242		朝鮮人	日本人	学校(木下小学校)のあたりは田んぼや蓮田で、家の前にも田んぼがあつた。地雷の後、朝鮮人がこの田んぼ に逃げきて、棒で叩き殺された。
336	西 242		朝鮮人	軍隊	馬に乗った習志野の騎兵が「悪い朝鮮人を殺すんだ」と言つて家の近くを通つた。この軍隊が(四ツ木橋跡)の文 番のすぐ下で殺し、死体を桶にかけて隠かし、土手のすぐ下に埋めた。
337	西 242		朝鮮人: 30 名	日本人	確か 3 日の夜だった。荒川の四ツ木橋の下手に朝鮮人を何人も連れてきて、自警団が機関銃を撃ち方してた。
338	西 243		朝鮮人	軍隊	四ツ木橋の下手の葛田区曲の河原で 10 人ぐらいすつ朝鮮人を撃つて並べ、軍隊が機関銃で撃た。また死んで いない人間をトコソの線路の上に並べて焼いた。橋の下手に 3ヶ所ぐらい穴を掘つて埋めた。朝鮮人の遺体をト ラックに積んで持ってきた。同頁の次の記録では、後で子マどわがいろいろお持ちになつた、と回想。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
339	西 244		朝鮮人：7～8名ほか	軍隊・日本人	軍隊・日本人	京成荒川駅(現・八広駅)の春間に温泉池という大きな池があり、逃げ込んだ朝鮮人 7、8 名を自警団が網絛で繋った。荒川駅の前の土手に連れ去ってきた朝鮮人を並べて岳隊が機銃掃射した。穴を掘らざれば、埋めて埋めた。
340	西 245		朝鮮人：洗聖宇ほか／李教泰	日本人	日本人	洪聖宇に聞いた話では、埋っていたアサヒ工場(京成荒川駅近郊のゴム工場)にこれらの青年たちがやがて来て、いとこを醤油皿で殴り、外に引っ張り出して殺した。いとこと言うと自分も殺されるから言えなかった(朝鮮人 体録者、李教泰)。
341	西 245		朝鮮人	日本人	日本人	荒川工場の四ツ木橋から堀切橋にかけては、朝鮮人の死体が山をなす有様だった。
342	西 245		朝鮮人	軍隊・警察・日本人	軍隊・警察・日本人	荒川放水管では火が勢いよく燃えていて、巡査、在籍軍人や自警団が代り動いていた。豆腐から土手まで死体で被られていた。亀戸警察署が重隊と出陣して使役し、また病院に幾百という大量の死体をここに運んできて焼いている。朝鮮人ばかりでなく、日本人(社会主義者もいる)と話していた。
343	西 246		朝鮮人：22～23名ほか	軍隊・日本人	軍隊・日本人	旧四ツ木橋の下流の土手下で 22、3 人の朝鮮人を後から機銃掃射された。女にほいたはずちを揉みつけた。朝鮮人を連れてきたのは向こう岸(薬師側)の人だった。幸島(警察署)に連れて行かれる前に四ツ木橋の土手下で殺された。
344	西 246		朝鮮人	不明	不明	9 月 2、3 日の噂だっと思ふ。荒川の土手から火葬場と同じ臭いが漂ってきた。旧四ツ木橋の氷道線管のあたりだったと思う。人の話では線路のしーる(手)を渡して、その上の人に置き置き、燃えやすくしたという。
345	西 246		朝鮮人	不明	不明	3 日目の夕方、荒川橋のところに○○○○(ひふいてせんか)がひんていた(尋常二年の小学生の作文)。
346	西 247		朝鮮人：10名余	日本人	日本人	四ツ木橋の所で、朝鮮人を 10 人ぐらいいび殺した。木下川寄り。北向にして、
347	西 247		朝鮮人	日本人	日本人	(朝鮮人の)首に縄を付けて運ぶ引きずって、土手で自警団が日本刀で切った。
348	西 248 新		朝鮮人：100 余名	警察	警察	〔亀戸警署で殺された砂町消防団員の〕死体をまとめて吾侬軍の(朝鮮人の)死体と共に荒川放水管堤防で焼いて現場に埋めてあるから、いずれが軍の遺骨であるかわかりません。〔亀戸警察署長〕
349	西 248		朝鮮人：数 10 名	軍隊・警察	軍隊・警察	現場の周辺には、ポリス、憲兵、騎兵 13 連隊などが取り囲んでいて見られなかった。橋中央に行ってもう一度見ると、数十名の遺体があった。いまの末通川橋と旧四ツ木橋の間あたりだった。
350	西 248		朝鮮人	軍隊・日本人	軍隊・日本人	(1 日夕方)着いたのが四ツ木で、橋のたもとで外国人が背中を切られてうめいていた。夜には自警団が機銃で撃ち死した。その後自警団に捕まった。その時騎兵が 2 騎来て、毒問の後殺された。
351	西 249		朝鮮人?	不明	不明	旧四ツ木橋を渡ったとき、橋のそばにある文書の付近でひとかたらの遺棄された死体を発見した。
352	西 249		朝鮮人：10 名	軍隊	軍隊	9 月 5 日、旧四ツ木橋の西詰に来たとき、朝鮮人 10 名、そのうち女性 1 名が兵隊さんの機銃掃射で殺されていたのを見かけた。
353	西 249		朝鮮人 12 名ほか、横島節	警察・日本人	警察・日本人	(荒川堤防、京成鉄橋で)4 日朝 2 時頃、武装した一団が、選別長が朝鮮人が推めた。林道一が私に遭害を聞きださず殺されてしまった(この後、橋から降りるが、自警団に捕まり自傷、幸島警察署まで引きずられた。死体運搬車でも勢が弱く出た。夜線では関係者が 12 名、そのうち親戚が 9 名も殺された(朝鮮人 体録者、横島節の証言)。
354	西 251		朝鮮人	軍隊	軍隊	自警団ができたのは 1 日の晩だった。憲兵は、あくる日あたり国府台から来た。聖志野の騎兵は馬で来たので早く捕らされた。それから朝鮮人殺しが始まった。兵隊が殺した時、みんな万歳をやった。
355	西 252		朝鮮人	軍隊	軍隊	1 個大隊 20～30 人くらいいた。2 週に亘って歩兵が背中から撃った。憲兵は 2～3 日続いた。朝鮮人の死体は憲兵隊の立会いのもと、焼き捨ててしまった。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
356	西 252		朝鮮人：14 名 / 3 名 / 曹仁承	日本人	1 日の晩、四ツ木橋を渡って同館 14 名がまたまつて女性も 2 人いた。消防団に導かれた。夜 8 時余、荒川駅付近の土手が崩がしい。まなこ虚脱だとは思わなかった。翌 9 日、同時に寺島警察に行かぬに四ツ木橋を渡った。そこへ 3 人連れてこられ、殺された。その時自分の目にもどりが打ち込まれた。橋は死体でいっぱいだった(朝鮮人体験談者、曹仁承の証言)。
357	西 253		朝鮮人：20 ~ 30 名	日本人	1 日夜、旧四ツ木橋の土手の近くの原っぱに避難した。朝 8 日、土手に行くとおまわりが立っていた。朝鮮人が 20 人 ~ 30 人ほど殺されていた。殺したのは一般の人だった。
358	西 254		朝鮮人?	日本人	四ツ木の原の向こうから血だらけの男を結わえて運れてきて、それを斬って下に落とす。橋の少し下手に穴を掘って投げこんだ。
359	西 254		朝鮮人：2 ~ 3 名 日本人?	軍隊	2 日か 3 日頃、軍隊が荒川の裏に機銃を撃ち込んでいた。旧四ツ木橋に脱走が来て、2、3 人射殺したという話を聞いた。兵隊系の人が見られたという話もあった。旧四ツ木橋あたりには死体がドロドロしていた。
360	西 255		朝鮮人：12 ~ 13 名	不明	1 日、四ツ木の方向に避難する途中、荒川にかかっていた水運設備のあたりで朝鮮人が 12、3 人殺されていた。女性が 2 人いた。
361	西 255		不明	日本人	9 月 1 日夜半、旧四ツ木橋の橋桁を頼りに鉄橋を吊り梯子でなかに入っていたら、阿蘭山崎が上り、梯子で降り、それがいづらからおさまった頃、血が落ちてきた。
362	西 256		朝鮮人 日本人	軍隊	殺した者の遺骨はどうしたか尋ねると、古倉亀戸警察署裏には四ツ木橋の少し下流で掘いたから自由に拾ってくれたこと、私は、そこは鹿頭銃が振え付けられ朝鮮人が数百人殺されたのは公知の裏屋裏裏から遺骨の骨かわかるまいと認した。
363	西 257 新		朝鮮人：3 ~ 4 名	日本人	9 月 7 日午前 0 時、荒川放水路の土手下空地で銃声の朝鮮人 3、4 名を殺害した 4 名を今状執行処置した。一部の加害者の名前は表 1 史料 No.119, No.117 にも登場する。
364	西 257 新		朝鮮人 日本人	軍隊・警察	亀戸警察署が前夜、骨を掘り返しと聞いて、亀戸事件の遺骸が埋蔵の荒川放水路(旧四ツ木橋)の下流(ママ)に出かけたが、警察官と憲兵が寄せ付けた。至 11 月 14 日、現場がまたたび掘り返され、全部一まとめで 3 名のドラップで持ち去った(亀戸事件については本表史料 No.145 を参照)。
365	西 258 新		朝鮮人・要	日本人	産婆の際、寺崎町荒川放水路下で朝鮮人学生 2 人を日本刀で殺害した犯人の判決記事、表 1 史料 No.114 を参照。
366	西 258	阿国橋	朝鮮人：2 名	日本人	3 日、阿国橋を渡り走って製氷会社の傍から水をもらって出た所で、巡査に運行された 2 名の押入れられた朝鮮人
367	西 258		朝鮮人：2 名?	日本人	が野次馬に後ろから銃撃で打たれ、倒れたのを目撃した。
368	西 259		不明：1 名	日本人	阿国橋のたもとで朝鮮人の雲梯が壊れ、数人暴行を受けて警官に引渡された。
			(補遺も参照)		阿国橋を渡りあるところで、射殺が 1 人の男を突き落とす、上からバケツの水と石が投げられた。
369	西 262		不明	不明	2 日後 1 時より避難民が来る。朝鮮人警察と云う。午後 3 時に軍隊乱打、午後 4 時半に朝鮮人を威迫するたむ砲兵隊が空砲を発射、これで流言を止めた。その夜は不審で警戒する。8 日より厳密な警戒、多摩川砂利川の朝鮮人工夫とはドラクラーで 1 ケ所に運搬した。三軒茶屋で殺害事件があった(勝光園に語る)、当時の世田谷区町風による記録。
370	西 263		朝鮮人：12 名 / 2 名 日本人：1 名	日本人	2 日後 10 時 30 分頃、諷刺方面より代官橋自動車部、電撃した自動車が高山で非常線を通しようにして動けなかつた、13 名の朝鮮人(うち 1 名日本人)を捕縛した。3 日の夜、世田谷で憲兵と巡査が朝鮮人 2 名を捕え取調中、自警団員が殺害した。

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録—東京の記録から

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
371	西 264		朝鮮人: 300~400 名	軍隊	二子玉川近郊の中州でも 300~400 人の朝鮮人が騎兵第 13 連隊に包囲捕縛された。それを書いたのが樋中谷利一の小説『一兵卒の生涯』手記である(この小説の引用が同頁にある)。
372	西 265		朝鮮人: 50 名	軍隊	二子玉川に渋谷水道の水源地があり、朝鮮人が水道を作っていた。爆轟の噂で工事現場にいた朝鮮人を一所所に集めた。激闘争が出て、隊旗を掲げ、軍隊が水源地を守った。10 時頃に軍隊の激突の音で、村の若も朝鮮人も大騒ぎした。朝鮮人は 50 人ぐらいいた。軍隊では、「難れだ」3 回言って応答がなければ殺して構わないことになっていた。
373	西 267		朝鮮人: 3 名ほか 日本人	不明	2 日、三軒茶屋で 3 人の朝鮮人が捕らわれたと聞く。3 日にはそこそこで不逞朝鮮人、不逞日本人が発見され、殺されたと思われる。
374	西 267		朝鮮人: 3 名	不明	高山では労働に付く途中の 3 名の朝鮮人を殺してしまっ(表 1 史料 No.130、本表史料 No.378~No.380 の高山事件?)。
375	西 267		朝鮮人: 1 名ほか	日本人	2 日夕方、駒沢で半鐘が鳴った。やがて世田谷から軍隊が仕動してきた。いたるところで群衆が朝鮮人をいじめている。3 日の昼間には三軒茶屋で警官が 1 人の朝鮮人をどストルで射殺したという噂も出ていた。
376	西 268		日本人	日本人	2 日午後 5 時半、駒沢で「群衆騒ぎ」が短く続いた。その後には動揺も増え「むしろ」内地人が韓人と間違えられて引かれるやら、たちの悪い人が民衆の騒ぎをやるなどの滑稽「が所々に演ぜられた。
377	西 269 新		朝鮮人: 朴某	日本人	9 月 2 日午後 5 時 40 分、世田谷太子堂付近で朝鮮人朴某が殺された事件で、写真業を営む犯人が今状執行収監された(表 1 史料 No.133 を参照)。
378	西 269 新		朝鮮人: 洪基台ほか 24 人	日本人	高山の朝鮮人被害者の氏名は、比較的軽傷者は金丁石、魯■珍、李敬植、權留徳、許行寛、朴在香、朴澤先、朴敬銀、李永善、金希伯、高聖伊、李承中、宋聖伯、高慶烈、洪徳元、金珠榮、文仁世、(図内)●(1 王 1 福)、「王」)、金仁壽、崔七孝、鄭三俊、赤十字病院へ送られた者は金善和、金鏡光、成?■。被害した者は洪基台。本表史料 No.374、No.376、No.380、表 1 史料 No.130 を参照。
379	西 269 新		朝鮮人: 17 名	日本人	9 月 2 日午後 8 時、北多摩郡瑞穂町中町から新橋方面へ向かう貨物自動車に乗っていた日本人 1 名と朝鮮人 17 名が牛蒡村字高山地区の甲州街道で警視庁の取締りを受け、車中に 15 名の朝鮮人を連れている。逃げた。2 名も捕まった。巡査の連係で中町から職員が急行して手当てをしたが、被害者の 1 名が 3 日朝亡くなった。本表史料 No.374、No.378、No.380、表 1 史料 No.130 を参照。
380	西 269 新		朝鮮人	日本人	上記の本表史料 No.378、No.379 の事件の犯人 12 名が起訴されたという記事。
台東区					
381	西 272	浅草高田	不明: 2 名	不明	6 日、吉原土手のお曹屋とが、縛られて投げ込まれた死体者 2 体発見。
382	西 272		朝鮮人: 2 名 / 6 名ほか	日本人	2 日午前 1 時、2 名の朝鮮人がいけのを見つけ、1 名は殺し、1 名は発見された。1 日夕刻、朝鮮人が(朝音曲線)を出てくるのを警察に殺された。朝鮮人 6 名が青年団員に攻撃され殺された。伝法院の頃の捕えられた朝鮮人が殺された。浅草公園では、朝鮮人が殺された者が多数だったという。
383	西 272		朝鮮人	日本人	9 月 6 日、今戸の建具屋が来て、朝鮮人殺害を自慢していた。
384	西 273		朝鮮人: 3 名 中国人	日本人	9 月 2 日の晩、朝鮮人や中国人を殴ったその場で殺してしまっ。ひょうたん池のなかで殺される朝鮮人を 3 人見た。
385	西 274		不明: 1 名?	日本人	3 日、浅草で、団十郎の銅像の前あたりに労働者らしい若い男の死体が横たわっていた。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
386	西 275		朝鮮人:1名?	警察・日本人	(下谷浅草西で)17、8歳の朝鮮人の少年が在籍軍人に引つ張られていく群衆が暴行を加えた。隣 の船着では、席つばに控えていた。者を滅多切りにして襲撃に運じた。
387	西 276		日本人?	日本人	2日、浅草公園で朝鮮人だとして捕まえられた人が、群衆により交差し運ばれて いかれた。
388	西 277		朝鮮人?	日本人	1日、火の中をくり抜けようやく浅草公園へ驚く。一瞬もせず電を断かした。自警団は怪しいと噂の者や警察 の空襲警に押し込む。2日に警官が取調の上解放しても自警団は承認せず、殴り降り火に放り込まれを繰り返した。
389	西 279	浅草橋	朝鮮人:2名ほか	日本人	御徒町では朝鮮人が殺されたという話を聞いた。店(浅草区浅草橋井町の屋敷の前で、針金で巻かれえら れる2人が息絶え絶えになっていた。
390	西 279	入谷、下谷、根 岸、巢谷、三輪	朝鮮人	不明	5日は三ノ輪で捕らわれた朝鮮人が生きたまま荒川に投げ込まれているのを見た。
391	西 279	金杉	朝鮮人:2名ほか	日本人	2日阪本方面の火災は三ノ輪方面からの延焼だが、罹災者は朝鮮人の放火だと確信している。3日夜、日暮里か ら赤羽に向かう途中で、17歳の朝鮮人が捕えられ、群衆に殺されるのを見た。引越者警隊らしき2名の朝鮮人が 捕えられていた。
392	西 280		朝鮮人	日本人	2日夜、日暮里駅と鶯谷駅の間で銃声がかして騒がしい。人が追いかけていた。朝鮮人が殺されたと言った。
393	西 282		朝鮮人:1名?	日本人	9月4日に上野より田圃に行く途中で死体を3体発見した。1人は朝鮮人だった。
394	西 283		日本人:1名	軍隊	入谷の市電車庫で、電車の運転席の下に付いている備で寝ている人がいた。誰かがそれを見て「朝鮮人だ」と叫 んだ。その人ががむくりして逃げ出したら憲兵が頭を一回きにした。日本人だった。
395	西 283		日本人:1名/1名 中国人:1名	日本人	顔を切られて血だらけになっている男が運車に運ばれ来たが、金魚屋の爺さんだったが、朝鮮人だと思っ たら、近所の人工だった。またある日の夜明には労働隊を着た番者が獲られていて、自分は朝鮮人ではなく中国 人だと泣いていた。乳飲み子を抱えた妻がそばで泣いていた。申談しているうちに身に寒気が走ってきた。
396	西 284		朝鮮人?:1名?	不明	金形上町の金美郎の機嫌に後ろ手に縛られた焼死体があった。たぶんその男は朝鮮人であろう。
397	西 285 新		朝鮮人	日本人	9月4日、三ノ輪で朝鮮人を殺した1名の犯人が坂本署の刑事に逮捕された。
398	西 286	上野訃辺	朝鮮人:数名	不明	2日夕方、御徒町を右に曲がって少し歩いたところでは運ばれたに朝鮮隊を着た数人の死体が折り重なっていた(上 野訃辺での産後について、公文書の記録には出てこない。表1史料No.138 以降)。
399	西 287		日本人:1名	日本人	2日夜6時頃、着陸機のまま飛び出して上野松坂屋で自警団に捕まり、いきなり火の中に投げ込まれそうになっ た。そこを放り出して本郷警察署の手前でも自警団に捕まり、警察署でも殴られたが、警察と看護婦の免状状 などを出したら、免状になった。
400	西 288		朝鮮人:2名/2名/2名/1名 日本人:1名/ 5名/4名/ 日本人:1名	軍隊・日本人	2日夕方、松坂屋前の風目薬子店の傍で、2名を群衆が殺害した。松坂屋裏で火が出た後、隊員が2名、2名 の朝鮮人らしき者が上野方面に駆けつけてきたので、群衆で日本と朝鮮人の2人が捕えられた。2日夜、上野停車場前で2名の朝鮮人 を警官が殺した。2日午後3時頃、上野陣屋の傍で日本人と朝鮮人の2人が発見され、殺された。6日午前11 時、上野美術学校と音楽学校の前で朝鮮人5人を発見、1人は殺された。2人は捕えられ、2人は送られた。6日夜 2時頃、護国隊署に運ばれたうち4人が動物園運送に連れて、2人が軍家により殺された。2人は送られた。
401	西 290		朝鮮人	日本人	2日夕方、上野の山では流言が起きて、血みみれの朝鮮人が叫び叫び回りを一代修羅隊を現出した。
402	西 290		不明	日本人	2日の夕方上野公園にましかかると、何人かがバスタブルで殺され、あるいは撲殺されたのを目撃した。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
403	西 290		朝鮮人	日本人	9月3日夜、上野の山で叫び声で目覚めますと、サーチライトに照らされてうろたえ、朝鮮人の姿が浮かんだ。血を見ることがもつた。4日夜、サーチライトに自警団員に警防を取られて引立てられる朝鮮人の姿が浮かんだ。
404	西 291		朝鮮人	不明	御使前手前の左側に朝鮮人だという容疑が道のそばに放棄されているのを見る。
405	西 291		朝鮮人	日本人	2日の午前中から、上野公園では朝鮮人を材木に縛り付けて燃やしている上野駅に投げこんだ。
406	西 292		朝鮮人:1名?	日本人	音楽学校のそばにあった交番のあたりで、朝鮮人を1人捕まえたと言った野郎が叫び殺した。
407	西 292 新		朝鮮人:2名ほか	軍隊・日本人	上野の交番前で捕まえたために打殺された。30名ばかりの朝鮮人の死体を見た。遊樂した七軒寺のお寺でも2人の朝鮮人が打ち殺されていた。浅草方面では軍隊に突殺され、在籍者も青年団員のために殺害された。
408	西 293		不明:1名	軍隊・日本人	3日朝、上野公園で群衆が1人の肥えた男を叩いていた。そのうち、警備の兵士が引き立てていった。
409	西 293		朝鮮人	日本人	科学博物館の裏手の線路のそばを流れる側には朝鮮人が飛び込み、回りには日本人ばかりが朝鮮人をめがけて石を投げていた。
410	西 294		朝鮮人:7~8名	警察・日本人	上野公園の小松宮御陵前の交番のとこに、7、8人の朝鮮人が縛られてごろがっていた。自警団が組織されて、警官と一緒に上野公園を回り回していった。
411	西 295		朝鮮人	日本人	漢が朝鮮人がいたと言いつくみんが梅を持って追いかけて、殴り殺されて上野の交番の前に並べられ、こもがけられていた。
412	西 295		日本人:1名?	日本人	自分の友人が車坂前で朝鮮人と間違えられ、又案により撲殺された。
413	西 296		朝鮮人:2名 中国人:1名	警察・日本人	3日朝、御使前の四つ角へ来ると、筋骨たましい大きな朝鮮人が息も絶え絶えに倒れていた。もう1人いたが、巡査が連れて行ったとのことだった。老松町に行く中国人が久彌に取り囲まれていた。巡査が来て解放されたが、その先でまた捕まったので、私が取り調べ済たと言った散らせてやった。
414	西 297		日本人:1名?	日本人	3日、池の端で浴着を巻いた男が青年たちに捕まった。
415	西 298		朝鮮人:2~3名	警察・日本人	在籍者と朝鮮人がけんかしていた。「3 センザの玉を松坂屋に投げたという、おまわりと在籍者人4、5人が2、3人の朝鮮人を連れていった。
416	西 298		朝鮮人・数人	日本人	4日、寛永寺の井戸に水を汲みに行ったら上野の山に属すると朝鮮人が数人、縛り殺され待つた人に連れ回されて、運ばれていった。
417	西 301	谷中	日本人:1名	警察	1日夜、谷中で自警団を結成。三河島で暴動との流言。2日夜に文華堂の友人が警察に検束された。社会主義者として暴行に遭うことを避けるため、保護検束されたとのことだった。
418	西 302		日本人:1名?	日本人	鷲谷谷中の土手伝いに銃声が聞こえた。重傷に日本人の木工が死んでいた。
419	西 302		日本人:1名	日本人	9月1日夜に流言、自警団を作り谷中墓地を襲撃した。(2日?)通路の向こうから来た人物を捕縛した。平瀬田中氏だった。
420	西 302		朝鮮人	日本人	2日の夕方、氷の手が近く出てきて寺の裏の墓地に引越した。差者が前の朝鮮人の茶室を叩き、殺さんばかりだった。
421	西 303		朝鮮人:1名?ほか	日本人	(2日夜、遊樂先の谷中の寺で)床下に朝鮮人が隠れているのを見つけたが、そとしておいて。墓地の方では在籍者から逃げた先で暴行を受けた。高等小學校1年生黒野の作文)。
422	西 304	橋場	朝鮮人?:1名	日本人	橋場では4、5日して刈ヶ谷の屍体があり、長蛇の列ができた。自警団が1人の老妻を連れ出して白鷺橋の方へ連れて行った。着衣から日本人でないことは子どもでもわかった。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
423	西 305		朝鮮人	日本人	朝鮮人が後ろ手に縛られ横田川に投げ込まれ馬船から藩口で殺した。腰ぎが切まってから日本堤警察署が犯人を問置場へ入れた。皆備で、髪を丸坊主にしり隠れたり、母親が口止めを頼んだりした。
中央区					
424	西 308		朝鮮人	警察・日本人	日本橋柳町の焼肴野原の交差点には、電柱先に針金を縛られた朝鮮人の遺体があった。大きな樽のものには朝鮮人の首が置かれた。高等警察による取調べもあった。
425	西 308		朝鮮人:10名	不明	兵庫区の愛に朝鮮人の遺体が10余り浮いていた。
426	西 308		朝鮮人	日本人	3日目の夕方、憲兵に捕まっていた朝鮮人が船通により燃えている糧秣倉庫の中に入れた。
427	西 308		朝鮮人:20名/李鍾彦	日本人	月島の飯場にて20人ほどの朝鮮人がいたが、そのうち19人は殺された。私の友人は日本軍が上手で生きのびた(李鍾彦)。
428	西 308		朝鮮人	日本人	1日夜、熊島の文書寮で男の人たちが朝鮮人が糧秣絞廻したと話していた。4日の昼、そとを覗くと血なまぐさい臭いがした。溝屋があつて、その中に朝鮮人がたくさん取込まれていた。その朝は血がはいっぱいだった(高等小學校1年児童の作文)。
429	西 310		不明 十数名	日本人	3日、数珠つなぎの十数人の男が問置場に引き立てられ、誰向された。うまく審えられないと折檻を加えた。
430	西 311		朝鮮人?	日本人	火事に遭われて誤難置に行った。それから何日が経ってから、竹槍で刺されて仰向けに死んでいる死骸を見た。通る人かみんな、あれは朝鮮人だと言っていた。
431	西 311		朝鮮人	警察	3日、芝浦では狸人のきり刺いだと聞いた。道徳に乗り月島水上警察に行ったら坐屋に朝鮮人が入っている、それから東京市役所に行った。「腹になるまらももて韓人のきり合つて、こわい、こわい所に4人で田舎に入った(高等小學校1年児童の作文)。
432	西 312		朝鮮人? 5~6名/10名	日本人	月島(島崎の土管材料置き場の小屋の中で一夜を迎えた翌日(2日)、5、6人の韓の男が針金を縛られて、作業衣の足跡十人がつぎながら歩いていた。石炭の焼け残りの火に投げ込まれた。岸壁では縛られた韓の男10人が海に投げ込まれていた。
433	西 312		朝鮮人	不明	備りに李場町公園のどこまで来るかと、縛られた朝鮮人が突き殺された。
434	西 312		朝鮮人	日本人	バク子打ちが大尉になった自警団が、月島、正義橋あたりまで朝鮮人を探しに行つては殺し歩いた。殺しているには旨のよい死体があった。
435	西 312		朝鮮人	日本人	(1日午後、銀座通りで)朝鮮人が日本刀で切られたと大人たちが話していた。
436	西 312		朝鮮人	軍隊・日本人	2日、月島三号地で、尾崎さんになってから尾崎さんや少年団の人たちがかなぼうを持つて朝鮮人遺体と違って朝鮮人を通いかけて回っていた(高等小學校1年生の作文)。
437	西 313		朝鮮人	日本人	2日朝から埋立地(月島)を中心に、朝鮮人暴動で騒いで斬り殺された姿を目の当たりにした。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容	
千代田区	438	旗田橋、靖国神社	朝鮮人	軍隊	震災が起きるとして、丸の内消防署に朝鮮人が集められた。上官から朝鮮問題が起きてくるから市庁長官に警戒せよと命令が下り、丸塚の軍本部(現陸軍本部)の空門に大砲を置き、強硬に市内の人たちを張りこめて朝鮮人軍部を拘らせた。制圧には全部憲兵署所を運いて、通行者の出入りに、姓名・生年月日・言葉による検査(教育勸励か軍人勸諭など)と持ち物検査。朝鮮人は必ず朝鮮のものを持っているから探し出して命を奪っていた。朝鮮人は交番でほとんど把握していたから、すぐに収容した。オマワリの連行中に殺した朝鮮婦落首を、警察が密がらて、朝鮮婦落首の遺體(逆頸)を鑑みに来た。	
			朝鮮人:3名	日本人	2日午前11時、3名の朝鮮人が桜塚社裏門から逃げ込んだ。選別民が2人を捕獲、1人を半殺しにして陸軍軍医学校に入れた。	
			朝鮮人	日本人	丸塚で同級生が自害団と一緒に朝鮮人を残虐な方法で殺し、警察が検挙したという記事を読んだ。	
	440	西316		朝鮮人	日本人	丸塚以上の遊樂地で朝鮮人4名が日本人に限り囲まれていた。
	441	西317		朝鮮人:4名	日本人	1日、丸塚で自害団にやられた野の審判を6日、飯田橋署で採し当てた(当時改進黨社員(比嘉善潮))。
	442	西317		日本人:比嘉善道/比嘉善潮	日本人	1日、丸塚で自害団にやられた野の審判を6日、飯田橋署で採し当てた(当時改進黨社員(比嘉善潮))。
	443	西318	大手町・丸の内・東京駅・皇居・日比谷公園(補遺も参照)	朝鮮人	警察	1日夜、警備庁から帰ってきた者の報告では、正力松太郎(当時、警備庁官房(主事))が記者に対して、朝鮮人がむちぼんを起しているという噂があるのを流すにつれてとあらちをふれ回ってくれ、とのことだった(本署資料 No.448も参照)。
	444	西319		朝鮮人	軍隊	1日夜、宮城前広場で朝鮮人が騒いでいると叫ぶ男の声。3日夜、日比谷公園の百鬼あたりで「止まれ」と号令、戒厳令である。軍人が抜刀して提灯の柄かりで群衆を見て、着が代を併せてみろと怒鳴っている。頃の声音が怖かしければ逮捕されるのだらう。
	445	西319		朝鮮人	日本人	3日、日比谷公園で夜明かした時、警察が流言を言っていた。公園から近くの海城中学に移り、自害団に入つた。その時には内務大臣の披露新平の車でも止めた。
	446	西321		不明	日本人	大手町で、追いかけたのは朝鮮人じゃなかったがこういう時でないと断れないから断ったという立ち話を聞いた。
	447	西321		不明	日本人	2日夜、女子学院跡の御料地に入つて夜を明かした時、警備がして監視が走つて行った。1人の書生が捕まえられたが、朝鮮人かどうかはわからなかった。
	448	西322		朝鮮人	警察	正力松太郎の回想。1日夜から波橋、中野、寺島警察署から護衛の計画、戒厳の犯人を捕まるとの指示があり、2日午後2時に警備警察署に朝鮮人検挙の報告があり直接取り調べたが、犯罪事実を証言しなかった。帰つてみると聖増子館の前に警戒隊が張られ、流言は事実だと確認した。しかし、本署資料No.443の回とは異なる。
	449	西324		不明 2~3名	軍隊	1日夜、丸の内電通橋のところに、電通橋の前に2、3人、縛られた男の姿があり、兵士が「言かんが…」と怒鳴っていた。
450	西325		朝鮮人 日本人	日本人	2日夜、日比谷公園で自害団に入れられそうになり、逃げた。芝公園への中で何度も男も男もたに誰何された。両手を縛られた朝鮮人らしい人もいた。	
451	西326		不明	日本人	(2日、日比谷公園で)彼には在野軍人が来て、教習勸諭を言えない道を運行していた。	
452	西328	神田・秋葉原	朝鮮人:1名	日本人	神原電通通りを歩いて美君集のかり集を遡ろうとするとき、1人の姫をやられた朝鮮人が美君集の人びとに囲まれていった。	
453	西329		朝鮮人:10名	日本人	佐久間町の川岸で10人ほどの朝鮮人が殺され、川の中や流れている中に「捨てた」という話を6日朝7時聞く。	

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
454	西 330		朝鮮人:1名	日本人	秋葉馬車では朝鮮人を2、3人使っていた。危ないからと警察室に入れた。1人が着い着いで半殺しの目にあつた。警察と一緒に朝鮮人を保護してもらつた。
455	西 331		朝鮮人:羅祥杓	日本人	下宿の窓から外を窺つたとき、神田で朝鮮人妊婦を刺したという青年たちの話が聞こえた(羅祥杓)。
456	西 333	永田町	不明:1名	軍隊:日本人	(永田町の團長室)を警備していた近衛第三連隊第一中隊に自警団員が1人の馬を刺つて連れてきた。赤坂憲兵隊が付き添っていた。自警団が「自分たちが処分する」というのを拒否し、憲兵隊が連れ去つた。
豊島区					
457	西 336		朝鮮人:14名?ほか 日本人:3名	軍隊:日本人	1日、朝鮮人と刑務所囚人の暴動の赤言。火災の天狗神社の下に隠れているとの密告で警備兵がこれを殺した。自警団も17名殺したが、そのうち3名は足算かつたことを言っている生徒で、主審者だから勝ててやつてしまふといふことになつた。
458	西 336		朝鮮人:李鐘庇ほか	軍隊:日本人	(緒ミヶ谷の眞善堂で2日)薬の前で口づけを数回して奪た。真夜中に自警団が来たが、隣組の青年団長が、学生だからとかがばつた。兵隊がやつてきて眞善堂刑所に連れていかれ、取り調べられた。翌3日に家に縛された(朝鮮人休養者、李鐘庇)。
459	西 337		朝鮮人	日本人	2日朝9時半頃、本所方面からの連署者と称する朝鮮人を自警団が池袋駅前で捕ふ。群衆が殺した。
460	西 337		日本人:石黒某	警察:日本人	社会主義者の石黒某が防ねてきて、連署警察署に拘留され警官から暴行され、家には自警団が来て妻子を同説だと罵倒、竹槍で縁の下まで付き回したと言つていた。
461	西 337		朝鮮人 日本人:加藤一未ほか	警察:日本人	9月5日午後、黒鷲警察署に友人の面会に行き、そのまま拘留された。警察の中庭が朝鮮人その他でいっぱいになっている。暴行を受けた。「戒厳令の効き目を知れと言われた(婦人の加藤一未)。
462	西 338		中国人:朝東才ほか/夏衍	日本人	私が東京にいた時代、一緒に日本語を勉強した韓戦出身の朝東才夫婦が火火の中を葉巻まで逃げてきて、暴徒に殺された(中国人作家の夏衍)
463	西 338		朝鮮人	日本人	築町ヶ谷の墓地で韓人がり)を引いて殺害していた。
464	西 339		朝鮮人	警察	1日夜、自宅に警察から朝鮮人や不良徒の隊舎に注意せよとの連絡があつた。翌日には巡警が自転車に乗つて、朝鮮人が放火するので注意せよと催促された。そのために在日朝鮮人が多勢殺された。
465	西 341		日本人	不明	(3日、黒鷲宮下町の)伯父の家に着き着いてから、流言が絶えこり、自警団が作り、中には間違えら不幸な目にあつた人もいたと聞かされた。
466	西 341		朝鮮人 日本人	日本人	(3日か4日)目白から早稲田へ下つたあたりで、朝鮮人が群衆に連れられて逃げてきた。かばつたところ、逆に棍棒で殴られた。
467	西 342		朝鮮人	日本人	(池袋で)2日の夕刻頃から子マが飛び始めた。夜になると警察線をはって通行人を監視し、朝鮮人らしいとわかるに懸る疑いが残まつた。私は何人かの朝鮮人の死体を見た。
468	西 343 新		朝鮮人:阪崎隆	日本人	4日、午後1時頃黒鷲宮下の團長室が樞子戸から着を出したところを統制された。犯人は直に攻撃された。表1史料 No.164も参照。
中野区					
469	西 346		日本人:井伏鱒二	日本人	7日夕、中央線の大久保駅まで歩いて行くところ、街道に暴動連中の警戒、大久保から先は線路伝いに歩いた。中野駅で野宿しようとする、日本人かどうかが答へられた(井伏鱒二)。
470	西 347		朝鮮人:2名	日本人	中野町で白刃を舞上げた者が朝鮮人2名を逃がしていた。

史料 No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
471	西 349		不明	日本人	1日夕刻、朝鮮人暴動と連多摩刑務所の脱走のニュースが入ってきた。目黒田が警戒、2日には上高田に入ると人が増えられた。
練馬区					
文京区					
472	西 354	大塚	朝鮮人、李生求ほか	警察・日本人	1日朝言引には支那が収録されているが、本表での収集範囲と一致しなかったのが収録していない。
473	西 355		日本人	日本人	2日、堀向ヶ谷を過ぎたところで青年たちには大塚警察署に連行された。半分死んだような人が入れられてくる。1週間くらいして聞かれたが、流石で聞かれなくなり次第に駆け込んだが、追いかけてきた青年や警官に殴られた(朝鮮人体験者の李生求)。
474	西 355		朝鮮人	日本人	(2日)本塚坂下町の福文の家に運り着いた。夜から井戸の蓋などをした。町では日本人の監視者がひどい目に会ったという。
475	西 356		朝鮮人、2~3名ほか	日本人	橋を直で染めた朝鮮人が縛られて林檎畑の上に座っていた。
476	西 358	小石川(補遺も参照)	日本人	日本人	1日の早夜中に朝鮮人の繰繰坂、取川の洗濯、2日、池袋へ行く途中、朝鮮人が積まっているのを見た。目白台の商店でも負傷している朝鮮人が3人、警察へ引きずられて行った。
477	西 359		日本人	日本人	(3日)青梅をめぐり午前5時護国寺門前を自動車で出奔、在郷軍人に止められて誰何された。都庁に出るまでに7、8回、都庁でも市内に勢を伸ばした警備隊に出会った。
478	西 359		不明	日本人	文京区弥生では、中国人や朝鮮人が被害を受けた。中国人学生寮では学生を外に出さず被害者を出さなかった。
479	西 362		朝鮮人、3~4名	日本人	2日、午後3時、音町で捕えられた人たちが警察署に次々と連れてこられるを目撃。
480	西 362		日本人	日本人	水道橋の赤坂坂を登ろうとしたところ、3、4人の朝鮮人学生が10人ばかりの群衆に暴行を受けていた。
481	西 364		日本人	日本人	(3日)小石川の氷菓肆の近くで若者が町内警防団員に囲まれ、竹竿町の交番、それから小石川警察署に連れて行かれた。
482	西 365		日本人、1名?	日本人	同僚を控しに上野へ行った。父が黒い髪を生かしていたという理由で棒を持った人たちに囲まれた。
483	西 368		朝鮮人 日本人	日本人	2日夕方、久世山から下町の延火を身下ろしているとき、若者が追いかけてきた青年が捕まっていたが、日本人だとわかり解放された。その後、重者は自警団と朝鮮人が喧嘩をしているかどろどろになる。
484	西 370		朝鮮人、5名	日本人	3日、知り合いと朝鮮人が爆竹を投げたかどろどろで議論した。その後立通隊の近くで自警団に誰何された。
485	西 375		朝鮮人、1名 日本人、1名	日本人	2日、荻荷谷では自警団が検問を始めた。3日には流言がますます伝わってきた。4日には百軒長屋の5人の朝鮮人などとするので議論。彼らは警備の手伝いをせよとされていたが、警察に行っても保護してもらった。
486	西 376		朝鮮人?、1名	日本人	2日祝明け、後楽園近くで、朝鮮人が数十人の男に棒で殴られた。私は止めに入ったが、二人とも平手番警察に連行され、警部に厳行を受けた。憲兵に解放された。
487	西 377		朝鮮人、9名	日本人	大塚警察署の前の堀向ヶ谷に、暴徒が放火棒を打っているのを民衆は当然に協力して鎮圧に努められよ、という風説がある。喜坂付近で、男が窓口を打ち込まれているのを見た。朝鮮人とかられたのだろうか。
488	西 379		日本人、1名	日本人	2日午後12時から午前5時までの町の準備をした。小石川高田にある朝川宗賢邸で朝鮮人が9人捕えられた。9月7日、葛園寺下で5、6人の人々に囲まれ、朝鮮人だろう、と詰め寄られた。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
489	西 381		朝鮮人 日本人	日本人	風呂屋の戸戸を嚴重に見張り、朝鮮人らしき人が通りかると叫んで、言葉が通じかると殴った。言葉が通じかると無差、日本人もまじってたたいた。(小石川湯ヶ谷で捕獲)。
490	西 384	根津・千駄木	朝鮮人:1名ほか 日本人	警察・日本人	朝鮮人、暴動等の流言が伝わり、さらに午後 5 時頃迄各署から、その後田谷署からも通知があったため駒込署内でも待ておけず、警察官や在留軍人等が町中に流言を流した。町は大騒ぎとなり、自警団を組織して見知らぬ連行人を不審質問、朝鮮人、日本人の被害が頻出した。4 日には巡査が保護した朝鮮人が若い者に襲われそうになるのを裏で、仲起に入った。
491	西 386	本郷・駒込(補遺も参照)	朝鮮人:1名 日本人:巡査	日本人	3 日、本郷 3 丁目で、突進した朝鮮人が巡査に腕を掴まれて歩いていける後ろから竹藪を待った 1 人が尻を蹴ったのをきっかけて、2 人とも暴行を受けた。
492	西 388		不明	日本人	(駒込神明町で)見張りを敷け、怪しとみれば殴り殺した。もう 3 人やつづけた。と自慢するのを見た。
493	西 388		不明	日本人	自警団に無差な暴行に襲われるものが続出した。
494	西 389		日本人、警官	日本人	3 日、駒込の町に自警団ができた。私の尾行の私権が朝鮮人に間違われて警察署に連れて行かれた。
495	西 390		朝鮮人	日本人	3 日、本郷で雑物を買い求めた店の店員が、青竹の枝が刺けるほど朝鮮人を殴ったと噂かど語っていた。連れて朝鮮人が千どもを連れて青田の中に入ると内会合の者が引き出して殺してしました。
496	西 391		日本人:1名?	日本人	本郷でも自警団を組織した。ある東北人が「千うず未」のために朝鮮人に襲われ、竹槍の横柱になるところだった。本郷土界の近所を歩いていたら、群衆に連れ回された朝鮮人が警察に逃げ込んだのを見た。
497	西 392		朝鮮人:5名	日本人	3 日、本郷の一富の養生が警護に努力し、朝鮮人 5 名を救い出した。
498	西 392		朝鮮人	警察	3 日目の朝、警備守の騎馬巡査が駆け上がってきて、六郷川を長んで隊隊交戦中で繰られるかも知れないから準備せよ、と怒鳴って駆けていった。
499	西 392		朝鮮人、崔祥允	日本人	婚約中の夫を連れて日本にきた。本郷区弓削の下宿で匿われた(朝鮮人係録者、崔祥允)。
500	西 393		朝鮮人、咸謙善ほか 中国人:1名 日本人:1~2名	警察・日本人	2 日、駒込警察に入られた。多警の韓国、誤って入れられた日本人 1、2 名、中国人 1 名がいた。翌朝家に帰った。教気の牧師に外出すると言われ、1 週間しつと申じした(朝鮮人係録者、咸謙善の慶親堂)。
501	西 398 新		朝鮮人 中国人	警察・日本人	本郷警備が検挙された団員の釈放を要求したという記事。朝鮮人を襲ったのは 1 日夕方に曙町交番の巡査や 2 日に警備守の自動車が流言を流し、9 月 4 日、森川町の中国人の負傷事件は、本郷署の巡査が保護したためであると報告(表 1 史料 No.173 あるいは 174 の事件か?)。千駄木その他の警官の非行も報告、罰せられている団員釈放を要求した。
港区					
502	西 402	赤坂・青山・六本木・警町	不明:1名?	日本人	3 日午後 11 時頃、六本木で包囲されている男を群衆が囲み、巡査が倒していた。群衆の 1 人が後ろから馬を竹槍で刺した。
503	西 403		朝鮮人:2名	軍隊	2 日夜、二ノ橋で朝鮮人 2 名を兵士が警中から銃剣で突き刺した。
504	西 410	麻布	朝鮮人	警察	朝鮮人が横断線を超えて代々木橋を連撃中、朝鮮人の少女が保護している等のヒラが怪しい所を交番に強いられていた。
505	西 414		朝鮮人	日本人	麻布の山下の交番前で、朝鮮人オムツに詰めて外から竹で突き刺していた。
506	西 416		不明	日本人	(2 日か、麻布高土間町で)自衛隊を作り集まった。怪しい者を殺害した。

関東大震災時の朝鮮人、中国人、日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録—東京の記録から

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
507	西 416		被害者・関係者 朝鮮人 日本人:1名?	日本人	白い着を着た男が院外団に斬られた。後で日本人だと分かった。外国人だという男女が縛られていた。夜になつて麻布に行く途中、水筒の手に囲まれた後で刃を刺された人が倒れていた。
508	西 420	芝・赤羽橋、一之橋(横濱七参照)	朝鮮人	日本人	2日昼過ぎからマが伝つてきた。(市川沿岸地帯で朝鮮人の女性が逃げ出した次の居場所を自警団に問い詰められ、捕致された。2日夜10時過ぎに女性が侮辱され、殺害された。
509	西 422		朝鮮人:1名?	日本人	麻布の一橋の裏の裏手に古川という川が流れていて、2日夕、その水を朝鮮人と思われ、人が自警団に連れられて送付されていた。
510	西 423		日本人:1名	日本人	(2日夜か?)芝山内にさしかかかったところで、棍棒や竹槍を持った若者たちに囲まれて縛向された。
511	西 425	白金台・三田・田町・芝浦	朝鮮人	日本人	4日、明治学院に寄った際に友人の家を叩いてみると一家族が避難していた。それは朝鮮人を得かっているためだった。
512	西 425		朝鮮人:金鐘在	日本人	(5日朝、帰国するために田町に行くと、まわりの5、6人の)会話の内容は、朝鮮人虐待や流言でもあきりであった(朝鮮人林修者、金鐘在)。
513	西 427	高輪・泉岳寺	朝鮮人:1名ほか	警察・不明	(3日)泉岳寺近くで朝鮮人1名が殺されて遺体をかけられていた。数珠つなぎにされた朝鮮人が運搬に引つ連れられているを目撃した。
目黒区					
514	西 430		朝鮮人	不明	下目黒に向かい、推刺園の向かいに住む人物の所に行く途中で、朝鮮人警察の現場にいき寄された。
515	西 430		日本人:1名	日本人	兄(日本人)が震災のスケッチをしているととって、姿が見えなくなつた。父親が林業試験場の前を通つて歩いていたら、殺害したつた若者数人に取り囲まれていた兄を発見、保護した。
516	西 431		日本人	日本人	9月2日晩、朝鮮人が権近町路所を遊蕩というので、大井神社、さらには下目黒小学校に遊蕩。夕日より反意を訴へた。会は結所を作り、自警団を組織した。尋問して発音の下手な者は「三国人に殺われ、危う斬られた(そうになつた?)者もあつた。
その他					
517	西 439	青梅・田無・八王子・白野・府中・面田(横濱七参照)	朝鮮人	警察 日本人	田無分署の警察署長は、男は棒とカマを持って、朝鮮人が来たら殺せという命令を出した。
518	西 441		朝鮮人	日本人	八王子の善心会が11月18日に鮮人慰安会を開催した。何らかの事件が発生したことが推測される。市内在住の朝鮮人も出席。
519	西 441		朝鮮人	日本人	5日朝(三山附りをして朝鮮人を勇つけた。警察官が旨を説得して朝鮮人を運化した。
520	西 441		不明:1名	軍隊・日本人	八王子駅で1人の青年が、武器を携帯する朝鮮人という容疑で車窓からホームに引きずり出された。その青年の後方にいた2人の兵士が実弾を込めた。
521	西 442		朝鮮人:5名	警察・日本人	5日、上溝方面より貨物自動車である朝鮮人が警官に送らかてきたが、八王子駅で群衆がこれを取り囲んだ。
522	西 443		朝鮮人	町長	そのための八王子署に引渡し、さらに山梨県下上事務所に送つた(『歴史文芸』)。
523	西 444		朝鮮人:1名	警察	3日、日野町長に各消防支組に「不逞朝鮮人警備」に万全を期すよう通達した。 (3日)、府中付近で朝鮮人らしいのが道を包帯で巻いて、尻から生血が滴るのを、巡査が護衛してついていた。

史料No.	頁	地域	被害者・関係者	加害者・関係者	内容
574	西 448		朝鮮人	警察	横浜の刑務所収容の囚人が? 日ほどどこに向かっているの情報を取って、金森の監理棟に在籍軍人や消防団が集められ、町田分署が陣頭に立ちつて指揮をとっていた。警察は朝鮮人暴動が真実だと信じていた。何人かが運行され、八王子警察署に送られた。
補遺					
575	西 44	浦安から東京への橋	朝鮮人、3名?	軍隊	駐在前の報告で、行徳から東京へ引く橋で軍隊が川へ飛び込むとパン、パンと殺してしまふ。駐在が見ただけで3人いた。当時の砲隊警備曹(重部武の回答)。
576	西 117	砂町	日本人?	日本人	1日の晩、砂町の学校に避難した。その晩から流言。その晩から流言。(日時不明)朝鮮人と間違えられた京体がいっけい積んであった。受け答えがでかなくてズボンがやられた。
577	西 187	早稲田	朝鮮人、方珠嬢	日本人	9月3、4、日夜火が静まった。4、5日寝つてから電柱に朝鮮人暴動等のビラが貼られ新聞社の発射で流言ビラが撒かれた。虚報情報は見ていない。自分は殺されたので外に出なかった。(朝鮮人(体験者)方珠嬢)
578	西 226	寺島	朝鮮人、1名	日本人	2日の晩、流言が流れすぐ自警団が作られた。家の近くの公園で一人の朝鮮人が殺された。黒くて見に行けなかった。
579	西 265	世田谷	不明	日本人	2日夕方、朝鮮人襲撃の報あり。「電車をやってくる曲者を10数名でうちめした」(松沢病院)。
530	西 321	早稲田	朝鮮人	軍隊	2日午後9、30 皇軍(ママ)警察より青山御所に朝鮮人襲撃。午後11、35 寛所衛兵司令に奉答使用の件 通報。午後12、05 軍隊より軽機関銃到着。午前0時45分より芝西守衛隊司令官の巡察、日比谷公園および二重橋広場の遊藝民の喧嘩基壇(意味守衛の解兵詰所)。
531	西 364	小石川	日本人	日本人	3日、汚れた学生服の私は暴動中の町内警備団員に囲まれ竹早町の交番で専門、朝鮮人扱いされ小石川警察署へ連れて行かれた。
532	西 394	本郷	朝鮮人	警察	3日、遊藝民の本朝喧嘩で降っていると巡査が来て〇〇がつけ火をしますから用心をしてくださいと言ったので皆用心した。
533	西 394	本郷	朝鮮人	警察	本郷駅に在任で旅行中。後で警察から聞いた話では、2日の晩には朝鮮人襲来とのことで大騒ぎ、警察官の中にも襲撃に警戒せよと恐れ回った者がいた。
534	西 396	本郷	朝鮮人	警察・日本人	本郷神明町で撮影。3日より朝鮮人に対する追害が始まる。私が信ずるところでは流石の巨匠のものは吾野作重。上野七郎で巡査と朝鮮人が紛れ込んだと右佐を往。「一社夫店控えると民衆が殺してしまふと思ふ吾野作重の日記)。
535	西 396 新	本郷	朝鮮人	警察・日本人	見た。2日夜には朝鮮人が集舞すれば正当防衛で騒動成変の喧嘩を執つてよいと警官に言われた。
536	西 418	芝公園	朝鮮人	警察	? 日警察長の命を受けて芝公園陣上寺、薬石警察署本部に署長を訪ね、仙台坂の朝鮮人が攻め込まぬよう陣門を開めよと本部命令を伝達。署長は一笑に付した。(当時警備団警備本部長)。
537	西 437	青荷	朝鮮人	日本人	2日になると不穏な情報により自警団が作られた。近隣の朝鮮人のアさんを含んで守った。

備考:

- ・本表は、西高雅夫『東京地区別1100の証言』(現代書館、2016年)に収録された記録を、下記の原則のもとに参照し、補めたものである。
- ・『座典』頁108の左の「西」(上流書)と一致しない場合もあること。数字はページ数(ここに参照し記載した資料の先頭頁の数字であり、記述と一致しない場合もある)を表す。
- ・同欄右に「新」が付いているものは、原表が新聞であることを表す。原則として犯人が検挙されるまで収録し、原則として犯人が検挙されるまで収録し、原表と一致しない場合は「新」を付した。
- ・『東京地区別1100の証言』には、朝鮮大学校編『開城の真相と悲劇 朝鮮に関する研究資料第九集』(1963年)をはじめとする史料集、震災当時の公文書や新聞その他の記録。

後に編纂された回顧録や慶人の手記、各地域で調査者が聞き取った証言などが網羅的に収録されているが、原則として『表1』に収録した以外の、民間人による記録のみを抜き出し、公文書については『表1』と重複するため外した。

- ・具体的に本表に収録したのは、殺傷事件や危害を加えられる前に助かったもの、匿われたという記録であり、流言に関するものはあまりに膨大なので外した。ただし、軍隊や警察が関与していると思われるものは積極的に取り上げた。
- ・加害者の経歴や容姿、判決についての新聞記事も本表に取り入れている（『表1』と重なるものもあり）。一方、実際に起こった事件の記事なのか流言記事なのかを判断できないこともあり、初期の報道については本表に取り入れなかった。
- ・1史料を1項目として本表に取り入れているので、1史料のなかに複数の事件が含まれているものがある。
- ・朝鮮人、中国人体験者の証言は上記の原則にかかわらず、積極的に収録した。
- ・「被害者」、「加害者」、「関係者」の中には民衆が明確に分類できないものがある。その場合は原則として不明として処理しているが、内容から田中がほぼ確実に特定できると判断したのものもある。区分の文書は田中にある。
- ・「内容」欄には概要を記したに過ぎない。本表を利用する際には、必ず『東京地区別1100の証言』の証言を確認されたい。
- ・最後の「補遺」には、脱稿後に表に組み入れられずと新たに判断したものを記した。